もくじ

3章 パソコンを楽しむ－インターネットとウイルス対策－ . 53

4章 大切なデータを失わないために－バックアップ－ 87

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

必ずお読みください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害 （＊ 1）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊ 2）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データ の消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』 オンラインマニュアル、できる dynabook への参照の場合 …《　》 オンラインマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊ 1 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊ 2 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■用語集について■

本書では、巻末に「用語集」を用意しています。わからない用語があるときなど、本書を読み進めるために活用してください。

参照 用語集 「付録 1 用語集」

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP　Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME　Microsoft® IME 2003 ／ナチュラル インプット 2003 を示します。

オンラインマニュアル
パソコン上で見ることのできる、電子マニュアルを示します。
デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックして起動します。

ドライブ　DVD スーパーマルチドライブを示します。

参照　詳細について
『活用ガイド 1 章 3 CD や DVD を使う』

USB メモリ同梱モデル
USB フラッシュメモリが同梱されているモデルを示します。

Office 搭載モデル　Microsoft® Office Personal Edition 2003 および Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

VX/7 シリーズ　dynabook VX/7 シリーズを示します。

TX/7 シリーズ　dynabook TX/7 シリーズを示します。

AX/7 シリーズ　dynabook AX/7 シリーズを示します。

TW/7 シリーズ　dynabook TW/7 シリーズを示します。

記載について

- 本書は次のモデルを対象としています。
  - ・dynabook VX/7 シリーズ
  - ・dynabook TX/7 シリーズ
  - ・dynabook AX/7 シリーズ
  - ・dynabook TW/7 シリーズ

  ご購入のモデルをご確認のうえ、該当する説明をお読みください。
  ご購入のモデルの仕様については、『dynabook ××××シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

dynabook XXXX シリーズをお使いのかたへ

このたびは『dynabook XXXX シリーズ』をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

【製品仕様】
本製品の仕様については、次のとおりです。

モデル名		XXXXXXXXXモデル
型番		XXXXXXXX
プロセッサ	CPU	Intel® Pentium® Mプロセッサ 740 動作周波数1.73GHz
BIOS ROM	ROM	1MB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b
メモリ	RAM（標準／最大）	512MB／2GB ＊1 ＊2
	ビデオRAM	最大128MB（メインメモリと共用）
表示機能	表示装置	15.4型ワイド WXGA 高色純度・高輝度Clear SuperView液晶 ＊3 ＊4
	グラフィック表示	横1280 x 縦800　1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵（光るタッチパッド機能搭載）
	マウス	USB光学式マウス同梱
	ワンタッチ操作ボタン等	文字縮小/拡大ボタン、オーディオボタン
補助記憶装置	2.5型ハードディスク	1台内蔵 100GB ＊5
	ドライブ　ソフトウェア占有量	約9.92GB

＊1 ビデオ RAM として最大 128MB を使用しています。
＊2 あらかじめ 1 スロットに 512MB のメモリが装着されています。2GB に拡張するためには、装着されている 512MB のメモリを取りはずし、1GB のメモリを 2 枚装着してください。取り付けることのできるメモリ容量は、2 つのスロットを合わせて最大 2GB までです。
＊3 TFT カラー液晶ディスプレイは、非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は 99.99% です）。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
＊4 Clear SuperView 液晶は特性上、外光が映りこむ場合があります。置き場所や角度を調整してご使用ください。輝度はお好みによって調整してご使用ください。
＊5 ハードディスクの容量は 1GB を 10 億バイトで算出しています。リカバリ領域として約 4.8GB を使用しています。D ドライブとして約 10GB 設定しています（FAT32 フォーマットで設定されています）。ソフトウェア占有量にはリカバリ領域の容量は含まれません。リカバリ領域、D ドライブ以外のすべての領域が NTFS で設定されています（C ドライブとして割当て）。

1　PMOOXXXXXXXX

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」と注記します。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD ／ DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。

- ［コントロールパネル］画面には「カテゴリ表示」と「クラシック表示」の２種類があり、本書では、「カテゴリ表示」に設定していることを前提に説明しています。「クラシック表示」になっている場合は、［カテゴリの表示に切り替える］をクリックすると、「カテゴリ表示」に切り替わります。

- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、OneNote、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Pentium、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- McAfee、VirusScan およびマカフィーは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「Yahoo!」は、Yahoo! Inc. の登録商標です。
- 「PC 引越ナビ」は東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Sonic RecordNow!は Sonic Solutions の登録商標です。
- 「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。
- infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- 「アイフィルター」は、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の３つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- インテル Pentium M プロセッサ
- モバイル インテル 915 Express チップセット・ファミリまたはインテル 855 チップセット・ファミリ
- インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション・ファミリ

インテル Centrino Duo モバイル・テクノロジについて

次の３つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino Duo モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- インテル Core Duo プロセッサ
- モバイル インテル 945 Express チップセット・ファミリ
- インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション・ファミリ

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温５～30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC あんしんサポート 0120-97-1048 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD ／ DVD からインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD ／ DVD からインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像は、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線 LAN の暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- 一部のアプリケーションでは初回起動時に使用許諾書が表示されます。アプリケーションを使用するには使用許諾書に同意してください。
  使用許諾書に同意すると、2 回目以降は使用許諾書の表示はされませんが、リカバリを行った場合には使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について 「6 章 1 お客様登録の手続き」

1 章

パソコンの準備－セットアップ－

この章では、パソコンの置き場所、Windowsのセットアップ、電源の切りかた／入れかたなど、お買い上げいただいてから実際に使い始めるまでの準備と、他のマニュアルについて説明しています。

1 使う前に確認する

1 箱を開けてはじめにやること

■同梱物の確認■

参照 東芝 PC あんしんサポート『東芝 PC サポートのご案内』

『同梱物一覧』を参照して、同梱物がそろっているか、確認してください。足りない物がある場合や、破損している物がある場合は、東芝 PC あんしんサポートに問い合わせてください。

■型番と製造番号を確認■

参照 記載位置について『活用ガイド 1 章 1 各部の名称』

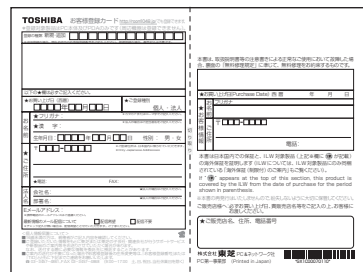
パソコン本体の裏側に型番と製造番号が記載されています。保証書に同じ番号が記載されていることを確認してください。番号が違う場合や、不備があった場合は、東芝 PC あんしんサポートに問い合わせてください。

2 忘れずに行ってください

■使用する前に■

本製品を使用する前に、必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』を読んでください。

■保証書は大切に保管■

故障やトラブルが起こった場合、保証書があれば保証期間中（保証期間については保証書を確認してください）は東芝の無償（無料）保守サービスが受けられます。
保証書に記載の内容を読んで、確認したあと、大切に保管してください。

■海外保証を受けるには■

海外で使用するときは「海外保証（制限付）」（ILW:International Limited Warranty）により、海外の所定の地域で、保証書に記載の無料修理規定および制限事項・確認事項の範囲内で修理サービスを利用できます。
利用方法、保証の詳細については『海外保証（制限付）のご案内』の記載内容および保証書に記載の無料修理規定を読んで、確認してください。

■ Product Key は大切に保管■

本製品には、パソコン用基本ソフト（OS）としてマイクロソフト社製の Windows が用意されています。 この Windows にそれぞれ割り当てられている管理番号を「Product Key」といいます。
Product Key はパソコン本体に張られているラベルに印刷されています。
このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

2 最適な場所で使う

1 パソコンに最適な環境とは

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、パソコンにも最適な環境とされています。

次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
  不安定な場所に置くと、パソコンが落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やケガにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
  暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
  磁石はもちろん、スピーカ、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなどもパソコンを使用するときははずすようにしましょう。
- 照明や日光があたる位置も考慮しましょう。
  照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
  ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
  携帯電話も無線通信装置の一種です。
- パソコンの通風孔をふさがないように置きましょう。
  通風孔はパソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさぐと、パソコン本体内部が高温となるため、本来の性能を発揮できない原因や故障の原因となります。

3 Windows を使えるようにする

ウィンドウズ

ー Windows セットアップー

初めて電源を入れたときは、Windows のセットアップを行う必要があります。
Windows のセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
セットアップには約 10 分かかります。

作業を始める前に、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

1 操作の流れ

パソコンの準備

- 電源コードとACアダプタを接続する
- 電源を入れる

Windowsの
セットアップ

- 使用許諾契約書に同意する
- コンピュータ保護の設定をする
- コンピュータの名前を入力する
- ユーザの名前を入力する
- セットアップ完了

お願い

セットアップをするときの注意

■周辺機器は接続しないでください■

- セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンタ、マウスなどの周辺機器や LAN ケーブルは接続しないでください。

■途中で電源を切らないでください■

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり修理が必要となることがあります。

■操作は時間をあけないでください■

- セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなる場合がありますが、故障ではありません。
  もう 1 度表示するには、SHIFT キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

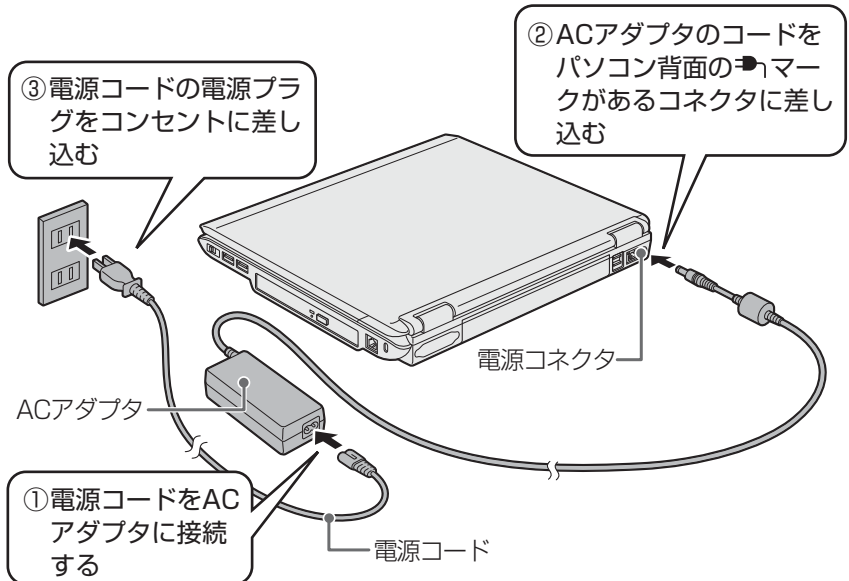
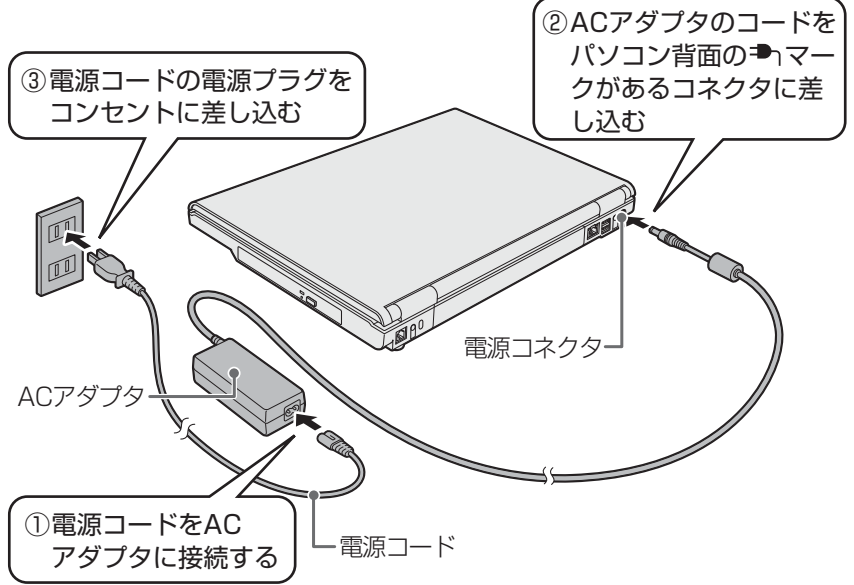
2　電源コードと AC アダプタを接続する

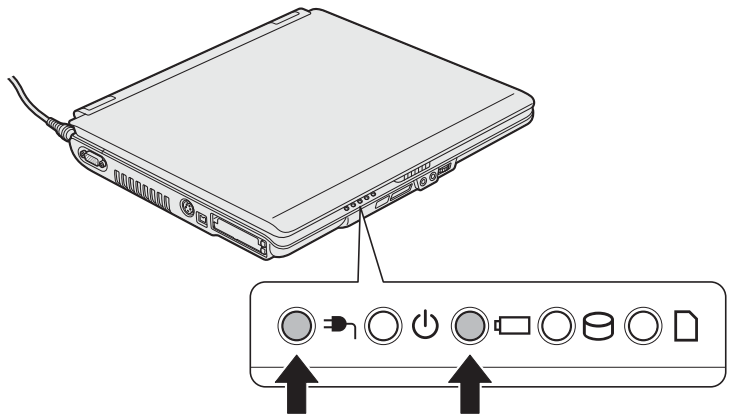
次の図の①→②→③の順で行ってください。

■ VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、AX/7 シリーズの場合■

■TW/7 シリーズの場合■

接続すると

DC IN LED の色はモデルによって異なります。
VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズは青色、AX シリーズは緑色です。

■VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、AX/7 シリーズの場合■

DC IN LED が点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

DC IN LED は緑色に点灯します。

■TW/7 シリーズの場合■

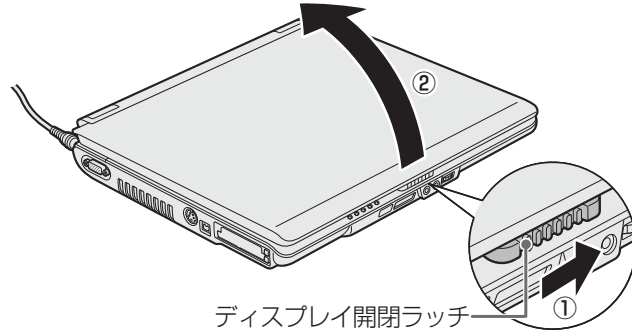
DC IN LED が点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

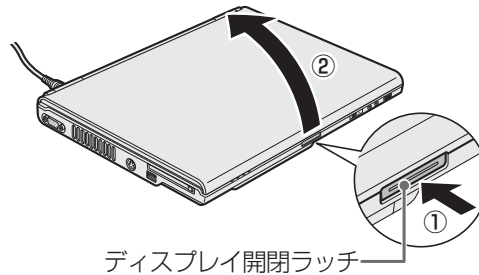
3 電源を入れる

1 パソコンのディスプレイを開ける

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ部分には触れないようにしてください。

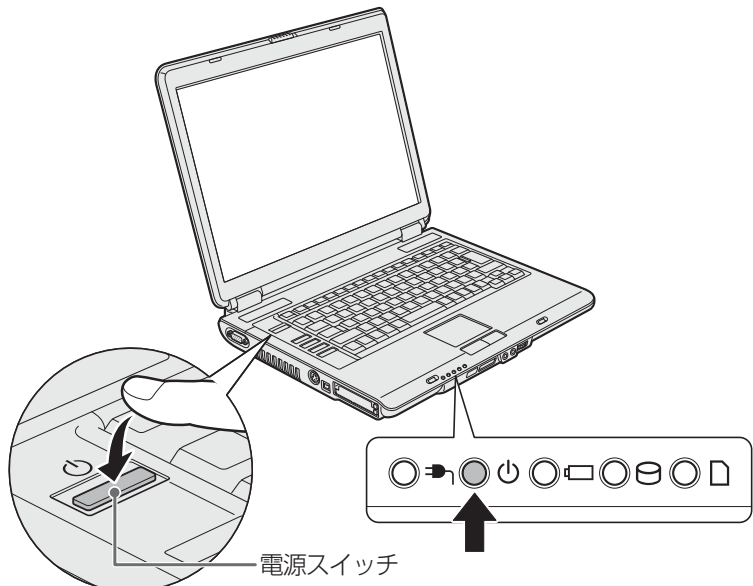
■VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、AX/7 シリーズの場合■

ディスプレイ開閉ラッチをスライドし、片手でパームレスト（キーボード手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

■TW/7 シリーズの場合■

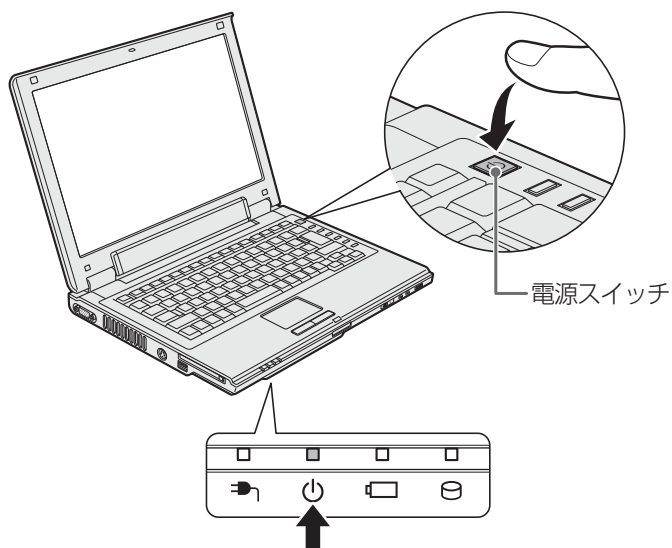
ディスプレイ開閉ラッチを押し、片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

2 電源スイッチを約 2 秒間押し、指を離す

指を離すと電源が入ります。

Power ⏻ LED が点灯するのを確認してください。
VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズは青色、AX シリーズは緑色に点灯します。

■VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、AX/7 シリーズの場合■

Power ⏻ LED が緑色に点灯するのを確認してください。

■TW/7 シリーズの場合■

これでパソコンの準備は完了です。
続いて Windows のセットアップに進みます。

4 Windows のセットアップ

パソコンが起動したら、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示され、音楽が流れます。

1 ［次へ］ボタンをクリックする

Windows のセットアップ中にわからないことがあれば、ヘルプを確認することができます。ヘルプを表示するには、画面右下の ? ボタンをクリックするか (F1)キーを押します。

［使用許諾契約］画面が表示されます。

■クリックとは■

タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。

目的の位置にポインタをあわせたあと、左ボタンを 1 回押す操作を「クリック」といいます。

詳しい使いかた『スタートガイド』

2

使用許諾契約書に同意

契約に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

［使用許諾契約］の内容を確認し、［同意します］の左にある ◯ をクリックする

契約書の続きを表示するには、契約書が表示されている画面の右側にある ▼ ボタンをクリックします。

◯ をクリックすると ◉ になります。

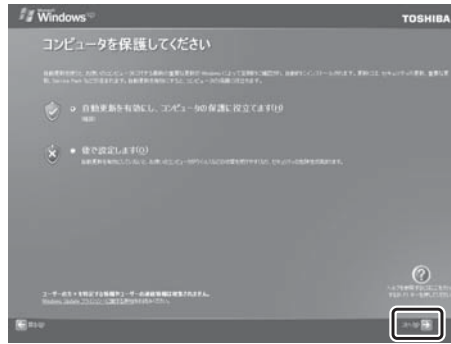
3

［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

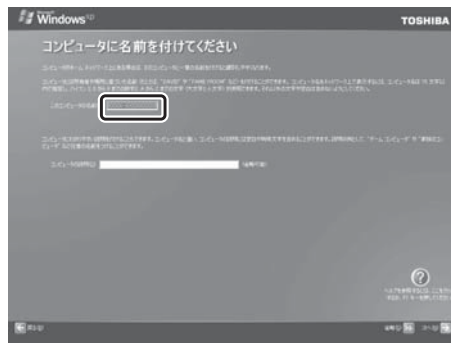
4

［自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます］の左にある ◯ をクリックする

5 ［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

6 コンピュータの名前を入力する

コンピュータの名前を入力する

- ネットワークを使用する場合は必ず入力してください。
- 半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

「｜」（カーソル）が表示されている位置から文字の入力ができます。

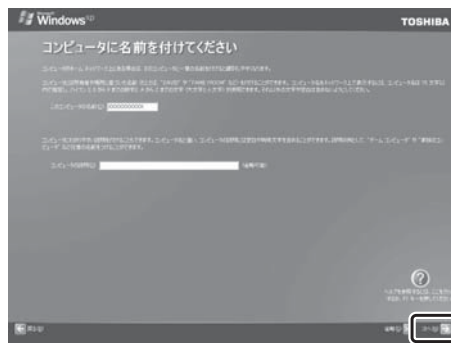
文字入力について
『アシストシート』

■入力を間違えたときは■

入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう 1 度入力しましょう。

- カーソルの左側の文字を削除する .... （BACKSPACE）キー
- カーソルの右側の文字を削除する .... （DEL）キー

カーソルを左右に動かすには、（←）キーまたは（→）キーを押します。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることもあります。
画面が表示される前に、［インターネット接続を確認しています］画面が表示されることがあります。この画面では何も操作する必要はありません。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。

8

［省略］ボタンをクリックする

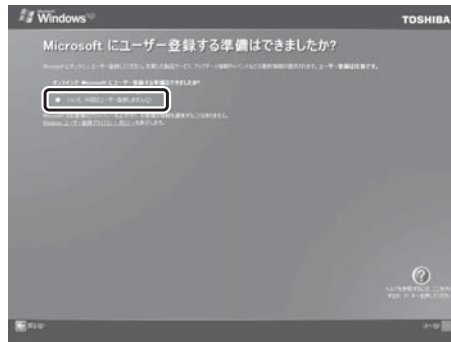
セットアップ完了後に行えるのでここでは省略します。

［Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。

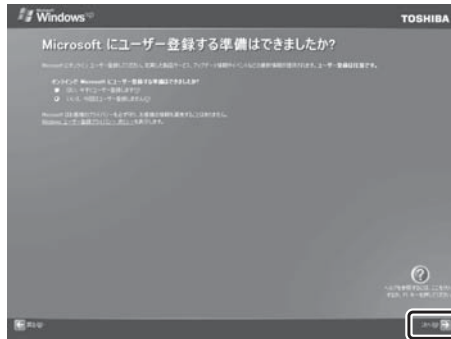
参照 インターネットの接続
「3章3 インターネット接続の設定をする」

［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示された場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。

9

［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある ◌ をクリックする

マイクロソフト社へのユーザ登録は、市販のWindows XPを購入された場合のみ必要ですので、ここでは省略します。

10

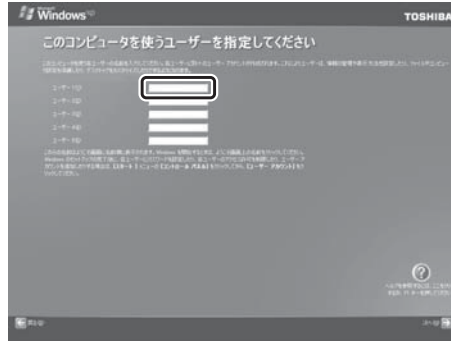
［次へ］ボタンをクリックする

［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

1章 パソコンの準備－セットアップ－

11

ユーザの名前を入力する

Windows XPでは複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力します。

[ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する

文字の入力方法、入力に使うキーの位置については、『アシストシート』に簡単な説明がありますので、参照してください。

「dynabook」と入力するときは、キーボードで(半/全)キーを押してから、Ⓓ Ⓨ Ⓝ Ⓐ Ⓑ Ⓞ Ⓞ Ⓚと押します。

■キーを押しても表示されないときは■

キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー] 欄に「|」が点滅しながら表示されていることを確認してください。「|」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。表示されていないときは、[ユーザー] 欄をクリックしてください。

12

[次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。

13

[完了] ボタンをクリックする

画面に砂時計「⌛」が表示されているときは、パソコンが考えたり作業をしている状態です。⌛が消えてから操作してください。

セットアップ完了

Windows のセットアップが終了するとパソコンの電源が切れ、しばらくすると自動的に電源が入ります。続いてパソコンの環境を整える操作を行います。

5 パソコンの環境を整える

パソコンの電源が入ると、パソコンを診断しているメッセージが表示されます。
診断が終了すると、［PC診断］画面が表示されます。

1 ［次へ］ボタンをクリックする

［dynabookランチャーのセットアップ］画面が表示されます。

2 ［次へ］ボタンをクリックする

「dynabookランチャー」がインストールされます。

3 ［完了］ボタンをクリックする

パソコンの環境設定が終了したメッセージが表示されます。

4 ［再起動］ボタンをクリックする

パソコンの電源が切れ、しばらくすると自動的に電源が入ります。

メモ

参照 ウイルスチェックソフトについて「3章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

- AX/7シリーズは、ご購入時の状態ではウイルスチェックソフトはインストールされていません。
  ウイルスチェックソフトのインストールは、パソコンの安全上、早めにインストールすることをおすすめします。使用中に定期的に表示される［ウイルスバスター2006を今すぐインストールしますか？］画面で［今すぐインストール］ボタンをクリックするか、「アプリケーションの再インストール」でインストールしてください。

日付と時刻の設定

購入後初めてセットアップを終えたあとは、次の手順で日付と時刻をあわせます。

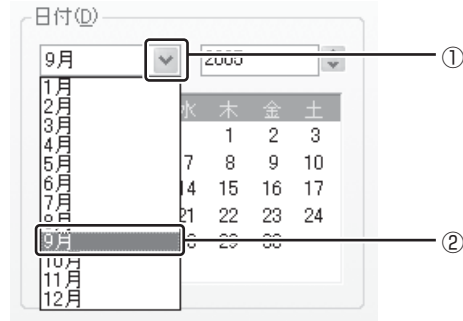
1 ［スタート］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［コントロールパネル］をクリックする

2 ［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリックする

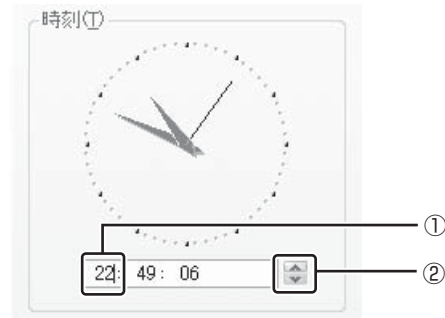
3 ［日付と時刻］をクリックする

［日付と時刻のプロパティ］画面が表示されます。

4 ［日付］欄の ▲ または ▼ をクリックして年号をあわせる

5 ［日付］欄の をクリックして①、表示された一覧から月をクリックする②

6 ［日付］欄のカレンダーで日をクリックする

7 ［時刻］欄の または をクリックして時刻をあわせる

変更する時／分／秒をクリックしてから①、 または をクリックします②。

8 ［OK］ボタンをクリックする

時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。日付は、時刻表示部分にポインタをあわせるとしばらくして表示されます。 正しく設定されているかどうか確認してください。

役立つ操作集

「dynabook ランチャー」とは

デスクトップ上に表示されている「dynabook ランチャー」は、パソコンを使ううえで便利なホームページへのアクセスやアプリケーションの起動が簡単に行えるアプリケーションです。

ドラッグアンドドロップすると、表示位置を移動できます。

Launcher

クリックすると、「dynabookランチャー」を終了します。

クリックすると、ネット上のプライベートスペース「cocoa」の説明画面が表示されます。

参照 cocoa≪オンラインマニュアル（検索）：cocoa≫

クリックすると、「できるdynabook」が起動します。

参照 できるdynabook「本章 目的にあわせて使い分ける」

クリックすると、dynabook.comのサポート情報のページの紹介が表示されます。

参照 サポート情報『活用ガイド 6章 1-② トラブル事例を見てみる』

クリックすると、遠隔支援サービスの説明画面が表示されます。

参照 遠隔支援サービス『活用ガイド 6章 1-③-2 遠隔支援サービス』

クリックすると、修理のお申し込みの説明画面が表示されます。

参照 『活用ガイド 6章 1-④ 修理に出す』

- 「dynabook ランチャー」を終了したあと、もう一度起動するには、次の手順で行います。
  ① ［スタート］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［dynabook ランチャー］をクリックする

インターネット接続の設定が済んでいる場合は、「cocoa」、「サポート情報」、「遠隔支援サービス」、「PC i-repair サービス」の説明画面上でポインタが の形の状態でクリックすると、該当のホームページへアクセスします。

4 電源を切る方法と入れる方法

① 電源を切る

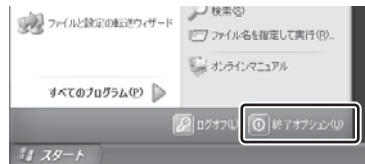
パソコンの電源を切るときは、まずWindowsを終了し、そのあとパソコン本体の電源を切ります。
電源を切る手順を覚えましょう。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い

電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED、ブリッジメディアLED、ディスクトレイLEDが点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ［終了オプション］をクリックする

［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。

3 ［電源を切る］をクリックする

Windowsを終了したあと、パソコン本体の電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LEDが消灯します。

お願い

電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動とは■

Windows を終了したあと、すぐにもう 1 度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

①［スタート］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［終了オプション］をクリックする

②［再起動］をクリックする

スタンバイ、休止状態については、《オンラインマニュアル（検索）: スタンバイ》、《オンラインマニュアル（検索）: 休止状態》を参照してください。

② 電源を入れる

Windows セットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

お願い

電源を入れる前に

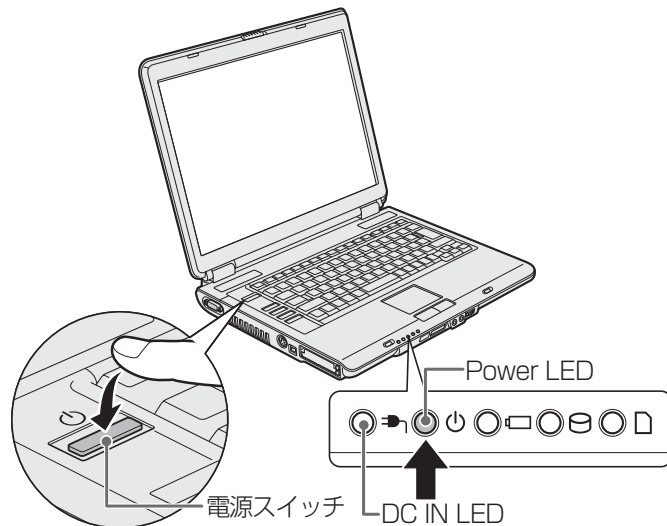
- 各スロットにメディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

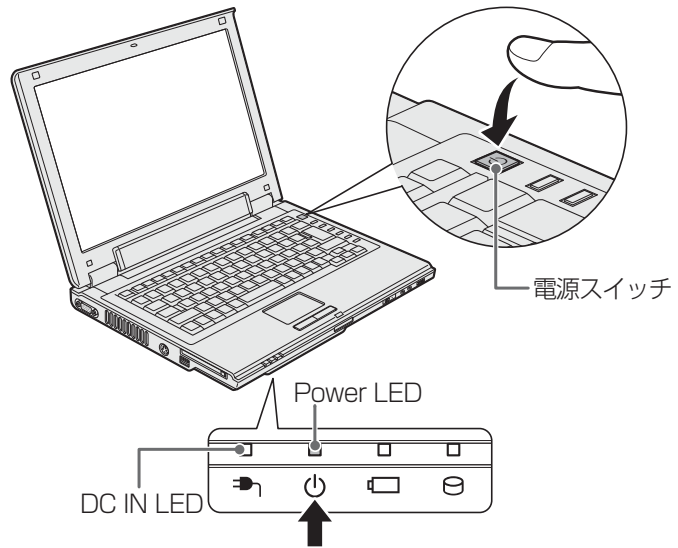
1

電源スイッチを約 2 秒押し、指を離す

指を離すと電源が入ります。

■ VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、AX/7 シリーズの場合■

Power ⏻ LED が点灯するのを確認してください。
VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズは青色、AX シリーズは緑色に点灯します。

Power LEDが緑色に点灯するのを確認してください。

■TW/7シリーズの場合■

Windowsが起動し、デスクトップ画面が表示されます。

電源に関する表示

電源の状態はシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態		パソコン本体の状態
DC IN LED	VX/7シリーズ TX/7シリーズ	青の点灯	ACアダプタを接続している
	TW/7シリーズ AX/7シリーズ	緑の点灯	
	消灯		ACアダプタを接続していない
Power LED	VX/7シリーズ TX/7シリーズ	青の点灯	電源ON
	TW/7シリーズ AX/7シリーズ	緑の点灯	
	オレンジの点滅		スタンバイ中
	消灯		電源OFF、休止状態

5 Windows のワンポイント

－パスワードの設定とヘルプ－

1 他の人に使われたくないとき

パソコンのシステム（Windows）に入るときのパスワードを設定することができます。
このパスワードのことを「Windows ログオンパスワード」と呼びます。
Windows ログオンパスワードを設定すると、パソコンの電源を入れたあとに、パスワードの入力を求められます。パスワードを知らない人はパソコンの中身を見ることができなくなるので、自分のフォルダやファイルの安全とプライバシーを保護することができます。

設定方法

Windows ログオンパスワードの設定方法について説明します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ユーザーアカウント］をクリックする

3 ［ ユーザーアカウント］をクリックする

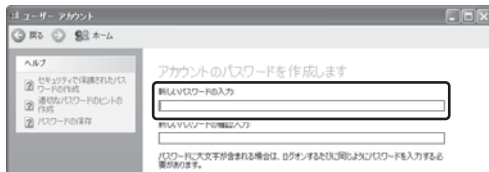
「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順４へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順５へ進んでください。

4 パスワードを設定するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする

ここでは「dynabook」をクリックします。

5 ［パスワードを作成する］をクリックする

［アカウントのパスワードを作成します］画面が表示されます。

6 ［新しいパスワードの入力］にパスワードを入力する

パスワードは半角英数字で、127 文字まで入力できますが、最も安全である 7 文字または 14 文字で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。入力した文字は「●●●●」で表示されます。

7 TAB キーを押す

カーソルが［新しいパスワードの確認入力］に移動します。

8 もう 1 度パスワードを入力する

必要であれば、パスワードを忘れたときにパスワードのヒントになる語句を［パスワードのヒントとして使う単語や語句の入力］欄に入力してください。

9 ［パスワードの作成］ボタンをクリックする

10 「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで［ファイルやフォルダを個人用にしますか？］画面が表示された場合は、［はい、個人用にします］ボタンをクリックする

ファイルやフォルダを共有する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。
パスワードが設定されました。

入力方法

Windows ログオンパスワードを設定すると、パソコンの電源を入れたときに、パスワード入力画面が表示されます。

1 ［設定したパスワードを入力し、→ ボタンをクリックする

パスワードは大文字、小文字が区別され、入力した文字は「●●●●」で表示されます。

パスワードの登録時に、パスワードのヒントを入力すると、→ ボタンの隣に ? ボタンが表示されます。
? ボタンをクリックすると、パスワードのヒントを表示できます。

パスワードが正しければ Windows の起動画面が表示されます。

Windowsログオンパスワードの変更

1　**[コントロールパネル]を開き、[ユーザーアカウント]をクリックする**

2　**[ユーザーアカウント]をクリックする**

「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順３へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順４へ進んでください。

3　**パスワードを変更するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする**

ここでは「dynabook」をクリックします。

4　**[パスワードを変更する]をクリックする**

「コンピュータの管理者アカウント」のユーザが、自分以外のユーザのパスワードを変更する場合は手順７へ進んでください。

5 ［現在のパスワードの入力］に現在設定しているパスワードを入力する

6 TAB キーを押す

7 変更したいパスワードを入力する

8 TAB キーを押す

9 もう１度変更したいパスワードを入力する

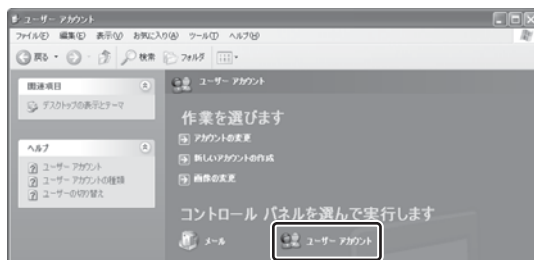
10 必要であれば、パスワードのヒントになる語句を［パスワードのヒントとして使う単語や語句の入力］欄に入力する

11 ［パスワードの変更］ボタンをクリックする

パスワードが変更されました。

Windows ログオンパスワードの削除

1 **［コントロールパネル］を開き、［ ユーザーアカウント］をクリックする**

2 **［ ユーザーアカウント］をクリックする**

「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順３へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順４へ進んでください。

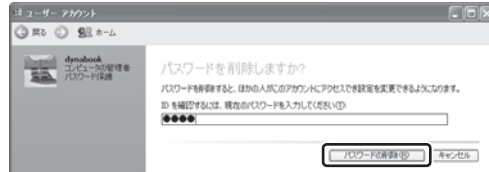
3 **パスワードを削除するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする**

ここでは「dynabook」をクリックします。

4 **［パスワードを削除する］をクリックする**

「コンピュータの管理者アカウント」のユーザが、自分以外のユーザのパスワードを削除する場合は手順６へ進んでください。

5 表示された画面で、現在設定されているパスワードを入力する

6 ［パスワードの削除］ボタンをクリックする

パスワードが削除されました。

パスワードを忘れたときのために

「パスワードリセットディスク」を作成しておくと、そのディスクでパソコンにアクセスし、新たにパスワードを作り直してログオンすることができます。
作成したパスワードリセットディスクは、安全な場所に保管してください。

参照 詳細について『ヘルプとサポートセンター』

■作成方法■

パスワードリセットディスクを作成するには、フォーマット済みのフロッピーディスクが必要です。また、あらかじめ外付けのフロッピーディスクドライブを準備しておいてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［ ユーザーアカウント］をクリックする
② ［ ユーザーアカウント］をクリックする
「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順③へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順④へ進んでください。
③ パスワードリセットディスクを作成するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする
④ ［関連した作業］の［パスワードを忘れないようにする］をクリックする
［パスワード ディスクの作成ウィザード］画面が表示されます。
⑤ 表示されるメッセージに従って操作する
パスワードリセットディスクが作成されました。

このディスクを作成するのは 1 回だけです。パスワードを変更するたびに作成し直す必要はありません。

■使用方法■

Windows のログオンパスワードを設定すると、パソコンの電源を入れたときに、パスワード入力画面が表示されます。

① 何も入力せずに ボタンをクリックする
② 表示されたメッセージの［パスワードリセットディスクを使う］をクリックする
［パスワードのリセット ウィザード］画面が表示されます。
③ 表示されるメッセージに従って操作する
新しいパスワードが設定され、パスワード入力画面が表示されます。
④ 新しいパスワードを入力し、 ボタンをクリックする
パスワードが正しければ、Windows の起動画面が表示されます。

その他のパスワード

Windows ログオンパスワードのほか、次のパスワードが用意されています。
設定方法は、《オンラインマニュアル》を確認してください。

■ユーザパスワード■

参照 《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》

パソコンの電源を入れたとき、または休止状態から復帰するときに使用します。ユーザパスワードの設定は、「東芝 HW セットアップ」を使用することをおすすめします。

■スーパーバイザパスワード■

参照 《オンラインマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。
スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、「東芝 HW セットアップ」を起動できないようにする、などの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
スーパーバイザパスワードの設定は、「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で行います。

2 わからない操作があったとき

Windows XP の使いかたについては、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
Windows XP の最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/
- Windows XP のアップデート
  URL：http://windowsupdate.microsoft.com/

Windows の基本操作については、《できる dynabook》をご覧ください。

3 ちょっと便利な補助機能

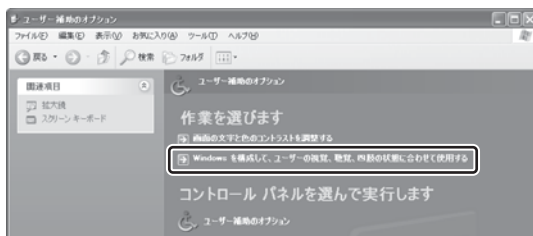
画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XP では［ユーザー補助の設定ウィザード］または［ユーザー補助のオプション］でユーザを補助します。

ユーザー補助の設定ウィザード

［ユーザー補助の設定ウィザード］では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。質問の回答にあわせ、自動的にパソコンを設定します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

3 ［Windows を構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する］をクリックする

ユーザー補助のオプション

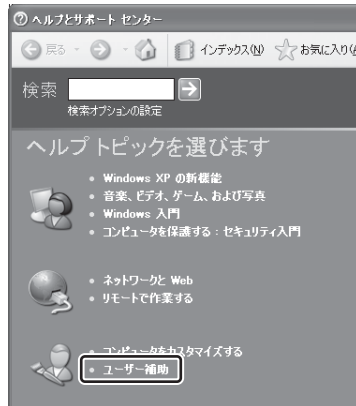
[ユーザー補助のオプション] では、直接設定することができます。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ユーザー補助のオプション] をクリックする

3 [ユーザー補助のオプション] をクリックする

詳しくは、[スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして『ヘルプとサポート センター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の [ユーザー補助] をクリックして、説明をお読みください。

1章 パソコンの準備ーセットアップー

目的にあわせて使い分ける

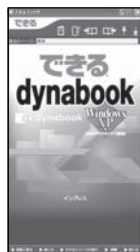
－マニュアル紹介－

Windows のセットアップが終わったら、いろいろな機能を楽しみましょう。本製品に用意されているやりたいこと別に記載された取扱説明書をご紹介します。

パソコンの基本的なことを知りたい／何から始めたらいいのかわからない

『スタートガイド』

『スタートガイド』は、パソコンのしくみや使いかたのポイントなどパソコン操作の基本的なことを紹介しています。

キーボードを触るのは初めて／インターネットやメールをやりたい

「できる dynabook」

「できる dynabook」は、文字入力やファイル操作、インターネット接続やメールの使いかたなど、パソコンの基本操作をレッスン形式で説明したオンラインマニュアルです。

使いかた「本節 1 「できる dynabook」で基本操作を習得する」

ローマ字での入力のしかたや入力に使うキーの位置など、文字入力のちょっとしたわからないことは「アシストシート」に載っています。

DVD が観たい／音楽 CD が聴きたい

『オーディオ＆ビジュアルガイド』

『オーディオ＆ビジュアルガイド』は、DVD をパソコンで見る方法や、自分の好きな曲を集めたオリジナル音楽 CD の作成方法など、オーディオ・ビジュアル機能の楽しみかたについて紹介しています。

プリンタをつなぎたい／ヘッドセットを使いたい／周辺機器を使いたい

『活用ガイド』

『活用ガイド』は、お使いのパソコンがどんな周辺機器が使えるか、接続のしかたや機器を使うときに気をつけていただきたいことについて説明しています。

どんなアプリケーションが搭載されているか知りたい

「オンラインマニュアル」

「オンラインマニュアル」は、お使いのパソコンに搭載されているアプリケーションとお問い合わせ先、ちょっと便利な使いかたを紹介しています。

参照 使いかた「本節 2 「オンラインマニュアル」を見る」

使いかたがわからないとき

「よくあるご質問」

「よくあるご質問」は、東芝PCあんしんサポートにご連絡いただく、特にお問い合わせの多い内容が載っているオンラインマニュアルです。このマニュアルに疑問の回答が載っているかもしれません。

参照 起動方法「本節 3 「よくあるご質問」を見る」

トラブル発生！そんなときは

『活用ガイド』と『東芝PCサポートのご案内』

『活用ガイド』ではトラブル解消法や基本的なQ&Aを紹介しています。
アプリケーションやプロバイダのお問い合わせ先も載っています。

『東芝PCサポートのご案内』では修理や訪問サポートの窓口など、サポート体制についてご紹介しています。

＊ ご購入の時期によって、表紙は異なることがあります。

1 「できる dynabook」で基本操作を習得する

本製品には、画面イメージを豊富に使い、操作の流れを再現したインプレス社の人気入門書：できるシリーズを内蔵しています。
1 レッスン完結を基本とし、すべての操作画面を掲載しているので、初心者でも迷わず、実際の操作を学ぶことができます。

できるシリーズのメリット

■わかりやすい構成■

「できる dynabook」では、次の内容を学習できます。

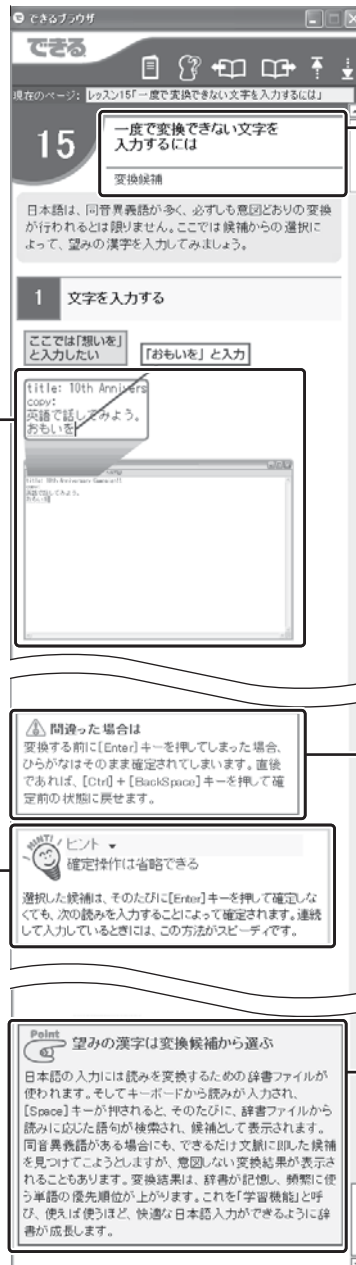
- 第 1 章　dynabook を使ってみよう
  Windows 画面の説明から電源の切りかたまで
- 第 2 章　アプリケーションを使おう
  文字入力やファイルの作成方法など
- 第 3 章　dynabook をインターネットにつなごう
  インターネットの接続／操作方法など
- 第 4 章　メールを使ってみよう
  「Outlook Express」を使ったメールの設定／操作方法など
- 第 5 章　ファイルの操作を覚えよう
  フォルダやファイルの整理のしかたなど
- 第 6 章　dynabook を使いやすくしよう
  デスクトップや時刻の変更方法など

レッスンの内容がわかりやすいタイトル
「やりたいこと」や「知りたいこと」がタイトルになっています。

操作に必要な画面をすべて掲載！
それぞれの手順で実際に表示される画面を掲載しています。

間違えたときのことをあらかじめ想定
操作を間違えたときの対処方法の解説があるので、スムーズに操作がすすめられます。

関連知識をHINT！として掲載！
レッスンに関したさまざまな機能を紹介したり、一歩進んだ使いこなしのテクニックまで解説します。
見出しをクリックすると内容が表示されます。

レッスンの要点を丁寧に解説！
操作の要点を解説しています。レッスンで解説している内容をより深く理解することで、確実に使いこなせるようになります。

「できる dynabook」では、一般的な操作方法を説明しています。
お使いの機種によっては実際の画面と異なる場合や、ご利用いただけないソフトウェアの内容が含まれますのでご了承ください。

■常に最前面表示■

「できる dynabook」の説明画面は、デスクトップ上の右側の最前面に表示されます。あとから起動した他のアプリケーションの画面で隠れることがないので、説明画面を見ながら操作をすすめることができます。

起動方法

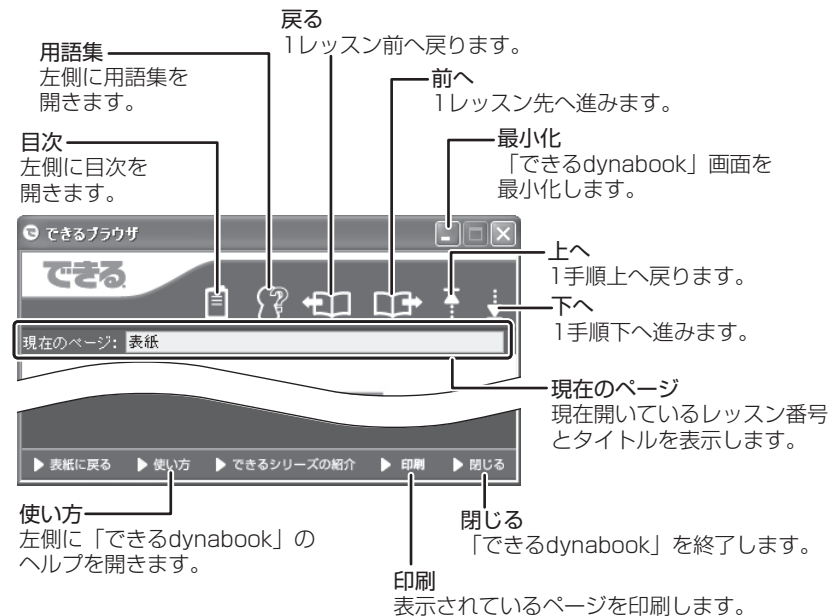
「できる dynabook」は次の手順で起動できます。

1 デスクトップ上の をクリックする

「できる dynabook」が起動します。

「dynabook ランチャー」を終了している場合は、デスクトップ上の［できる dynabook］アイコン（ ）をダブルクリックすると起動します。

■基本操作■

ダブルクリックとは
ポインタを目的の位置にあわせて、マウスやタッチパッドのボタンを２回続けて素早く押す（クリックする）操作のことです。

メモ 「できる dynabook」の表示について

- 「できる dynabook」は常に最前面に表示されるように設定されています。［最小化］ボタンをクリックすると、画面右下の通知領域にアイコンを残して表示が消えます。
  元の大きさに表示を戻すときは、通知領域のアイコンをクリックしてください。

2 「オンラインマニュアル」を見る

「オンラインマニュアル」では搭載されているアプリケーションや知っておくと便利な機能について紹介しています。

起動方法

1 **デスクトップ上の[オンラインマニュアル]アイコン（）をダブルクリックする**

「オンラインマニュアル」が起動します。

■基本操作■

「オンラインマニュアル」では、次の内容を説明しています。

- **パソコンの使いかた**
  本製品にプレインストールされているアプリケーションを使ってできること
- **知っておくと便利**
  省電力の設定や複数のキーを押して変更できる設定など、一歩進んだ操作やインタフェースの仕様など
- **困ったときは**
  操作に困ったときや動作がおかしいときの確認事項など
- **お問い合わせ先**
  アプリケーションやプロバイダのお問い合わせ先
- **用語集**
  一般にパソコンを使うときに画面や説明書に出てくる用語の説明

「オンラインマニュアル」の検索機能

本書の「参照 《オンラインマニュアル（検索）：XXXXX》」は「オンラインマニュアル」に説明があることを示しています。

1 **［検索］タブで「（検索）：」のあとに記載されているキーワードを入力する**

ここでは例として「ユーザパスワード」を入力します。

2 **［検索開始］ボタンをクリックする**

検索結果が［トピックの選択］欄に表示されます。

3 **項目をクリックし①、［表示］ボタンをクリックする②**

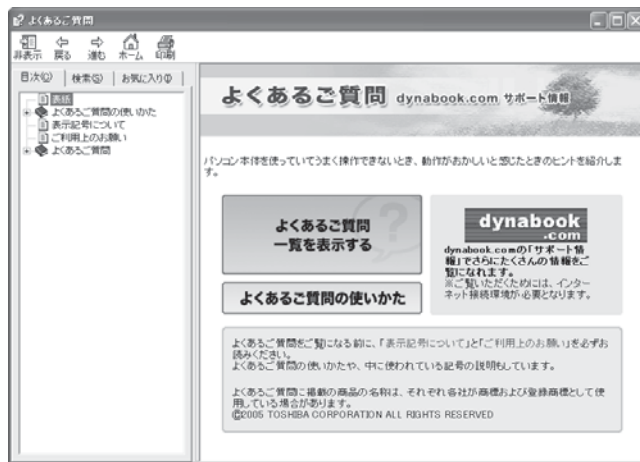
右側が選択した項目の説明ページに変わります。

3 「よくあるご質問」を見る

「東芝PCあんしんサポート」にご連絡いただいたお問い合わせのなかから、特に件数の多い内容を集めたオンラインマニュアルです。
「よくあるご質問」では、一般的な操作方法を説明しています。お使いの機種によっては実際の画面と異なる場合がありますのでご了承ください。

起動方法

1 デスクトップ上の[よくあるご質問]アイコン（）をダブルクリックする

「よくあるご質問」が起動します。
操作方法は「オンラインマニュアル」と同じです。

■「オンラインマニュアル」を起動している場合■

「オンラインマニュアル」を起動している場合は、「オンラインマニュアル」の表紙から「よくあるご質問」を起動することができます。

「よくあるご質問」では、カテゴリごとにQ&Aを紹介しています。

- インターネット
  メッセージが表示されて見たいホームページが表示できないときの対処方法など
- メール
  送受信ができないときやメッセージが表示されたときの対処方法など
- ネットワーク
  LAN使用時の設定変更に関する対処方法など
- Windows 一般操作
  アイコンのサイズ変更や検索機能など、一般的なWindows操作を手助けする操作など
- キーボード／日本語入力
  韓国語の入力やIMEツールバーに関する操作など
- タッチパッド／マウス
  タッチパッドの無効／有効を切り替える操作について
- 音声／映像
  音量の調節や音楽、DVDの再生に関する操作など
- DVD/CD　書込みと読込み
  DVDやCDへの書き込み方法やエラー時の対処方法など
- 印刷
  プリンタ使用時や印刷時のエラーの対処方法など
- パソコン本体
  時計が遅れるときの対処方法やバッテリの保管方法など

2章

買い替えのお客様へ

すでに使っていたパソコンの使用環境を、新しいパソコンでも引き続き利用するために必要な手順や、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC 引越ナビ」について説明します。

ウイルスチェックソフトについて「3章2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

参照 使用できる周辺機器について『活用ガイド』

1 パソコンを買い替えたときは

新しいパソコンに買い替えたかたは、今まで使っていたパソコンと同じように使うために使用環境を整えましょう。
Windows セットアップを完了してから行ってください。また、インターネット接続やアプリケーションのインストール、データの移行を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

周辺機器を使えるようにする

■仕様を確認する■

今まで使っていた周辺機器を本製品に接続して使用するには、次の点を確認してください。

① 本製品の仕様を確認する
本製品に、その周辺機器を使用するためのインタフェース（コネクタなど）が装備されているか、確認してください。

② Windows XP に対応している機器か確認する
『周辺機器に付属の説明書』や機器のメーカのホームページで、その周辺機器が対応しているシステムを確認してください。Windows XP に対応していない場合は、本製品に接続して使用できません。

■周辺機器を接続する■

① 今まで使っていたパソコンから周辺機器を取りはずす
『周辺機器に付属の説明書』や『パソコンに付属の説明書』を確認し、周辺機器を取りはずしてください。

② 本製品にドライバやソフトをインストールする
機器にCDなどでドライバが添付されている場合や、メーカのホームページでWindows XP 用のドライバがダウンロードできる場合は、本製品にダウンロードしてください。

③ 本製品に周辺機器を取り付ける
『活用ガイド』を確認し、周辺機器を取り付けてください。

周辺機器を取り付けたあと、動作に問題ないか確認してください。

メールやインターネットの設定をする

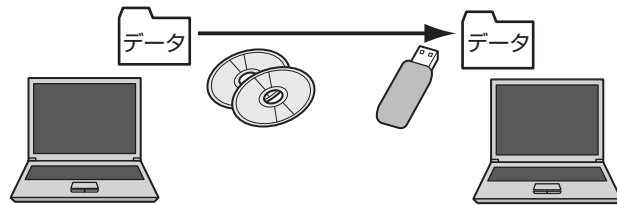
Windows セットアップが完了したばかりの状態では、メールやインターネットは使用できません。
プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを確認し、もう一度設定してください。

アプリケーションをインストールする

今まで使っていたパソコンで使用していたアプリケーションを引き続き使用する場合は、インストールします。
『アプリケーションに付属の説明書』やメーカのホームページで、そのアプリケーションが対応しているシステムを確認してください。
Windows XP に対応していない場合は、本製品では使用できません。また、本製品に最新版のアプリケーションが入っている場合は、本製品のアプリケーションを使用することをおすすめします。

① 今まで使っていたパソコンからアプリケーションをアンインストールする
② 本製品にインストールする
　アンインストール／インストール手順は、『アプリケーションに付属の取扱説明書』を確認してください。

データの移行をする

データの移行とは、パソコンに保存されているデータを CD ／ DVD などのメディアやネットワークを介して別のパソコンに移すことをさします。データのコピーともいいます。

今まで使っていたパソコンで作成したデータやフォルダを本製品にコピーします。データを作成したアプリケーションが本製品にインストールされていることを確認してください。

● 本製品には、「Internet Explorer」や「Outlook Express」の設定、作成したデータなどをまとめて移行できる「PC 引越ナビ」が用意されています。

2 前のパソコンのデータを移行する

－PC引越ナビ－

移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する■

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- システム＊1
  Windows 98 SE／Windows Me／Windows 2000／Windows XP Home Edition／Windows XP Professional

＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE ... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system日本語版
Windows Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system日本語版
Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system日本語版

お願い

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

■使用できるメディアや環境を確認する■

USBメモリ同梱モデルの場合、USBフラッシュメモリを使用すると便利です。USBフラッシュメモリの使いかたについては、『活用ガイド 3章 3-① USBフラッシュメモリを使う』を確認してください。

本製品で使用できるメディアについては、『活用ガイド』で確認してください。

設定・データの移行は、メディアを使用する方法と、ネットワーク（LAN）を使用する方法があります。
前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。
「PC引越ナビ」で使用できるメディアは次のとおりです。

- CD-R
- CD-RW
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
- USBフラッシュメモリ

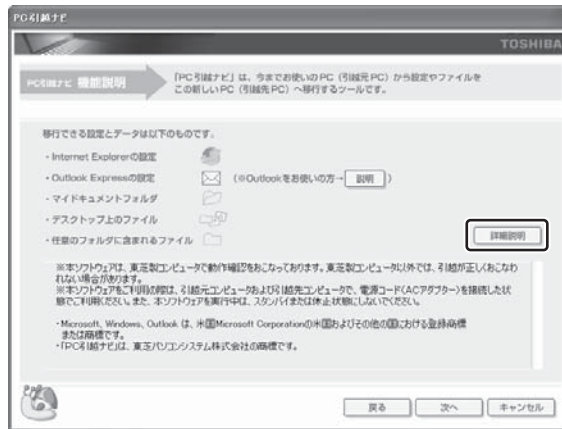
前のパソコンでどのメディアが使用できるかを確認し、移行に使用するメディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なメディアは、あらかじめフォーマットしておいてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のメディアを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC 引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

- Internet Explorer の設定
  ・［お気に入り］フォルダの設定
  ・ホームページ（スタートページ）の設定
  ・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定
- Outlook Express の設定
  初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
  ・アドレス帳の内容
  ・メールデータ
  ・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）
- ［マイドキュメント］フォルダに保存されているファイル
  「PC 引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［マイドキュメント］を移行できます。
- デスクトップ上のファイル
  「PC 引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。
- 任意のフォルダに含まれるファイル
  移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC 引越ナビ」の［詳細説明 引越可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC 引越ナビ　機能説明］画面で［詳細説明］ボタンをクリックすると表示されます。

お願い

操作にあたって

注意制限事項については、「アプリケーションの再インストール」の「「PC 引越ナビ」をインストールする前にお読みください（注意制限事項）。」を参照してください。

- 梱包プログラムが作成する梱包ファイルを分割される場合、分割される梱包ファイルの大きさは、最大 2GB となります。
- 「PC 引越ナビ」が梱包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大 65,000 ファイルです。
- 梱包プログラムから梱包ファイルを作成するには、作成される予定の梱包ファイルの大きさの約 2.3 倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

1 インストールする

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［東芝ユーティリティ］タブをクリックする

4 画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、画面右側の［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする

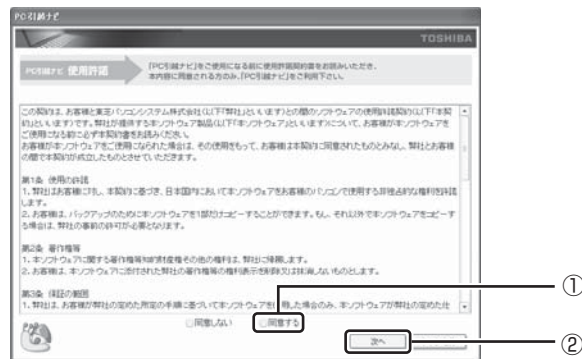
以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。
［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックする

［PC引越ナビ使用許諾］画面が表示されます。内容を確認してください。

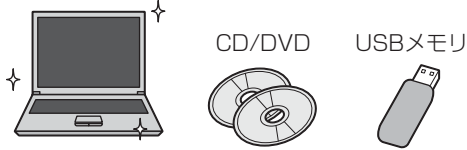
2 ［同意する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

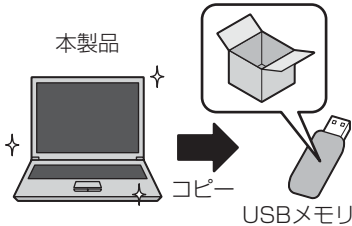
使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

「PC引越ナビ」が起動し、説明画面が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

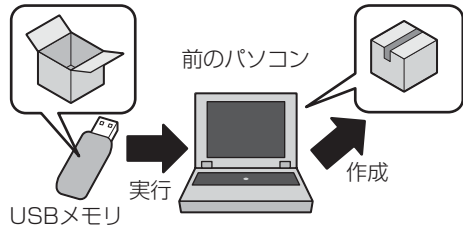
操作の流れ

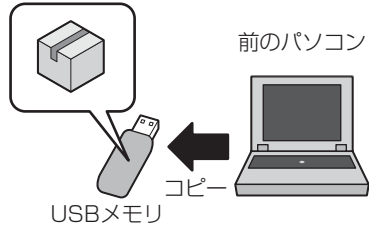
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

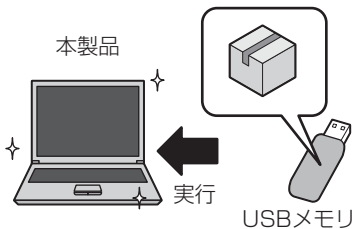
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「梱包プログラム」をコピーする

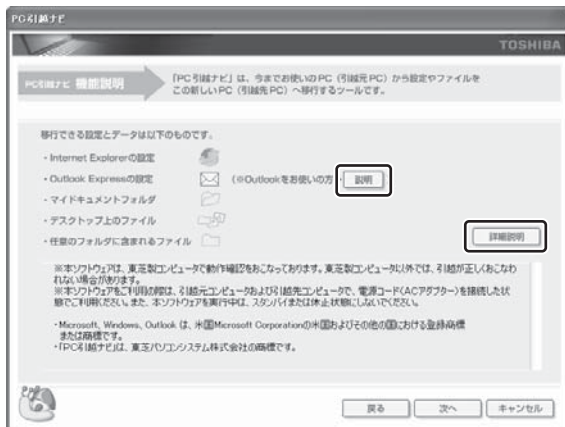
「梱包プログラム」は複数のファイルを一つにまとめるプログラムです。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。

「梱包プログラム」を実行する

コピーした「梱包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「梱包ファイル」）にまとめます。

「梱包ファイル」をコピーする

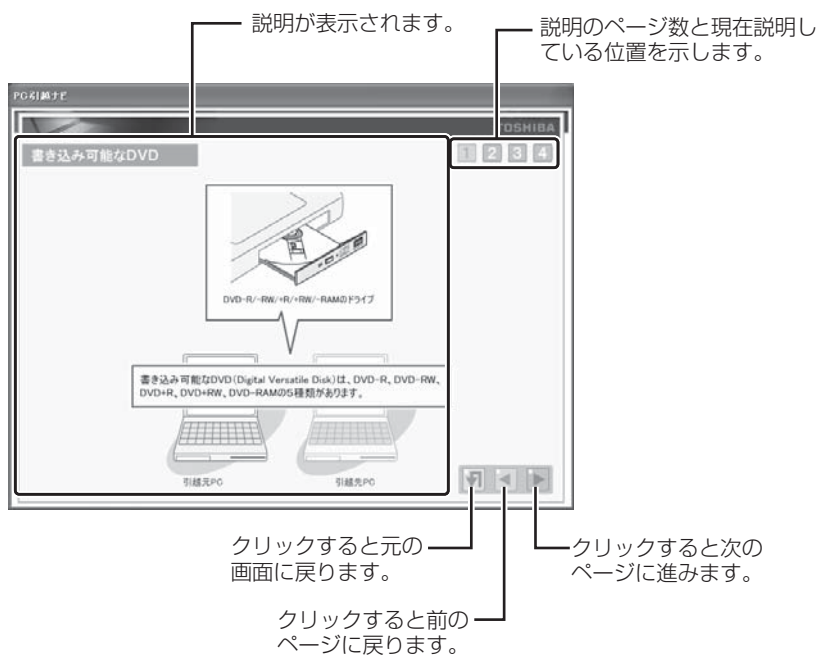
作成した「梱包ファイル」をコピーします。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。
移行するデータの容量によっては、「梱包ファイル」は複数作成されます。すべての「梱包ファイル」をコピーしてください。

「梱包ファイル」を開梱する

コピーした「梱包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

説明画面について

■操作に困ったとき■

［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

■説明画面の操作方法■

画面の構造は、次のとおりです。

3章

パソコンを楽しむ
－インターネットとウイルス対策－

コンピュータウイルス（パソコンにトラブルを発生させるプログラム）やハッカーやスパイウェアによる個人情報へのアクセスなど、インターネットを使っていると知らない間にトラブルが襲いかかってくるおそれがあります。
この章では、本製品に添付されているより安全なインターネット使用をサポートするソフトについて説明します。

1 インターネットとメールを使うには

ホームページの閲覧やメールのやり取りをするには、ケーブルの接続や設定が必要です。

準備

参照 簡単インターネット《オンラインマニュアル（検索）：簡単インターネット》

■プロバイダに加入する■

プロバイダとはインターネット接続の窓口となる会社のことです。会社によって使用料金やサービス内容が異なります。使用できるまでに数日かかる場合があります。
VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズは「簡単インターネット」からプロバイダを選んで加入手続きができます。

■ブラウザソフトを用意する■

標準装備の「Microsoft Internet Explorer」でホームページの閲覧ができます。

ブロードバンド接続の場合はLAN ケーブル、ダイヤルアップ接続の場合はモジュラーケーブルを使用します。

■ケーブルを用意する■

パソコンと電話回線や接続先のネットワーク機器をつなぐケーブルは本製品には同梱されていません。
インターネットの接続方法は何とおりかあり、使用するケーブルは接続方法によって異なりますので、接続方法にあったケーブルを購入してください。

■メールソフトを用意する■

標準装備の「Microsoft Outlook Express」でメールのやり取りができます。

参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

インターネットやメールに添付されたファイルでコンピュータウイルスに感染する場合があります。コンピュータウイルスに感染してしまうと、パソコンのデータが破壊され、パソコンが使用できなくなることがありますので、インターネット接続やメールのやり取りをする前に、ウイルスチェックソフトをインストールしてください。

使用するまでの流れ

パソコンにケーブルを接続する

インターネットへの接続方法によって接続するケーブルは異なります。
LANケーブルとモジュラーケーブルの接続方法は、『活用ガイド 2章 1 インターネットへ接続する』で紹介しています。
ケーブルのもう一方の接続先は、プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを確認してください。

参照 インターネット接続の設定「本章 3 インターネット接続の設定をする」

インターネットとメールの設定をする

インターネット接続の設定をするときは、プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを用意してください。
メールのやり取りをする場合は、メールソフトの設定も必要です。「Outlook Express」以外のメールソフトを使用する場合は、メールソフトの説明書やヘルプを確認してください。

参照 Outlook Expressの設定「本章 8 メールの設定をする」

設定完了

2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには

－ウイルス・インターネットセキュリティ－

本製品に用意されているウイルス・インターネットセキュリティ用のアプリケーションを紹介します。

お願い

使用するにあたって

- 「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」または「ウイルスバスター」と「ファイナルストッパー アンチスパイウェア」を併用してご使用になる場合は、「ファイナルストッパー アンチスパイウェア」の「リアルタイム侵入検出」を「無効」にしてください。「有効」にすると「マカフィー・ウイルススキャン」または「ウイルスバスター」が「ファイナルストッパー アンチスパイウェア」をスパイウェアとして検出することがあります(「ファイナルストッパー アンチスパイウェア」のインストール時の設定は「無効」になっています)。
- 「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォール」があらかじめインストールされていますが、ご使用になる場合には必ずウイルス定義ファイルの最新版をダウンロードしてください。
- ウイルス感染を防止するには、常に最新のウイルス定義ファイルをダウンロードしてください。
- 本製品に添付されている「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」、「ウイルスバスター」、「ファイナルストッパー アンチスパイウェア」は 90 日間の使用期限があります。使用期限が切れた後は、延長の申し込み、または市販品をご検討ください。
- 市販品や異なるウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールする場合は、すでにインストールしているウイルスチェックソフトをすべてアンインストールしてから行ってください。
- Windows ファイアウォールと、「マカフィー・パーソナルファイアウォール」のセキュリティ機能（ファイアウォールなど）が両方とも有効になっていると、アプリケーションなどが正常に動作しない場合があります。1 つのセキュリティ機能のみ有効にしてください。

参照 Windows ファイアウォールについて≪できる dynabok レッスン29（第３章）安全にインターネットを利用するには≫

参照 ウイルスチェックソフトのセキュリティ機能について
「マカフィーセキュリティセンター」のヘルプ
「ウイルスバスター」のヘルプ

役立つ操作集

Windows セキュリティセンターについて

「Windows セキュリティセンター」は、セキュリティの設定をしたり、Windows ファイアウォール、自動更新、ウイルスチェックソフトの状態をチェックしたりするなど、パソコンのセキュリティを向上させるお手伝いをします。

セキュリティセンターはパソコンが危険にさらされている場合、通知領域に アイコンなどで警告します。
詳しい操作方法は《できる dynabook レッスン 29（第３章）安全にインターネットを利用するには》を確認してください。

① おすすめのウイルスチェックソフト

パソコンのシステムの正常な動作を妨害するプログラムを、人間の病気の原因となるウイルスのような働きをすることから、「コンピュータウイルス」と呼んでいます。コンピュータウイルスは、インターネットや、メールに添付されたファイルを介してパソコン内部に入り込んでしまうことがあります。コンピュータウイルスがパソコンに入り込むことを「感染する」といいます。
コンピュータウイルスに感染してしまうと、パソコンのデータが破壊され、パソコンが使用できなくなることがあります。また、インターネットを経由して、コンピュータに残している個人情報にアクセスされる危険があります。コンピュータウイルスの感染や不正アクセスからパソコンを保護するため、インターネットへの接続やメールの送受信をする前に、ウイルスチェックソフトをインストールして、普段から定期的にコンピュータウイルスの検出を行うようにしてください。

ご購入のモデルによって、用意されているウイルスチェックソフトが異なります。

■ VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、TW/7 シリーズの場合■

参照 「本章 4 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策」

「マカフィー・ウイルススキャン（McAfee VirusScan）／マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス（McAfee Personal Firewall Plus）」が用意されています。
ブロードバンドを使用されているユーザにおすすめです。
面倒な設定なしで常に最新のセキュリティを全自動でダウンロードしますので、初心者のかたにも使いやすくなっています。

■ AX/7 シリーズの場合■

参照 「本章 5 ウイルスバスターによるウイルス対策」

「ウイルスバスター」が用意されています。
ウイルス対策はもちろん、クレジットカード番号やパスワードなどの個人情報の外部流出を防ぎ、迷惑メール、ハッカー／不正侵入対策も搭載。多機能なのに初心者にも使いやすい安心の総合セキュリティソフトウェアです。

② インターネットをより安全に楽しむために

インターネットを利用すると、パソコン画面上でいろいろな情報を見ることができ、大変便利です。しかし、インターネットは、いい情報だけを入手できるとは限りません。
また、情報を入手するだけでなく、知らない間にこちらのパソコンの情報を引き出されてしまうこともあります。
「よくない情報」の例として代表的なものは、「コンピュータウイルス」があります。こちらはウイルスチェックソフトで予防することができます。昨今気をつけたいものは、インターネットを通じて、こちらのパソコンの情報（氏名やパスワード、ホームページの閲覧履歴など）を第三者に流出する「スパイウェア」と、閲覧したユーザに悪影響を与えるおそれのある「有害サイト」です。

ウイルスチェックソフト、スパイウェア対策ソフト、有害サイト遮断ソフトを上手に使って、快適にインターネットを楽しみましょう。

メモ

参照 「本章 6 スパイウェアからパソコンを守る」
「本章 7 有害サイトへのアクセスを遮断する」

- 本製品には「スパイウェア」の予防と検出ができる「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」が用意されています。また、VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズにはユーザの年齢やホームページのカテゴリによって表示するサイトを制限できる「i- フィルター 4」も用意されています。

3 インターネット接続の設定をする

参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

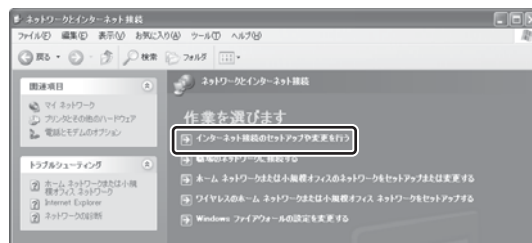
インターネットに接続するにはパソコンへの設定が必要です。
ここでは、「本章 1 インターネットとメールを使うには」の「準備」がすんだ状態で、ダイヤルアップ接続の設定をする方法を説明します。ブロードバンド接続をする場合は、《できる dynabook レッスン 24 ブロードバンドでインターネットに接続するには》を確認してください。

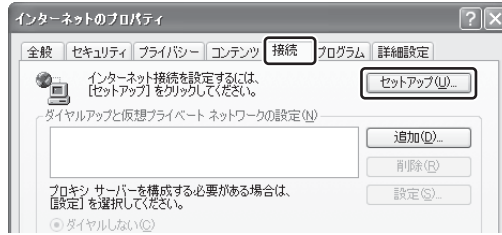
インターネット接続の設定を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

1 接続先の設定

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

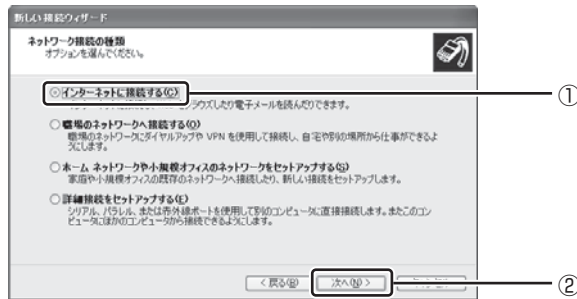
2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックする

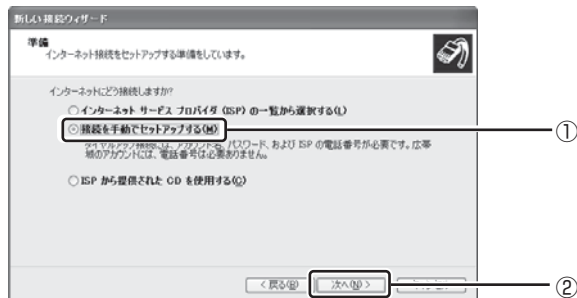
3 ［インターネット接続のセットアップや変更を行う］をクリックする

［インターネットのプロパティ］画面が表示されます。

4 ［接続］タブで［セットアップ］ボタンをクリックする

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

5 ［次へ］ボタンをクリックする

［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

6 ［インターネットに接続する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

7 ［接続を手動でセットアップする］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

すでにプロバイダと契約しているので、手動でのセットアップを選択します。

8

［ダイヤルアップ　モデムを使用して接続する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

9

プロバイダの名前を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

10

プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

11

ユーザ名とパスワードを入力する

［パスワードの確認入力］欄にもパスワードを入力してください。

プロバイダによって「ユーザ名」は「ユーザID」「ログインID」「接続アカウント」等、「パスワード」は「接続パスワード」「ログインパスワード」「認証パスワード」等名称が異なる場合があります。

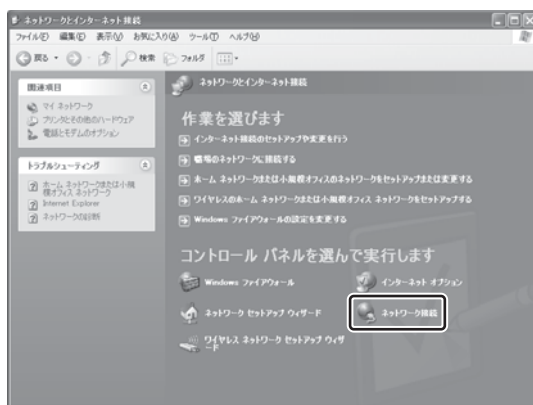
12　［次へ］ボタンをクリックする

13　［完了］ボタンをクリックする

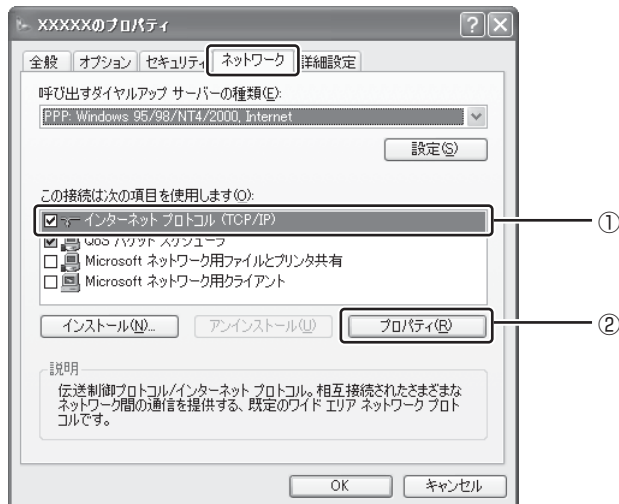
これで接続先の設定が完了です。続けて DNS サーバの設定を行います。

2　DNS サーバの設定

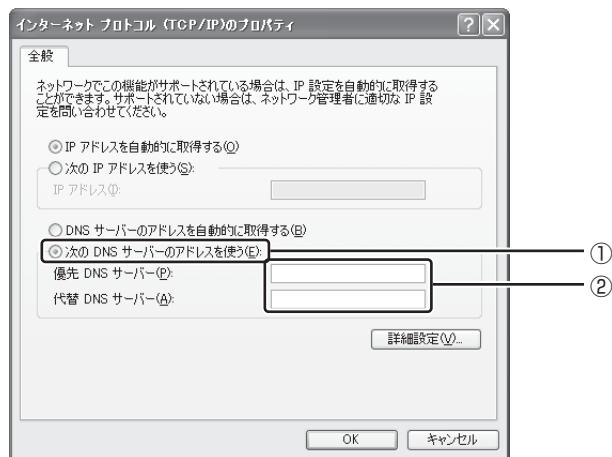
プロバイダによっては、この設定は必要ありません。
接続先の設定で［完了］ボタンをクリックすると、［ネットワークとインターネット接続］画面に戻ります。

1　［ネットワーク接続］をクリックする

2　作成した接続先をクリックし①、［この接続の設定を変更する］をクリックする②

接続先のプロパティ画面が表示されます。

3 ［ネットワーク］タブで［インターネットプロトコル（TCP/IP)］をクリックし①、［プロパティ］ボタンをクリックする②

［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］画面が表示されます。

4 ［次の DNS サーバーのアドレスを使う］をチェックし①、［優先 DNS サーバー］と［代替 DNS サーバー］にそれぞれ DNS サーバのアドレスを入力する②

プロバイダから送られてきた説明書にある DNS サーバのアドレスを入力してください。

5 ［OK］ボタンをクリックする

接続先のプロパティ画面に戻ります。

6 ［OK］ボタンをクリックする

［ネットワーク接続］画面に戻ります。

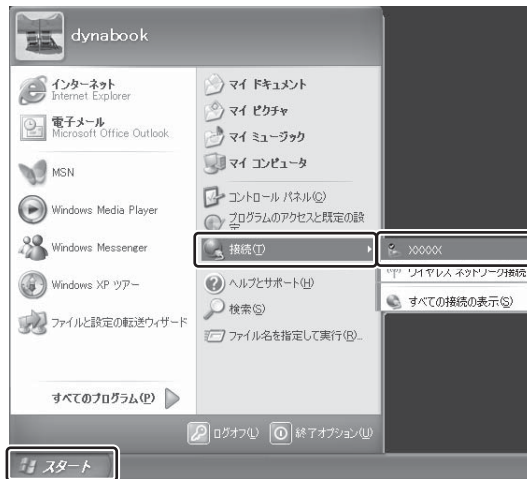
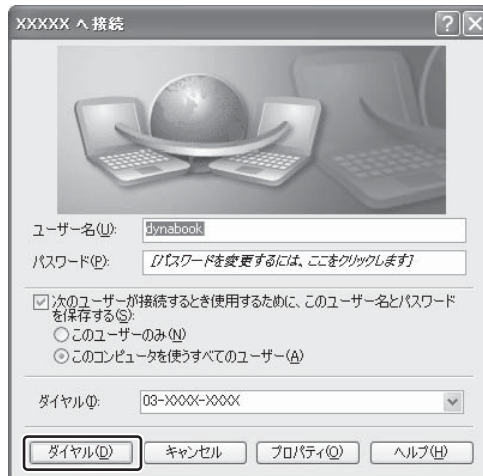
7 ［閉じる］ボタンをクリックする

これで設定は完了です。

3 インターネットに接続する

参照 モジュラーケーブルの接続『活用ガイド 2章 1-② ダイヤルアップで接続する』

設定した接続先を使ってインターネットに接続します。
あらかじめパソコンにモジュラーケーブルを接続してください。

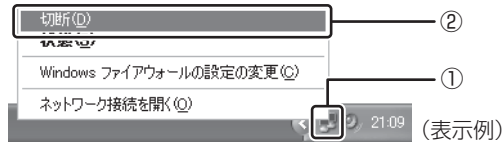
1 ［スタート］→［接続］→接続先の名前をクリックする

2 ［ダイヤル］ボタンをクリックする

インターネットに接続し、ユーザ名とパスワードの認証を自動的に行います。ユーザ名とパスワードが認証されると、通知領域に「接続しました」画面が表示されます。
「Internet Explorer」を起動すると、ホームページが表示されます。

メモ

- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、[Yahoo! ツールバー]画面が表示されます。
  「Yahoo! ツールバー」を利用する場合は、[利用規約を表示]ボタンをクリックし、利用規約を確認したあと[Yahoo! ツールバーを利用する]ボタンをクリックしてください。利用しない場合は、[利用しない]ボタンをクリックし、あとで「Yahoo! ツールバー」をアンインストールしてください。「Yahoo! ツールバー」については、≪オンラインマニュアル(検索):Yahoo! ツールバー≫を確認してください。

インターネット接続をやめるには

1 **通知領域の[接続]アイコンを右クリックし、表示されたメニューから[切断]をクリックする**

(表示例)

メモ

- 「Internet Explorer」を使用したホームページの閲覧方法など、詳しくは《できる dynabook 3章 dynabook をインターネットにつなごう》で紹介しています。

4 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策

＊ VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズ、TW/7 シリーズの場合

コンピュータウイルスの発見、駆除を行う「マカフィー・ウイルススキャン」と、インターネットからの不正なアクセスを防ぐ「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の２種類のアプリケーションで、コンピュータをインターネットの危険から保護します。
「マカフィー・ウイルススキャン」と「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」は、「マカフィー・セキュリティセンター（McAfee SecurityCenter）」で設定の変更や、状況の確認を行うことができます。

① ウイルスチェックの方法

「マカフィー・ウイルススキャン」または「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」をインストールすると、「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコンが通知領域に表示されるようになります。「マカフィー・セキュリティセンター」から、「マカフィー・ウイルススキャン」や「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の操作や起動、設定を変更することができます。

1 最新の対策法を手に入れる

参照 インターネットの接続について「本章 3 インターネット接続の設定をする」

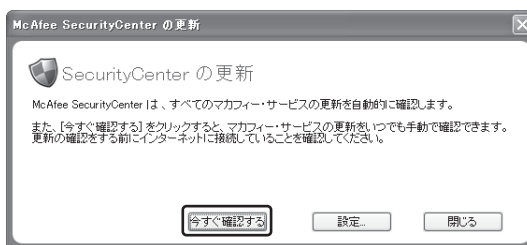
コンピュータウイルスは、次々と新しいものが出現します。ウイルスチェックは「マカフィー・サービス」の定義ファイルに基づいて行います。最新のコンピュータウイルスに対応できるように「マカフィー・サービス」をダウンロード／インストールする必要があります。
更新は自動で行えますが、ここでは手動で行う方法を説明します。
更新はインターネットに接続して行います。
あらかじめインターネットに接続できる準備をしてください。

1 通知領域の［McAfee SecurityCenter］アイコンをダブルクリックする

［McAfee SecurityCenter］画面が表示されます。

2　［更新］（ ）をクリックする

［McAfee SecurityCenter の更新］画面が表示されます。

3　［今すぐ確認する］ボタンをクリックする

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

2　ウイルスをチェックする

インストール直後は必ずウイルススキャンを行い、パソコン内のコンピュータウイルスの検索と駆除を行ってください。ウイルススキャンは、次の手順で行います。

1　［McAfee SecurityCenter］画面の［virusscan］タブをクリックする

2 ［コンピュータのウイルスをスキャンする］をクリックする

［McAfee VirusScan － ウイルスのスキャン］画面が表示されます。

3 ［スキャンする場所］でウイルススキャンしたい場所をクリックする

4 ［スキャン］ボタンをクリックする

ここでは、［マイ ドキュメント］フォルダをスキャンしています。

［McAfee VirusScan － スキャン中］画面に切り替わり、ウイルススキャンを開始します。
スキャンが終了し、ウイルスが発見されなかった場合、［VBScript：McAfee VirusScan － スキャンの概要］画面が表示されます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

6 ［閉じる］ボタンをクリックする

3 ソフトの状態を確認しよう

1 **通知領域の［McAfee SecurityCenter］アイコン（ M ）をダブルクリックする**

「マカフィー・ウイルススキャン」または「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」に問題がある場合は、アイコンが黒（ M ）で表示されます。「マカフィー・セキュリティセンター」を確認するか、更新を行ってください。

［McAfee SecurityCenter］画面が表示されます。

役立つ操作集

「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコン（ M ）

「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコンが通知領域に表示されていない場合は、［スタート］→［McAfee］→［McAfee SecurityCenter］をクリックしてください。

マカフィー・セキュリティセンターのヘルプの起動方法

1 **「マカフィー・セキュリティセンター」を起動後、［ヘルプ］（ ? ）をクリックする**

［McAfee SecurityCenter のヘルプ］が表示されます。

お願い

- コンピュータウイルスは、次々と新しい種類が出現します。更新を行って、常に最新のウイルス定義ファイルをダウンロードしておいてください。
  マカフィー・サービスの更新に関しては、マカフィー・セキュリティセンターのヘルプをご覧ください。
- 本製品に添付されている「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の有効期限は、使用開始から 90 日間です。
  期限が切れてしまうと、更新などの機能が使用できなくなり最新のウイルスに感染するおそれがあります。
  期限終了後は期限切れのメッセージが表示されますので、メッセージに従い、更新サービス（有償）をお申し込みいただくことでサービスを継続延長することができます。

マカフィー・ウイルススキャン/マカフィー・パーソナルファイアウォールプラスのお問い合わせ先

＊2005年11月現在の内容です。

マカフィー・カスタマーオペレーションセンター
（主に、ユーザ登録や更新時お支払い等、オペレーション上でのお問い合わせ。）

受付時間　：月曜～金曜 9:00～17:00（祝祭日除く）
TEL　：0570-030-088 （有料：ナビダイヤル）
E-mail　：http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/consumer_contact.asp
ホームページ：http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/

マカフィー・テクニカルサポートセンター
（主に、ソフトウェアご使用上の操作方法や不具合等技術的なお問い合わせ。）

受付時間　：年中無休 9:00～21:00
TEL　：0570-060-033 （有料：ナビダイヤル）
E-mail　：http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/contact.asp
ホームページ：http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/

5 ウイルスバスターによるウイルス対策

＊ AX/7 シリーズの場合

「ウイルスバスター」は、個人情報保護、コンピュータウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

① 使う前にインストール

お願い

インストールを行うにあたって

- 「ウイルスバスター」以外のウイルスチェックソフトをインストールしてある場合は、あらかじめアンインストールしてください。
- インストールしてすぐに、アップデート機能で最新のパターンファイルを必ずダウンロードしてください。
- アップデートはインターネットに接続して行いますので、あらかじめインターネットに接続する設定を行ってください。
  アップデートはインストール後も定期的に行い、常に最新のパターンファイルをダウンロードしてください。

参照 アップデートについて「本節 ②-1 最新の対策法を手に入れる」

インストールは、使用中に定期的に表示される［ウイルスバスター 2006 を今すぐインストールしますか？］画面で行うこともできますが、その画面が表示されていないときにインストールする場合は、次のように行ってください。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

3 **［アプリケーション］タブをクリックする**

4 **画面左側の［ウイルスバスター］をクリックし、［「ウイルスバスター」のセットアップ］をクリックする**

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。
［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

② ウイルスチェックの方法

1 最新の対策法を手に入れる

参照 インターネットの接続について「本章 3 インターネット接続の設定をする」

コンピュータウイルスは、次々と新しいものが出現します。ウイルスチェックは、パターンファイルに基づいて行いますので、最新のコンピュータウイルスに対応したパターンファイルを入手する必要があります。「ウイルスバスター」ではアップデート機能を使ってパターンを更新できます。
アップデートはインターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 ［アップデート開始］ボタンをクリックする

■オンラインユーザ登録■

アップデート機能を使用する場合は、オンラインユーザ登録が必要です。オンラインユーザ登録を行っていない場合は、［オンラインユーザ登録］画面が表示されます。「使用許諾契約書」の内容を確認し、［使用許諾契約に同意し、アップデート機能を有効にする］をクリックしてください。
続いて表示される画面の内容を確認し、指示に従ってください。

更新が必要なパターンファイルが見つかった場合は、アップデートの開始を確認する画面が表示されます。
［はい］ボタンをクリックしてください。
ファイルのダウンロードを開始し、続けてインストールします。

本製品に添付されている「ウイルスバスター」の使用期限は、使用開始から90日間です。

2　ウイルスをチェックする

ウイルスチェックは、パソコンで使用しているソフトウェアやファイルの動きを監視するリアルタイム検索や、定期的に検索を実行する予約検索もありますが、ここでは手動での検索を説明します。

1　通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（　）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2　［検索開始］ボタンをクリックする

検索を開始します。
ウイルスのチェックが終わると、結果画面が表示されます。
ウイルスが発見された場合、初期設定ではウイルスやファイルの種類によって適切な処理が実行されるように設定されています。特別な理由がない限り設定を変更しないで使用することをおすすめします。
詳しくは、ヘルプを確認してください。

3　［OK］ボタンをクリックする

4　［閉じる］ボタンをクリックする

③ ウイルス対策以外の機能

「ウイルスバスター」には、コンピュータウイルスを検出／除去する総合ウイルス対策機能のほかに次の機能があります。

- フィッシング詐欺対策
  偽装サイトに誘導し個人情報を盗み出すネット詐欺の代表格「フィッシング詐欺」から、あなたの大切な個人情報を守ります。
- スパイウェア検出＆削除
  あなたのコンピュータから個人情報を盗んだり、アダルト広告などをしつこくポップアップする迷惑なスパイウェアを、くまなく見つけて退治します。
- 個人情報漏えい防止
  クレジットカード番号や電話番号、パスワードなど、あなたの個人情報が盗まれないよう、しっかり監視します。
- 不正アクセス対策
  ネットワークからの不正侵入や攻撃を、パーソナルファイアウォールでがっちりブロックします。3つのセキュリティレベルから、最適な設定を選択できます。
- 迷惑／詐欺メールの判定
  メールボックスにあふれる大量の迷惑/詐欺メールを、独自の基準で判定して仕分け処理できます。Microsoft Outlook ／ Microsoft Outlook Express 用の便利な対策ツールも利用できます。
- 無線LAN＆ホームネットワーク管理
  ネットワークに不正侵入者がいないか監視します。また、複数台のウイルスバスターのリモート管理も可能です。
- 有害サイトのアクセス規制
  アダルトサイトや暴力サイトなど、お子さまの目に触れさせたくない有害サイトへのアクセスをブロックします。

参照 「本項 - ヘルプの起動」

詳細は「オンラインヘルプ」を参照してください。

1 現在の設定を確認したい

「ウイルスバスター」のセキュリティ状況が確認できます。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 画面左側の［現在の状況］（ 現在の状況 ）をクリックする

右側にセキュリティ状況が表示されます。

ヘルプの起動

1 ［ウイルスバスター］画面で［困ったときは］をクリックする

［スタート］→［すべてのプログラム］→［トレンドマイクロ ウイルスバスター］→［オンラインヘルプ］をクリックしても表示されます。

ウイルスバスターの問い合わせ先

＊2005 年 11 月現在の内容です。

トレンドマイクロ ウイルスバスターサービスセンター

受付時間　：9:30 ～ 17:30
TEL　：0570-008326
ホームページ　：http://www.trendmicro.co.jp/support/vb/index.asp

6 スパイウェアからパソコンを守る

ーファイナルストッパーアンチスパイウェアー

インターネットを通じてパソコンに入り込み、情報（氏名やパスワードなどの個人情報やホームページの閲覧履歴など）を第三者に転送する危険なプログラムのことを「スパイウェア」と呼びます。「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」を使って、スパイウェアの検出と削除、予防することができます。

お願い

使用期限について

● 本製品に添付されている「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」は、初回起動時より 90 日間の使用期限があります。期限が切れてしまうとスパイウェアの駆除と予防ができなくなります。使用期限が切れたあとも継続して使用するためには、インターネットで購入手続きをし、アクティベーション（ライセンス認証）をしてください。購入手続きは、［今すぐ購入］ボタンをクリックして表示される画面で行います。

1 インストールする

「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 デスクトップ上の［AOS アンチスパイ］アイコン（ ）をダブルクリックする

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

［使用許諾契約］画面では、内容を確認し、［使用許諾契約の全条項に同意します］をチェック（ ）してください。契約に同意しなければ、「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」を使用することはできません。

2 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［ファイナルストッパー］→［ファイナルストッパー］をクリックする

「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」が起動し、［ファイナルストッパーセキュリティセンター］画面が表示されます。

3 最新の対策法を手に入れる

インターネットの接続について
「本章 3 インターネット接続の設定をする」

スパイウェアは、次々と新しいものが出現します。スパイウェアの検出は、定義ファイルに基づいて行いますので、最新のスパイウェアに対応した定義ファイルを入手する必要があります。
定義ファイルの更新は、インターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

メモ

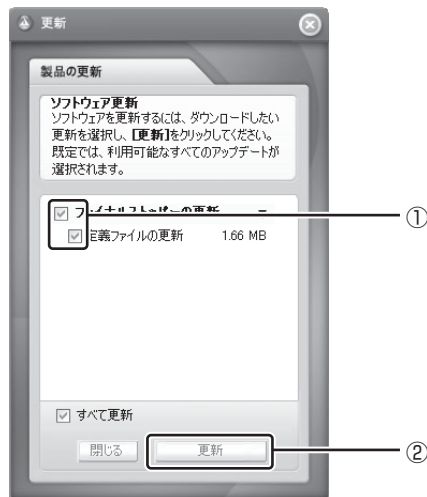
- 操作の途中で、インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

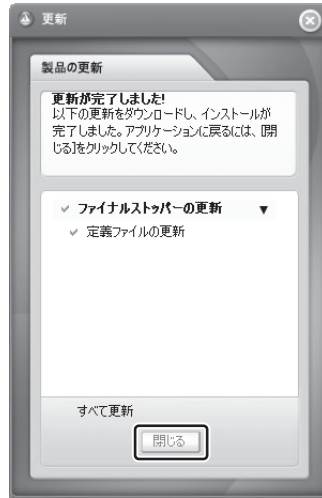
1 「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」を起動する

2 ［更新］ボタン（ ）をクリックする

［更新］画面が表示されます。

3 ダウンロードしたい項目をチェックし①、［更新］ボタンをクリックする②

すでに最新の定義ファイルがインストールされている場合は、「ご利用可能な更新は現在ありません。」と表示されます。その場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。

チェックしたファイルをダウンロードし、自動的にインストールします。ファイルの更新が終わると、［更新が完了しました！］と表示されます。

4 ［閉じる］ボタンをクリックする

4 スパイウェアを検出する

スパイウェアの検出は、次の手順で行います。

1 「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」を起動する

［ファイナルストッパーセキュリティセンター］画面が表示されます。

2 ［ファイナルストッパーセキュリティセンター］画面左上の［スパイウェア］アイコンをクリックする

■初めて［スパイウェア］アイコンをクリックしたとき■

［設定ウィザード］画面が表示されます。
画面の指示に従って、検出（スキャン）設定を行ってください。

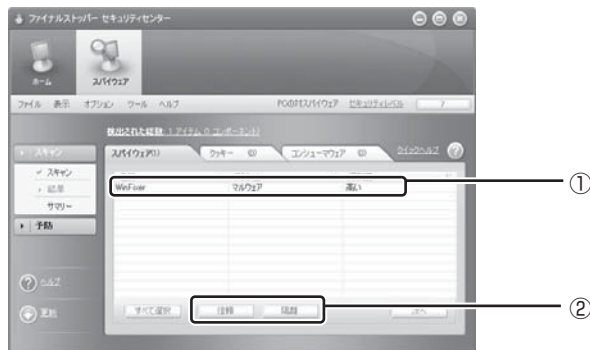
検出設定は、あとから変更することもできます。
［ファイナルストッパーセキュリティセンター］画面でメニューバーの［ツール］→［設定ウィザード］をクリックしてください。

3 ［今すぐスキャン］ボタンをクリックする

スパイウェアの検出を開始します。
検出が完了すると結果画面が表示されます。

5 検出されたファイルを分類する

検出されたファイルを分類します。分類せずに［ファイナルストッパーセキュリティセンター］画面を閉じると、スパイウェアは除去されず、次に検出したときに同じファイルがまた検出されます。

1 ファイルを選択し①、処理を選択する②

■信頼■

インストールした覚えのあるファイルや、パソコンに危害のないものだとわかっているファイルの場合は、こちらに分類します。

■隔離■

インストールした覚えがないファイルや、一般的にウイルスやスパイウェアとされているファイルで除去したい場合は、こちらに分類します。
パソコン内にデータは残った状態ですが、パソコンに危害を与えることはなくなります。

「隔離」を選択した場合は、その後パソコンが問題なく使用できるか、動作を確認してください。問題がない場合は、除去することをおすすめします。

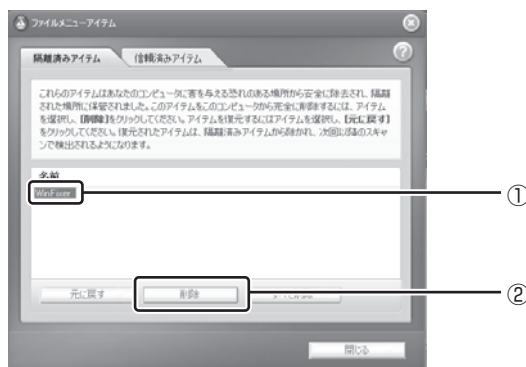
ファイルを除去する

疑わしいファイルが検出されたときは、除去することをおすすめします。ただし、見慣れないファイル名でも、パソコンの動作に必要なファイルの場合もありますので、いったんシステムに影響のないエリアに移動（隔離）し、その後パソコンが問題なく使用できることを確認したうえで除去してください。

1 ツールバーの［表示］→［隔離済みアイテムを見る］をクリックする

［ファイルメニューアイテム］画面が表示されます。

2 一覧から除去するファイルを選択し①、［削除］ボタンをクリックする②

［すべて削除］ボタンをクリックすると、表示されているファイルすべてを削除することができます。

選択したファイルがパソコンから除去されます。

3 ［閉じる］ボタンをクリックする

● 検出されたファイルを隔離した結果、パソコンの動作に不具合が生じた場合は、手順2で［元に戻す］ボタンをクリックします。

ヘルプの起動

1 「ファイナルストッパーアンチスパイウェア」を起動後、［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする

7 有害サイトへのアクセスを遮断する

－i-フィルター 4－

＊VX/7 シリーズ、TX/7 シリーズの場合

インターネットに接続すると、世界中のいろいろなホームページを見ることができます。パソコン画面上でニュースを読む、買い物をする、調べ物をするなど便利な使いかたもできますが、なかには有害なホームページもあります。「i-フィルター4」は、ユーザの年齢やホームページのカテゴリによってアクセスを制限し、有害なホームページは表示しないように設定することができます。

お願い

使用期限について

- 本製品に添付されている「i-フィルター4」は、初回起動時より 90 日間の使用期限があります。期限が切れてしまうと、フィルター機能（有害サイトのアクセス制限機能）が切れます。使用期限が切れたあとも継続して使用するためには、インターネットでユーザ登録とシリアル ID を購入してください。手続きは、「i-フィルター」設定画面の［継続利用］ボタンをクリックして表示される画面から行うことができます。

1 起動方法

初めて使用するときは、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［i-フィルター 4］→［i-フィルター 4］をクリックする

［管理パスワードの設定］画面が表示されます。
パスワードは、アクセスを制限する設定画面を表示するときや「i-フィルター4」を終了するときに入力します。パスワードを設定しなくても「i-フィルター4」を使用できますが、その場合は、誰でもアクセス制限の設定を変更することができますので、パスワードを設定し、パスワードを知っているユーザのみ設定を変更できる状態にしておくことをおすすめします。

① ［管理パスワード］と［管理パスワード（確認）］にパスワードを入力する
パスワードを設定しない場合は、何も入力しないでください。
設定する場合は、半角英数字 15 文字以内で入力してください。パスワードは、アルファベットの大文字と小文字が区別されます。

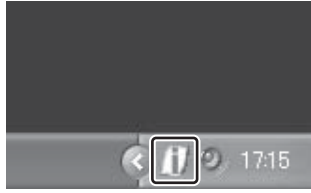
② ［設定］ボタンをクリックする
パスワードを入力しないで［設定］ボタンをクリックした場合、「パスワードは空に設定されます。」という画面が表示されます。
［OK］ボタンをクリックしてください。

通知領域に［i-フィルター4］アイコン（ ）が表示され、［有害サイト遮断ソフト「i-フィルター4」へようこそ］画面が表示されます。
使用許諾契約書の確認と「i-フィルター4」の説明を読み、［閉じる］ボタン（ ）をクリックしてください。

メモ

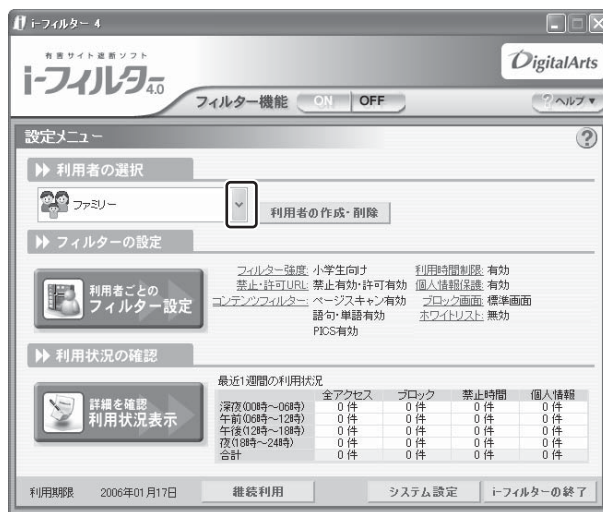
- 以降は Windows を起動すると通知領域に［i-フィルター4］アイコン（ ）が表示されます。

2 表示させない条件を設定する

1 通知領域の［i- フィルター 4］アイコンをクリックする

パスワードを設定している場合は、［パスワード確認］画面が表示されます。

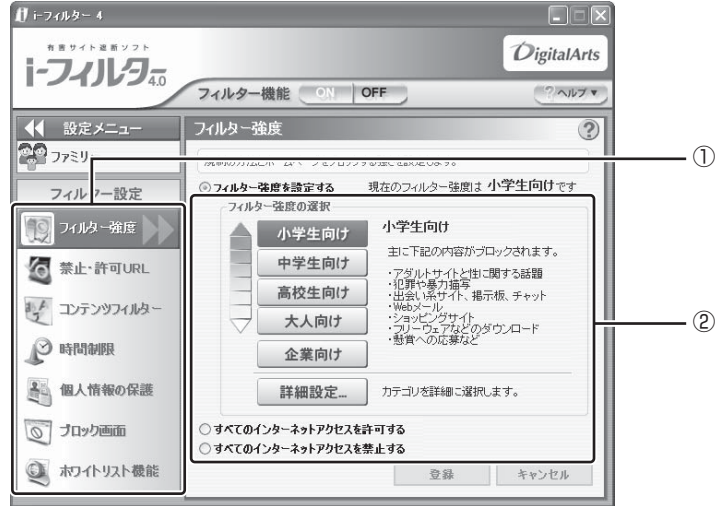
2 パスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードを設定していない場合は、何も入力しないで［OK］ボタンをクリックしてください。
［設定］画面が表示されます。

3 利用者を選択する

4 ［利用者ごとのフィルター設定］ボタン（ 利用者ごとの フィルター設定 ）をクリックする

5 左側の項目をクリックし①、右側のフィルター強度をクリックする②

項目の詳細については、「i- フィルター４」のヘルプを確認してください。

左側で選択した項目によって右側の画面構成は異なります。

6 ［登録］ボタンをクリックする

選択したフィルター強度で設定されます。
手順５と手順６を繰り返し行います。

これで設定は完了です。
有害なホームページを表示させない場合は、「i- フィルター４」を起動し、［フィルター機能］を［ON］にした状態でインターネットへ接続してください。

ヘルプの起動

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［i- フィルター４］→［i- フィルター４ヘルプ］をクリックする

8 メールの設定をする

– Outlook Express –

ウイルスチェックソフトについて
「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

メールを使用するには、メールソフトでの設定が必要です。

ここでは、Windows 標準のメールソフト「Outlook Express」での設定を説明します。プロバイダから送られてきた説明書を手元に置き、操作を進めてください。

メールの送受信を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

メモ

- 「Outlook Express」を初めて起動したとき、インターネット接続の設定が完了していない場合は、［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。「本章 3 インターネット接続の設定をする」を確認し、設定を行ってください。

1 Outlook Express の設定

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Outlook Express］をクリックする

［インターネット接続ウィザード］画面が表示されます。

■確認画面が表示された場合■

- 「通常使用するメールクライアントとして選択しますか？」という画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックしてください。

2 メールを届けるときの名前を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

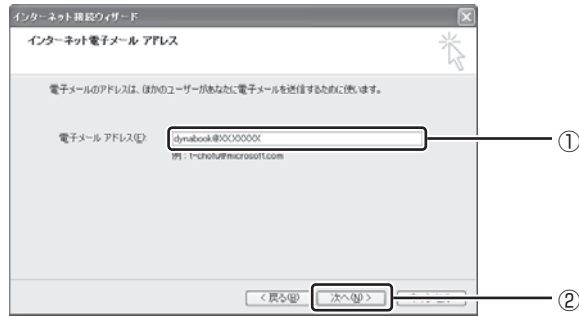
「表示名」は、メールが相手に届いたときに表示される名前です。

3

電子メールアドレスを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

プロバイダから発行された自分の電子メールアドレスを入力してください。

4

メールサーバ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

メールサーバ名はプロバイダから送られてきた説明書に記載されています。

5

メールのアカウント名とパスワードを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

アカウント名は「メールアカウント名」「POP アカウント名」「メールログイン名」「ユーザ名」など、プロバイダによって用語が異なります。プロバイダから送られてきた説明書に記載されています。

6

［完了］ボタンをクリックする

設定が完了し、「Outlook Express」が起動します。

2 オプションの設定

「Outlook Express」のより使いやすい設定を紹介します。必要に応じて行ってください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Outlook Express］をクリックする

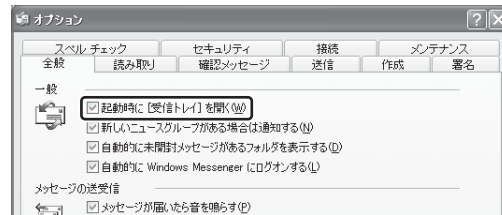
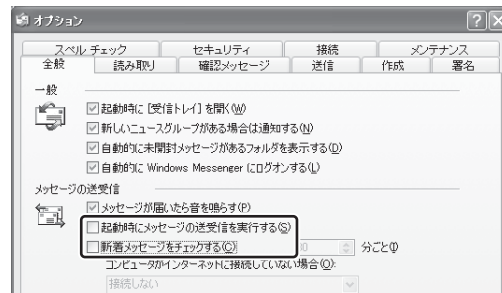
「Outlook Express」が起動します。
「オンラインに切り替えますか？」という画面が表示された場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。

2 メニューバーの［ツール］→［オプション］をクリックする

［オプション］画面が表示されます。
［全般］タブで起動時の動作の設定をします。

3 ［起動時に［受信トレイ］を開く］にチェックをつける

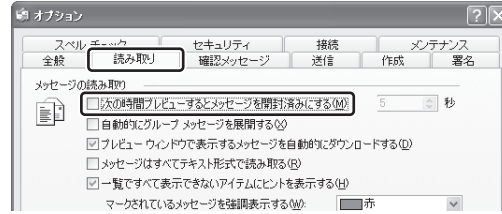
オプション
スペル チェック　セキュリティ　接続　メンテナンス
全般　読み取り　確認メッセージ　送信　作成　署名
一般
起動時に［受信トレイ］を開く(W)
新しいニュースグループがある場合は通知する(N)
自動的に未開封メッセージがあるフォルダを表示する(D)
自動的に Windows Messenger にログオンする(L)
メッセージの送受信
メッセージが届いたら音を鳴らす(P)

4 ［起動時にメッセージの送受信を実行する］と［新着メッセージをチェックする］のチェックをはずす

メッセージの送受信は自分で行うように設定します。

続けてメールの読みかたに関する設定をします。

5

メールの読みかたに関する設定

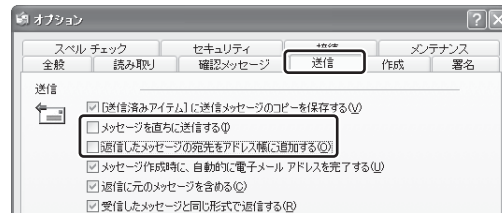
プレビュー（メールの一部分を読める状態にすること）しただけでは開封済み（読んだこと）にならない設定にします。

［読み取り］タブで［次の時間プレビューするとメッセージを開封済みにする］のチェックをはずす

次に、メールの送信に関する設定をします。

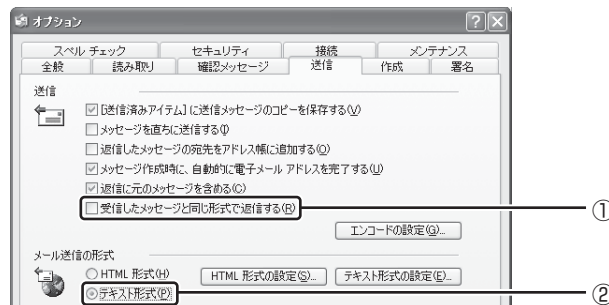
6

メールの送信に関する設定

書き上げたメールを一度に送るように、また、「アドレス帳」（よく送る相手先を登録しておく機能）には自分で登録する設定します。

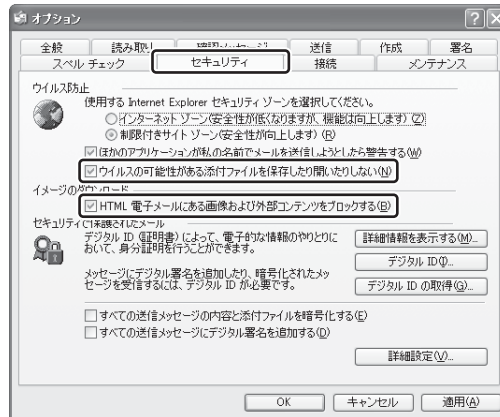
［送信］タブで［メッセージを直ちに送信する］と［返信したメッセージの宛先をアドレス帳に追加する］のチェックをはずす

7

送信する形式を機器やメールソフトが異なっても読める「テキスト形式」に設定します。

［受信したメッセージと同じ形式で返信する］のチェックをはずし①、［メール送信の形式］で［テキスト形式］をチェックする②

次に、セキュリティに関する設定をします。

8 セキュリティに関する設定

必要な添付ファイルが開けない場合は、一時的に［ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない］のチェックをはずしてください。

［セキュリティ］タブで［ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない］と［HTML 電子メールにある画像および外部コンテンツをブロックする］にチェックがついていることを確認する

9

［OK］ボタンをクリックする

これで基本的なメールの設定は完了です。

メモ

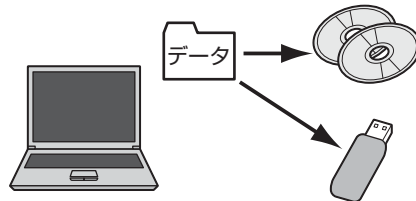
- 「Outlook Express」を使用したメールの送受信について、詳しくは《できる dynabook 第４章 メールを使ってみよう》で紹介しています。

4章

大切なデータを失わないために
ーバックアップー

パソコンが故障したり、誤ってファイルなどを削除したときのためにバックアップをとりましょう。この章では、バックアップ全般についてとOutlook Expressのバックアップ方法、CD／DVDにコピーをとる方法を紹介しています。快適にパソコンを使うために、あらかじめ読んでください。

バックアップをとる

保存したファイルやフォルダを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをCD-R、CD-RWなど、ハードディスク以外の記憶メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。
本製品に添付されている「RecordNow!（レコードナウ）」を使って、DVD-RW、DVD-R、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）、DVD+RW、DVD+R、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）、CD-RW、CD-Rにバックアップをとることができます。

お願い

- ユーザ名がリカバリ後と異なる場合、バックアップしたデータが復元できない場合があります。リカバリをする前にユーザ名を控えてください。

参照 リカバリ「5章 買ったときの状態に戻すには」

- ハードディスクや外部記憶メディアに保存しているデータは、万一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。ハードディスクや外部記憶メディアに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いません。

バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- リカバリ（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- 送受信したメール
- メールのアドレス帳
- インターネットの［お気に入り］

■MS-IMEで登録した単語について■

日本語入力システムMS-IMEの「単語／用例登録」で登録したユーザー辞書データをバックアップすることができます。
詳しくは『MS-IMEのヘルプ』を確認してください。

- ヘルプの起動方法

① IMEツールバーの［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックし、表示されたメニューから［Microsoft(R) IMEスタンダード］または［Microsoft(R)ナチュラル インプット］→［目次とキーワード］をクリックする

■インターネット接続の設定情報について■

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザ ID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリ DNS サーバ
- セカンダリ DNS サーバ
- インターネットメールサーバ
- ニュースサーバ
- アクセスポイントの電話番号

① ファイルやフォルダのバックアップをとる

ファイルやフォルダのバックアップをとる前に保存場所を確認してください。

ファイルやフォルダの保存場所

ファイルやフォルダは次の場所に保存されています。
これらのファイルやフォルダは、そのままバックアップ用の外部記憶メディアにコピーすることができます。外部記憶メディアにバックアップのデータを書き込む場合は、「本章 3 データのバックアップをとる」を確認してください。

参照　ファイルの検索《できる dynabook 第5章 ファイルの操作を覚えよう》

自分で作成したファイルやフォルダ	保存時に指定した場所に保存されます。わかりやすい場所に保存してください。保存先を忘れた場合は、[スタート] → [検索] で探すことができます。
[マイドキュメント]	[マイコンピュータ] - ハードディスク（C:） - [Documents and Settings] 内の各ユーザ名のフォルダに保存されています。
[お気に入り]	
[デスクトップ]	

複数のユーザで使っている場合は、それぞれのユーザ名でログオンし、データのバックアップをとってください。
外部記憶メディアに保存したデータのバックアップをとる場合は、一度ハードディスクドライブに保存してから、バックアップ用の外部記憶メディアにコピーすることをおすすめします。

■バックアップのデータを利用する■

バックアップをとった [マイドキュメント]、[お気に入り]、[デスクトップ] を利用する方法を説明します。

① [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
② （C:）ドライブをダブルクリックする
　ドライブの内容が表示されていない場合は、[このフォルダの内容を表示する] をクリックしてください。
③ [Documents and Settings] フォルダをダブルクリックする
④ バックアップしたデータを利用するユーザのフォルダをダブルクリックする
⑤ バックアップをとった外部記憶メディアをセットする
⑥ 手順⑤でセットした外部記憶メディア内に保存されている [My Documents]（マイドキュメント）、[お気に入り]、[デスクトップ] フォルダを、ユーザのフォルダ内にコピーする
　それぞれのフォルダが上書きされます。

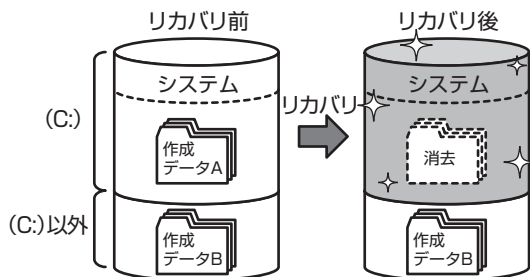
おすすめするバックアップ方法

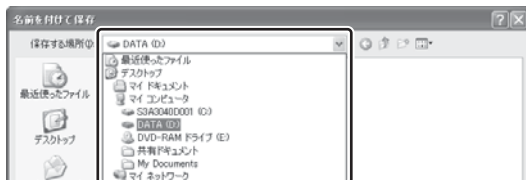
次の２ステップでバックアップをとることをおすすめします。

■データはシステムとは別のハードディスクに保存する■

ハードディスクは１台内蔵され、ハードディスク（C:）とハードディスク（D:）に分かれています。

参照 リカバリ「5 章 買ったときの状態に戻すには」

システムはハードディスク（C:）にセットアップされています。
システムに不具合が起きたとき、「リカバリ」という作業を行うと、ハードディスク（C:）のシステムが復元されます。ただし、ハードディスク（C:）に保存されていたデータも同時に消去されるため、作成したファイルやフォルダは、ハードディスク（C:）以外に保存することをおすすめします。
本製品に用意されているリカバリツールの［パーティションを変更せずに復元］を選択してリカバリを行うと、ハードディスク（C:）以外に保存されているデータは、リカバリを行っても保持されます。

メモ

- データの保存先は［名前を付けて保存］画面の［保存する場所］欄で指定します。

■定期的にバックアップをとる■

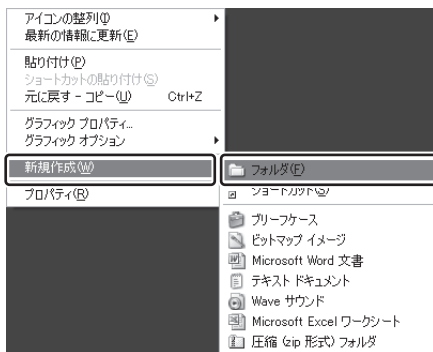
ハードディスク（C:）以外のハードディスクに保存されているデータも、ハードディスクの故障などの原因で、使えなくなってしまうことがあります。ハードディスク（C:）以外のハードディスクに保存されているデータも、定期的に外部記憶メディアにバックアップをとってください。

2 Outlook Expressのバックアップをとる

「Outlook Express」の使いかたについて《できる dynabook 第４章 メールを使ってみよう》

送受信したメール、メールフォルダ、メールアカウント、登録したアドレス帳のバックアップをとることができます。
ここでは、「Outlook Express」のバックアップ方法と、バックアップしたデータの復元方法を説明します。

1 メールアカウントのバックアップ方法

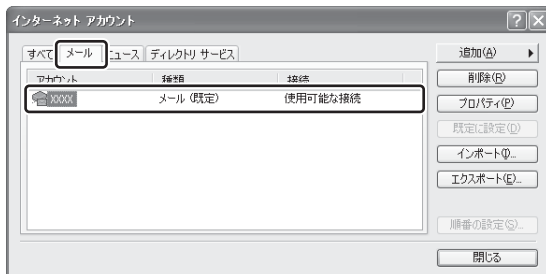
1 デスクトップ上の何もないところで右クリックし、表示されたメニューから[新規作成]→［フォルダ］をクリックする

2 フォルダ名を入力する

わかりやすい名前をつけることをおすすめします。

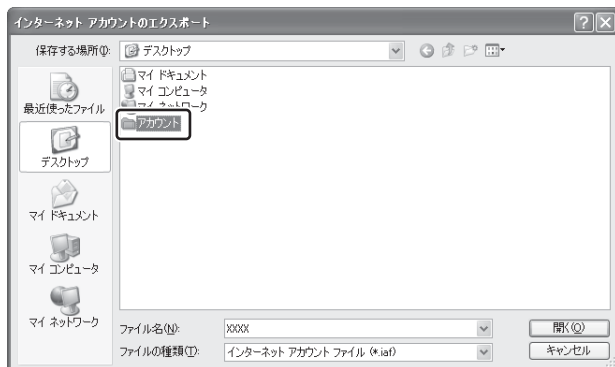
3 「Outlook Express」を起動する

4 メニューバーの［ツール］→［アカウント］をクリックする

［インターネットアカウント］画面が表示されます。

5 ［メール］タブをクリックし、バックアップしたいアカウントをクリックする

6 ［エクスポート］ボタンをクリックする

［インターネットアカウントのエクスポート］画面が表示されます。

7 ［保存する場所］で手順 1 で作成したフォルダを選択する

8 ファイル名を入力して、［保存］ボタンをクリックする

メールアカウントが iaf ファイルとして保存され、［インターネットアカウント］画面に戻ります。

9 ［閉じる］ボタンをクリックする

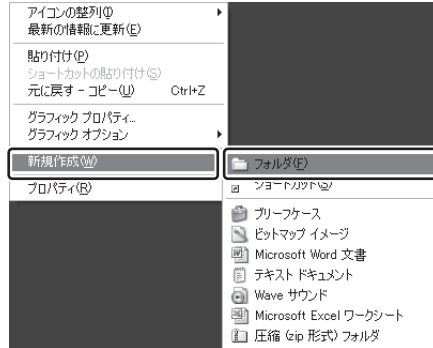
10 手順 7 で選択したフォルダをバックアップ用の外部記憶メディアに保存する

参照 「本章 3 データのバックアップをとる」

■バックアップをとった iaf ファイルを Outlook Express で読み込む■

① 「Outlook Express」を起動する
② メニューバーの［ツール］→［アカウント］をクリックする
　［インターネットアカウント］画面が表示されます。
③ ［メール］タブをクリックし、［インポート］ボタンをクリックする
　［インターネットアカウントのインポート］画面が表示されます。
④ バックアップした外部記憶メディアをパソコンにセットする
⑤ ［ファイルの場所］で手順④でセットした外部記憶メディアを選択する
⑥ 復元したいメールアカウントのファイルを選択し、［開く］ボタンをクリックする
　［インターネットアカウント］画面に復元したアカウントの名前が表示されます。

2 電子メールのバックアップ方法

1 デスクトップ上の何もないところで右クリックし、表示されたメニューから［新規作成］→［フォルダ］をクリックする

2 フォルダ名を入力する

わかりやすい名前をつけることをおすすめします。

3 「Outlook Express」を起動する

手順1で作成したフォルダが［Outlook Express］画面を開いた状態でも見えるように［Outlook Express］画面の位置を調整してください。

4 ［Outlook Express］画面の［フォルダ］の一覧から、バックアップをとりたいメールフォルダをクリックする

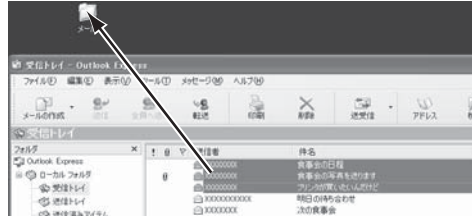
画面の右側に選択したメールフォルダに保存されているメールの一覧が表示されます。

5 表示されたメールの一覧からメールをクリックする

メールが選択されます。
必要なメールが複数ある場合は、CTRLキーを押しながら、必要なメールをクリックしてください。

メールフォルダ内のすべてのメールが必要な場合は、メールをひとつクリックして、メニューバーの［編集］→［すべて選択］をクリックしてください。
フォルダ内のメールがすべて選択された状態になります。

6 選択されたメールを手順 1 で作成したフォルダへドラッグアンドドロップする

「Outlook Express」の元のメールは削除されません。

フォルダ内に電子メールが eml ファイルとして保存されます。フォルダを開き、保存されたファイルを確認してください。添付ファイルがあった場合は、添付ファイルが付属された状態で保存されます。

7 手順 6 のフォルダをバックアップ用の外部記憶メディアに保存する

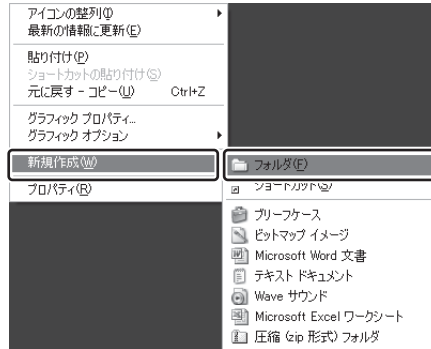
参照 「本章 3 データのバックアップをとる」

■バックアップをとった eml ファイルを Outlook Express で読み込む■

① 「Outlook Express」を起動する
② メールデータのバックアップをとっておいたフォルダを開く
開いたフォルダが［Outlook Express］画面を開いた状態でも見えるように［Outlook Express］画面の位置を調整してください。
③ メニューバーの［編集］をクリックし、表示されたメニューから［すべて選択］をクリックする
フォルダ内のすべてのメールのファイルが選択されます。
すべてのメールを読み込ませたくない場合は、必要なファイルだけ選択してください。
④ 選択されたメールを「Outlook Express」の［フォルダ］の一覧にある復元したいフォルダへドラッグアンドドロップする
⑤ メールをドロップしたフォルダをクリックし、画面の右側に手順③で選択されたメールの一覧の内容が表示されることを確認する

3 メールフォルダのバックアップ方法

「Outlook Express」のメールフォルダは、DBXファイルに保存されています。メールフォルダ内のすべてのメールを保存していますが、DBXファイルのみで直接メールを見ることはできません。

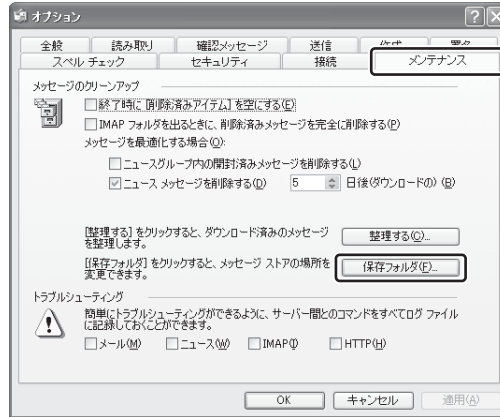
1 デスクトップ上の何もないところで右クリックし、表示されたメニューから[新規作成]→［フォルダ］をクリックする

2 フォルダ名を入力する

わかりやすい名前をつけることをおすすめします。

3 「Outlook Express」を起動する

4 メニューバーの［ツール］→［オプション］をクリックする

［オプション］画面が表示されます。

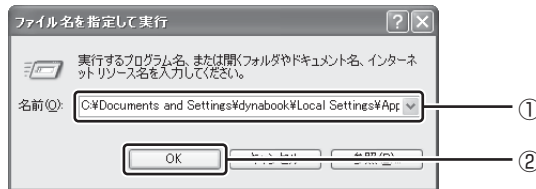
5 [メンテナンス] タブで [保存フォルダ] ボタンをクリックする

[保存場所] 画面が表示されます。

6 [個人メッセージ ストアは下のフォルダに保存されています：] に表示されたパスをコピーする

パスをコピーしたら [OK] ボタンをクリックし、[保存場所] 画面を閉じてください。

パスが長くてすべて表示されていない場合もあります。パス上でクリックし、(→)キーを押すと文字列がスクロールされ、続きが表示されますので、すべてのパスをコピーするようにしてください。

7 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

8 [名前] 欄に手順 6 でコピーしたパスを貼り付け①、[OK] ボタンをクリックする②

「Outlook Express」で使用している DBX ファイルを保存してあるフォルダが表示されます。

9 [オプション] 画面で [OK] ボタンをクリックする

10 「Outlook Express」を終了する

11 拡張子が「.dbx」のファイルをすべて手順 1 で作成したフォルダに保存する

12 手順 11 のフォルダをバックアップ用の外部記憶メディアに保存する

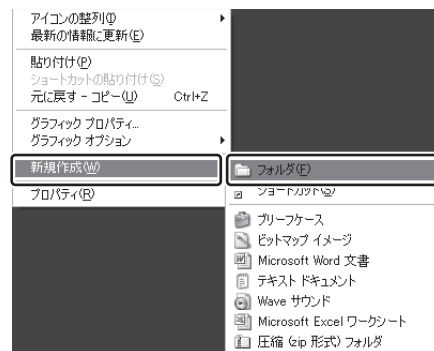
参照 「本章 3 データのバックアップをとる」

■バックアップをとったDBXファイルをOutlook Expressで読み込む■

① メニューバーの［ファイル］→［インポート］→［メッセージ］をクリックする
② ［プログラムの選択］画面で、［Microsoft Outlook Express 6］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
③ ［場所の指定］画面で［Outlook Express 6 ストアディレクトリからメールをインポートする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［メッセージの場所］画面で［参照］ボタンをクリックする
⑥ バックアップ手順でメッセージを保存した場所（フロッピーディスクなど）を指定し、［OK］ボタンをクリックする
⑦ ［次へ］ボタンをクリックする
⑧ ［フォルダの選択］画面で、［すべてのフォルダ］をクリックする、または［選択されたフォルダ］をクリックし、読み込ませたいメールフォルダをチェックして、［次へ］ボタンをクリックする
［インポートの完了］画面が表示されます。
⑨ ［完了］ボタンをクリックする

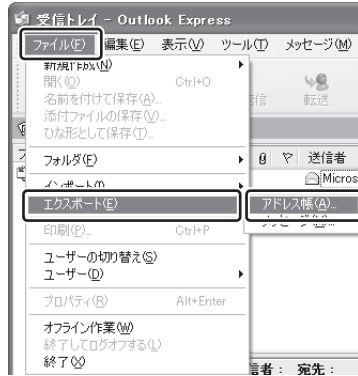
メールのインポートを行った場合、同じメールは上書きされません。インポート作業が完了したあと同じ内容のメールが重複して存在する場合があります。この場合、必要に応じて手動でメールの削除を行ってください。

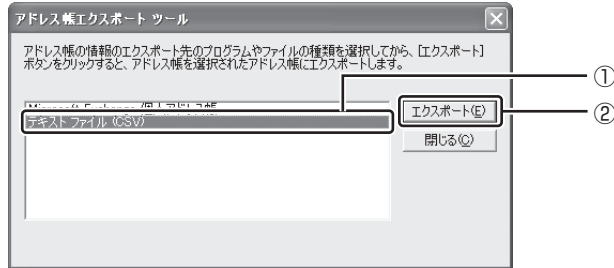
4 Outlook Express のアドレス帳のバックアップ方法

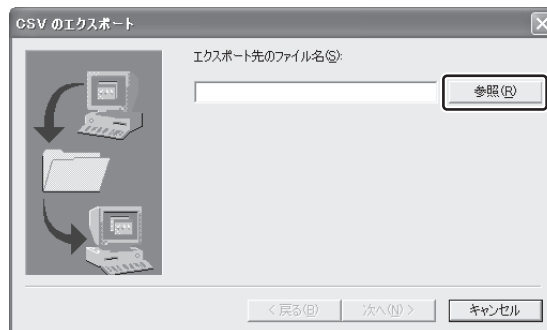
1 デスクトップ上の何もないところで右クリックし、表示されたメニューから[新規作成］→［フォルダ］をクリックする

2 フォルダ名を入力する

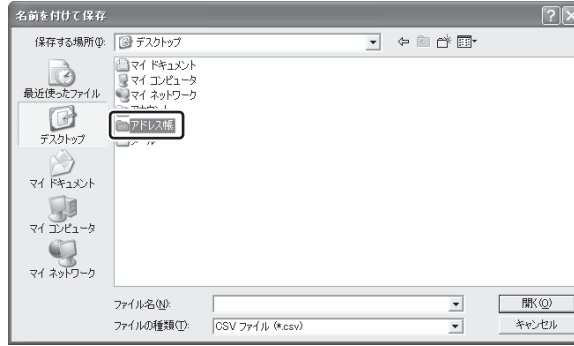
わかりやすい名前をつけることをおすすめします。

3 「Outlook Express」を起動する

4 メニューバーの［ファイル］→［エクスポート］→［アドレス帳］をクリックする

［アドレス帳エクスポートツール］画面が表示されます。

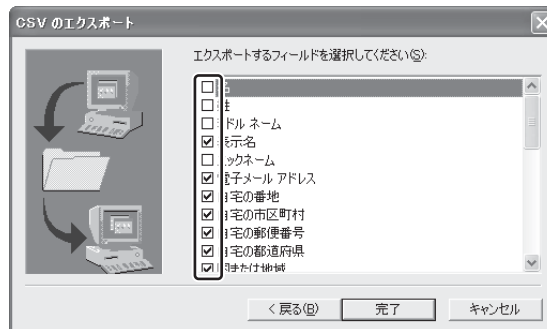
5 ［テキストファイル（CSV）］を選択し①、［エクスポート］ボタンをクリックする②

［CSV のエクスポート］画面が表示されます。

6 ［参照］ボタンをクリックする

［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 **［保存する場所］で手順 1 で作成したフォルダを選択する**

8 **［ファイル名］にファイル名を入力して、［保存］ボタンをクリックする**

［CSV のエクスポート］画面に戻り、［エクスポート先のファイル名］にパスが入力されます。

9 **［次へ］ボタンをクリックする**

10 **［エクスポートするフィールドを選択してください］で、バックアップをとりたい項目をチェックする**

11 **［完了］ボタンをクリックする**

「アドレス帳のエクスポートは正常に完了しました」のメッセージが表示されます。

12 **［OK］ボタンをクリックする**

［アドレス帳エクスポートツール］画面に戻ります。

13 **［閉じる］ボタンをクリックする**

14 **手順 7 で選択したフォルダをバックアップ用の外部記憶メディアに保存する**

参照 「本章 3 データのバックアップをとる」

■バックアップをとったアドレス帳を Outlook Express で読み込む■

① メニューバーの［ファイル］→［インポート］→［ほかのアドレス帳］をクリックする
［アドレス帳インポートツール］画面が表示されます。
② ［テキストファイル（CSV）］を選択し、［インポート］ボタンをクリックする
［CSV のインポート］画面が表示されます。
③ ［参照］ボタンをクリックする
［ファイルを開く］画面が表示されます。
④ ［ファイルの場所］と［ファイル名］に、バックアップしたファイル名を指定する
⑤ ［開く］ボタンをクリックする
［CSV のインポート］画面に戻り、［インポートするファイルの選択］にパスが入力されます。
⑥ ［次へ］ボタンをクリックする
⑦ ［インポートするフィールドの割り当て］を変更する場合は、［割り当ての変更］ボタンをクリックして設定する
⑧ ［完了］ボタンをクリックする
読み込みたい「Outlook Express」のアドレス帳に同じ連絡先がある場合は、［上書きの確認］画面が表示されます。表示に従って操作してください。
「アドレス帳のインポートは正常に完了しました」のメッセージが表示されます。
⑨ ［OK］ボタンをクリックする
［アドレス帳インポートツール］画面に戻ります。
⑩ ［閉じる］ボタンをクリックする

3 データのバックアップをとる

① バックアップとして使用できる外部記憶メディア

バックアップ用に使用できる外部記憶メディアは次のようなものがあります。

- 記録用のCD／DVDメディア
- SDメモリカードなどの外部記憶メディア

参照 使用できる外部記憶メディア『活用ガイド』

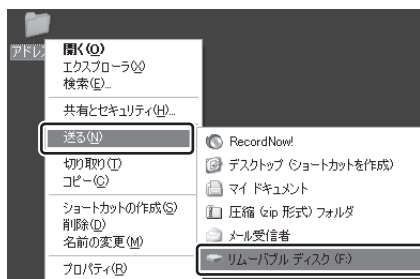
お使いのモデルによって、使用できる外部記憶メディアが異なります。
また、ファイルやフォルダの容量によって、使用する外部記憶メディアを選び、あらかじめ用意してください。

② データをコピーしてバックアップをとる

SDメモリカード、メモリースティック、USBフラッシュメモリ、DVD-RAMなどはフォルダやファイルをコピーすることができます。

1 外部記憶メディアをセットする

参照 外部記憶メディアのセット『活用ガイド』

2 データが保存してあるフォルダを右クリックし、表示されたメニューから［送る］→手順1の外部記憶メディアをクリックする

③ CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「RecordNow！（レコードナウ）」、「DLA（ディーエルエー）」を使います。データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応しているメディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAMドライブ］にコピーしてください。
- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

お願い

CD ／ DVD に書き込む前に

CD ／ DVD に書き込みを行うときは、Windows 標準の CD 書き込み機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
CD ／ DVD に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗した CD ／ DVD の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD ／ DVD に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD ／ DVD に書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R に書き込むときには、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。

参照 CD ／ DVD について『活用ガイド 1 章 3 CD や DVD を使う』

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 省電力機能について《オンラインマニュアル（検索）：東芝省電力》

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバ
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・モデムなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SD メモリカード、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「RecordNow!」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「RecordNow!」を使用して DVD-RAM にデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「RecordNow!」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
- 書き込み可能な DVD をバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能な DVD メディアを使用してください。
  例）DVD-RW→DVD-RW
  　　DVD+RW→DVD+RW
- 著作権保護されている DVD-Video を「RecordNow!」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「RecordNow!」を使用して CD-ROM、CD-R、CD-RW から DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R にバックアップを作成することはできません。
- 「RecordNow!」を使用して DVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R から CD-R、CD-RW へバックアップを作成することはできません。
- 「RecordNow!」を使用して、他のソフトウェアや、家庭用 DVD ビデオレコーダで作成した DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R のバックアップを作成できないことがあります。
- 「RecordNow!」を起動した状態で DVD メディアをドライブにセットした場合に、ドライブのイジェクトボタンを押してもメディアが出てこないことがあります。その場合は、画面上で「RecordNow!」の［取り出し］ボタン（ ⏏ ）をクリックするか、［マイコンピュータ］または［エクスプローラ］を開き、取り出したいメディアが入っているドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから［取り出し］をクリックしてください。

● DVD-R、DVD+R にデータを追記した場合、その DVD-R、DVD+R を他のパソコンやドライブで読もうとしたとき、OS やドライブの制限により、記録されているすべての内容を読み出せないことがあります。Windows 98SE＊1、Windows Me＊2 などの 16 ビット系 OS では DVD-R、DVD+R メディアに追記されたデータを読むことはできません。Windows NT4.0＊3 では Service Pack 6 以降、Windows 2000＊4 では Service Pack 2 以降が必要です。また、DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの種類によっては追記したデータを読むことができないものがあります。

＊1 Microsoft® Windows®98 Second Edition operating system 日本語版を示します。
＊2 Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版を示します。
＊3 Microsoft® Windows NT® Workstation4.0 operating system 日本語版を示します。
＊4 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

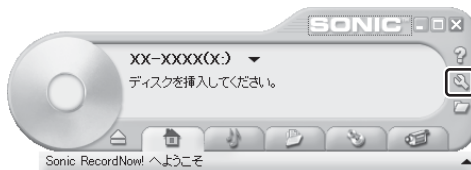
お願い

書き込み／削除を行うにあたって

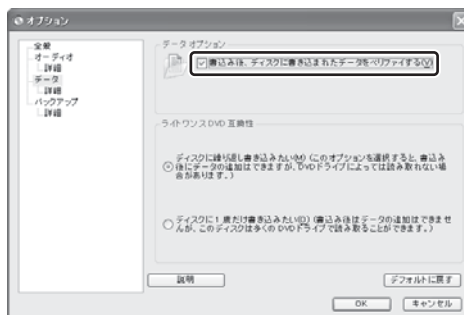
● タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
● パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
● 書き込み／編集作業中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照　周辺機器について『活用ガイド 3 章 周辺機器を使って機能を広げよう』

● パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
● 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
●「RecordNow!」で、重要なデータを書き込む場合は、次の設定を行ってください。正常に書き込まれていることを確認できます。

①「RecordNow!」を起動し、画面右上の［オプション］ボタンをクリックする

［オプション］画面が表示されます。

② 画面左側の一覧の「データ」をクリックする

③［データオプション］の「書込み後、ディスクに書き込まれたデータをベリファイする」をチェックする

④［OK］ボタンをクリックする

1 RecordNow !

使用できるメディアは次のとおりです。　○：使用できる　×：使用できない

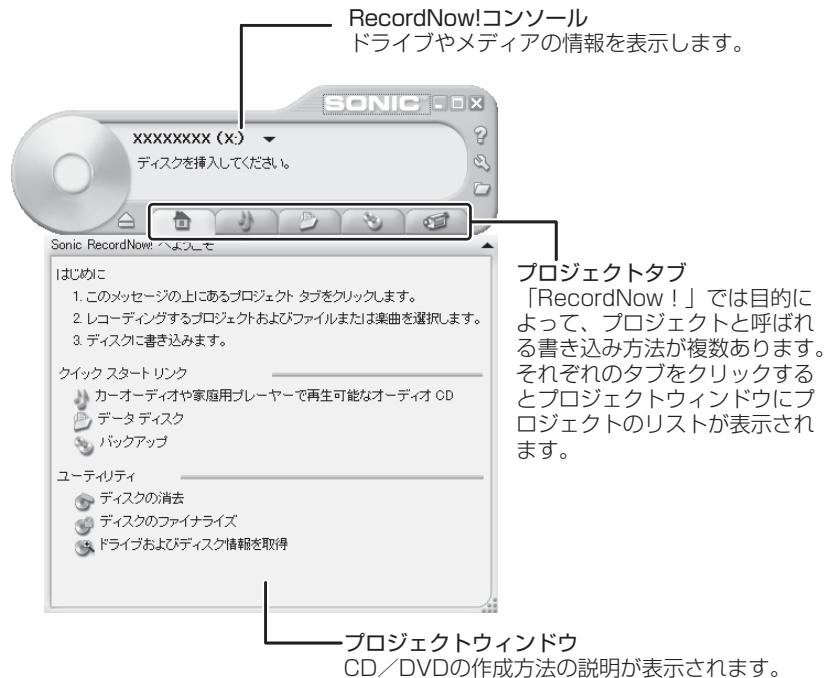
CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1	○＊1	○＊1	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-Audioの作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

起動方法

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［Sonic］→［RecordNow!］→［RecordNow!］をクリックする**

「RecordNow!」が起動します。
音楽CDの情報を管理するための「Windows Media Player」の設定についての画面が表示されます。［はい］ボタンをクリックして設定方法を表示し、「Windows Media Player」を正しく設定することをおすすめします。
その場合、バージョン10の設定方法を参照してください。

すでに「RecordNow!」で作成したCD／DVDにデータを追加したい場合は、あらかじめ書き込みを始める前にCD／DVDをドライブにセットしてください。
すでに記録されているデータを消去してもよい場合や、データがない場合は手順5でもセットできます。

2 **RecordNow!コンソールの［データプロジェクト］タブ（　）をクリックする**

データ用のプロジェクトウィンドウに切り替わります。

3 プロジェクトウィンドウの［データディスク］をクリックする

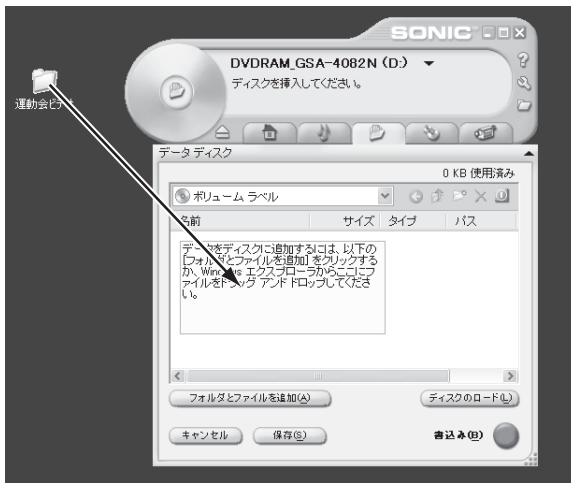
4 記録するファイルやフォルダをプロジェクトウィンドウにドラッグアンドドロップする

プロジェクトウィンドウの一覧にドラッグしたファイル名が表示されます。

［フォルダとファイルを追加］ボタンをクリックすると［追加するファイルとフォルダを選択］画面が表示され、記録したいファイルやフォルダを選択することができます。

5 ［書込み］ボタン（）をクリックする

書き込みが開始されます。
書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

CD／DVDをセットしていない場合は、メッセージ画面が表示されます。CD／DVDをセットして、［OK］ボタンをクリックしてください。

6 ［完了］ボタンをクリックする

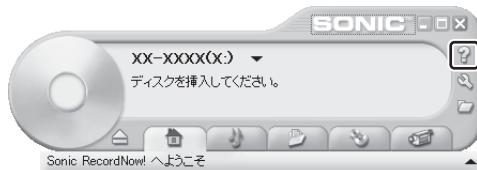
ヘルプの起動方法

■方法１■

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Sonic］→［RecordNow!］→［RecordNow! ヘルプ］をクリックする

参照　「RecordNow!」の問い合わせ先『活用ガイド６章５問い合わせ先』

■方法２■

①「RecordNow!」画面右上の［ヘルプ］ボタンをクリックする

② 表示されたメニューの［RecordNow! のヘルプ］をクリックする

「RecordNow!」のヘルプが表示されます。

2 DLA

「DLA」は CD ／ DVD にデータを書き込むことができるパケットライトソフトです。
使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	○＊1	×	○＊1	×	○＊1	×

＊１ 新品の CD-RW、DVD-RW、DVD+RW を「DLA」で使用するためには、あらかじめフォーマットが必要です。

参照 フォーマット《オンラインマニュアル（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》

お願い

「DLA」を使うために

＊「DLA」を使うには、下記以外にもお願い事項があります。「本節 CD ／ DVD に書き込む前に」と合わせてご覧ください。

- CD ／ DVD をフォーマットすると、CD ／ DVD 上のすべてのデータが失われます。内容を確認のうえ、フォーマットしてください。
- 「DLA」はパケットライト形式での記録機能を備えたソフトです。「DLA」でフォーマット／書き込みしたメディアを他のパケットライトソフトでは使用しないでください。また、他のパケットライトソフトでフォーマット／書き込みしたメディアに、「DLA」で書き込みは行わないでください。他のパケットライトソフトでフォーマットしたメディアを「DLA」で使用する場合は、「DLA」で完全フォーマットを行ってから使用してください。
- ファイルやフォルダの「切り取り」→「貼り付け」は行わないでください。メディアやドライブに何らかの問題があった場合、もとのファイルやフォルダが消失することがあります。
- 「DLA」で書き込んだメディアを「DLA」がインストールされていないパソコンで読み出すには、メディアに「互換化」が必要です。詳しくは「DLA」のヘルプをご覧ください。
- 「DLA」でフォーマットされたメディア上にプログラムのセットアップファイルなどを保存し、そのメディア上からセットアップを実行しようとしたとき、エラーが発生することがあります。その場合は、セットアップに必要なファイルなどをいったんハードディスク上にコピーした状態で、ハードディスク上からセットアップを実行してください。

使用方法

1 フォーマット済みの CD ／ DVD をセットする

参照 CD ／ DVD のセット
『スタートガイド』

2 データが保存してあるフォルダを右クリックし、表示されたメニューから［送る］→ドライブをクリックする

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Sonic］→［DLA］→［DLA ヘルプ］をクリックする

参照 「DLA」の問い合わせ先
『活用ガイド 6 章 5 問い合わせ先』

4 リカバリディスクを作る

パソコン本体には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。「Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
リカバリディスクがない状態で、リカバリツールが起動せず、リカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。

リカバリディスクでできること

何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。

お願い

＊リカバリディスクを作成するには、下記以外にもお願い事項があります。
「本章 3 データのバックアップをとる」のお願いを確認してください。

- 「Recovery Disc Creator」ではDVD-RAM、DVD-R DL、DVD+R DLを使用できません。
- 「Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。
- 「RecordNow!」をアンインストールした場合は、「Recovery Disc Creator」が使用できません。必ず、「RecordNow!」をインストールした状態で行ってください。
- PCカードタイプのハードディスクドライブなどが取り付けてあると、「Recovery Disc Creator」が使用できない場合があります。その場合は、PCカードを取りはずしてからパソコンを再起動してください。

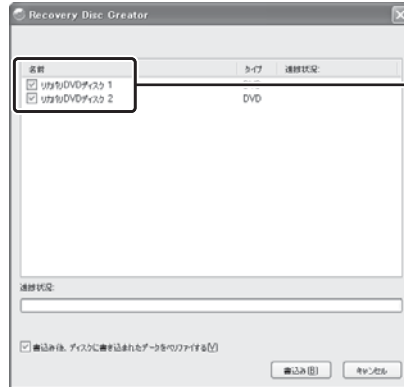
使用できるDVDメディアについて『活用ガイド 1章 3 CDやDVDを使う』

- 「Recovery Disc Creator」では、リカバリツールを次のメディアに保存して、リカバリディスクを作成できます。
  - ・DVD-R（DL除く）・DVD-RW
  - ・DVD+R（DL除く）・DVD+RW
- あらかじめバックアップ用のDVDを用意してください。[Recovery Disc Creator] 画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

リカバリツールのリカバリDVDを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 起動方法

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[リカバリメディア作成ツール]をクリックする

「Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

2 リカバリディスクを作成する

1 [名前] で作成するディスクをチェックする（ ）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

2 DVD メディアをセットする

3 [書込み] ボタンをクリックする

書き込みが開始され、[進捗状況] に「ディスクに書込み中です。」と表示され、画面下に残りの時間が表示されます。

書き込みを途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

4 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従って DVD メディアを入れ替えてください。作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスク作成後は、忘れずに「XXXXXX ディスク XX」とレーベルをつけてください。リカバリをするとき、この番号通りにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにレーベルをつけてください。

5 ［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

［Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、「5章 2-④ リカバリディスクからリカバリをする」を参照してください。

「Recovery Disc Creator」の問い合わせ先
『活用ガイド 6章 5 問い合わせ先』

5章

買ったときの状態に戻すには
ーリカバリー

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリ」について説明しています。リカバリを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

1 リカバリとは

① 再セットアップ（リカバリ）

システムやアプリケーションを購入時の状態に復元することをリカバリ（recovery）といいます。
リカバリをすると、システムを購入時の状態に戻し、プレインストールされているアプリケーションの一部を復元します。同時に、システムを復元するハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows ログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定されていない状態になります。

次のような、どうしても他に方法がないときにリカバリをしてください。

- ハードディスクをフォーマットしてしまった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピュータウイルスに感染し、駆除できない
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝 PC あんしんサポートに相談を行った結果、「リカバリが必要」と診断された

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

1. **バックアップをとる** 参照 「4章 大切なデータを失わないために」
2. **リカバリ（再セットアップ）** 参照 「本章 2 再セットアップ＝リカバリをする」
3. **アプリケーションやドライバのインストール** 参照 「本章 3-① Windowsセットアップのあとは」
4. **Office Personal 2003(Word、Excelなど)、Office OneNote 2003のインストール*1** 「本章 3-③ Office Personal 2003、OfficeOneNote 2003を再インストールする」
5. **インターネットの設定** 参照 「3章 3 インターネット接続の設定をする」
6. **ウイルス対策ソフトの設定と更新** 参照 「3章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」
7. **Windows Update** 参照 《できるdynabook レッスン49（第6章） Windowsを最新の状態にするには》
8. **データの復元やメールの設定** 「4章 大切なデータを失わないために」

＊1 Office 搭載モデルの場合

役立つ操作集

アプリケーションの再インストール

購入時にプレインストールされていたアプリケーションやドライバを間違って消去（アンインストール）してしまった場合は、「アプリケーションの再インストール」で再インストールできます。

詳細について「本章 3-② アプリケーションを再インストールする」

② リカバリをする前に

1 ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、『活用ガイド 6 章 パソコンの動作がおかしいときは』で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。

それでも、解消できないときにリカバリをしてください。

2 データのバックアップをとる

リカバリをすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとってください。

また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。

リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってからでは、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

バックアップは、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

参照 バックアップについて「4 章 1 バックアップをとる」

3 電源コード以外をはずす

マウスや増設したメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

4 音量を調節する

リカバリ後、Windows セットアップが終了するまで音量調節はできません。あらかじめ、ボリュームダイヤルで音量を調節してください。

(FN)+(ESC)キーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度 (FN)+(ESC)キーを押して元に戻しておいてください。

2 再セットアップ=リカバリをする

参照 ユーザパスワード《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》

本製品にプレインストールされている Windows やアプリケーションを復元する方法について説明します。
本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

① いくつかあるリカバリ方法

リカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- リカバリディスクからリカバリをする

通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリディスクからリカバリをする場合は、「4 章 4 リカバリディスクを作る」を確認して、リカバリディスクを用意してください。

② 始める前に

リカバリをする前に、次の準備を行ってください。

必要なもの

- 『セットアップガイド』（本書）、『活用ガイド』
- リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリをする場合）

準備

参照 バックアップについて「4 章 1 バックアップをとる」

- 必要なデータを保存する
  リカバリをすると、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとってください。

  ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってからでは、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。
- 電源コード以外をはずす
  マウスや増設したメモリなどを取りはずしてください。

参照 機器の取りはずし『活用ガイド 3 章 周辺機器を使って機能を広げよう』

メモ

詳細について「本章 3-③ Office Personal 2003、Office OneNote 2003 を再インストールする」

- Office 搭載モデルの場合、Office Personal 2003、Office OneNote 2003 は、リカバリ後、さらに同梱の CD-ROM で再インストールする必要があります。

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

③ ハードディスクからリカバリをする

ハードディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが 2 個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元■

C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

メモ

- リカバリは、ドライブにメディアをセットしていない状態で実行してください。ドライブにメディアがセットされていると、エラーになる場合があります。
- どのメニューを選択しても、C ドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

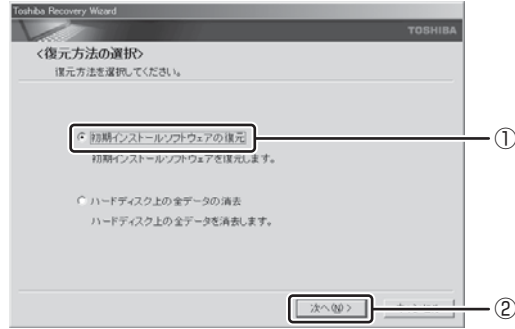
ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 **パソコンの電源を切る**

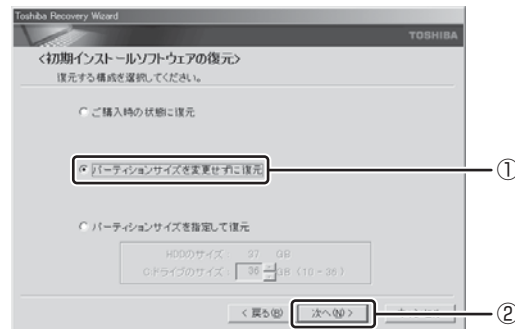
2 **AC アダプタと電源コードを接続する**

3 **キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、「dynabook」画面が表示されてから手をはなす**

ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力してENTERキーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 [初期インストールソフトウェアの復元]をチェックし①、[次へ]ボタンをクリックする②

[ハードディスク上の全データの消去]は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について「6章5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

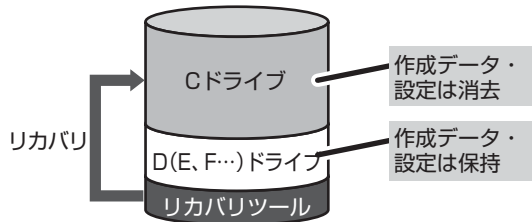
5 [パーティションサイズを変更せずに復元]をチェックし①、[次へ]ボタンをクリックする②

他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・[ご購入時の状態に復元]：P.118
・[パーティションサイズを指定して復元]：P.118

[パーティションサイズを変更せずに復元]を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。

- 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは
  「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

Cドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

メモ

- リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 ［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

8 Windows のセットアップを行う

詳細について「1 章 3 Windows を使えるようにする」

詳細について「本章 3-①-1 アプリケーションやドライバを自動インストールする」

詳細について「3 章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

- Windows のセットアップ後、パソコンの診断／環境設定が自動的に行われ、続けて「dynabook ランチャー」のセットアップ、アプリケーションをインストールするための画面が表示されます。
  メッセージに従って操作してください。
- AX/7 シリーズは、リカバリ後の状態ではウイルスチェックソフトはインストールされていません。
  ウイルスチェックソフトのインストールは、パソコンの安全上、早めにインストールすることをおすすめします。使用中に定期的に表示される［ウイルスバスター2006 を今すぐインストールしますか？］画面で［今すぐインストール］ボタンをクリックするか、「アプリケーションの再インストール」でインストールしてください。
  その他のモデルは、ウイルスチェックソフトは自動的にインストールされています。

詳細について
「本章 3-② アプリケーションを再インストールする」

周辺機器の接続
『活用ガイド 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

● 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

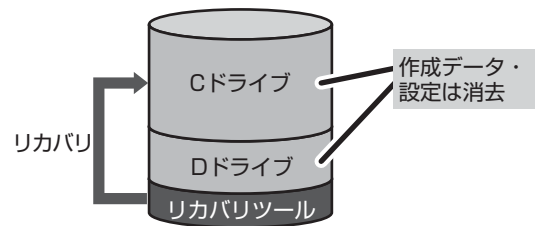
購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本章 3-③ ハードディスクからリカバリをする」の手順5の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元■

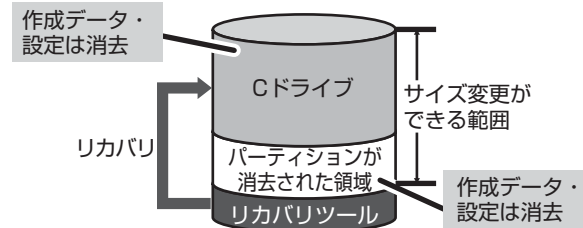
パソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順5の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元■

ディスクの管理
「本章 3-①-2 パーティションを設定する」

ハードディスク（Cドライブ）のサイズを変更します。
Cドライブ以外の領域区分（パーティション）は消去され、一つの領域になります。その領域（□）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

① ［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をクリックしてパーティション（Cドライブ）のサイズを指定する
② ［次へ］ボタンをクリックする
手順5の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

④ リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが２個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■ Windows パーティションのみに復元■

ハードディスク全体を１つのパーティション（C ドライブのみ）にするため、全領域を使用できるようになります。なお、リカバリツールの領域は消去され、復元されません。購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。また購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったまままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。

■パーティションサイズを指定して復元■

C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は１つの領域になり、そこに保存されていたデータや設定などはすべて消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、C ドライブには購入時と同じシステムが復元されます。

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク１」からセットしてください。

3 電源スイッチを押し、電源を入れた直後（「dynabook」画面が表示されている間）にキーボードの F12 キーを押す

ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して ENTER キーを押してください。

＊AX/7 シリーズの場合
C キーを押しながら電源スイッチを押し、「dynabook」画面が表示されたら、C キーから手を離してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。手順５に進んでください。

4 ↓ ↑ キーまたは ← → キーでドライブを選択し、ENTER キーを押す

■ VX/7 シリーズ、TW/7 シリーズの場合■

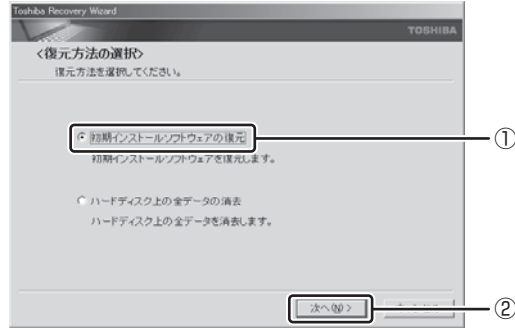
［CD/DVD］を選択してください。

■ TX/7 シリーズの場合■

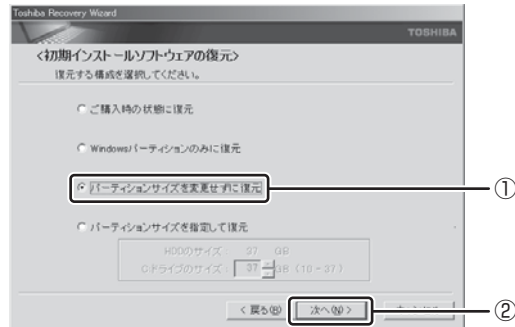
CD のアイコン（ ）を選択してください。

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5章 買ったときの状態に戻すには－リカバリ－

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について「6章5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。
・［ご購入時の状態に復元］：P.122
・［Windowsパーティションのみに復元］：P.123
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.123

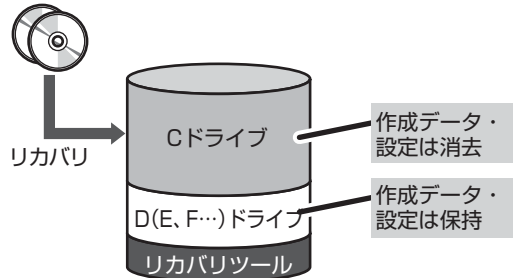
［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。

- **「パーティションサイズを変更せずに復元」とは**
  「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

Cドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

メモ

● 「ご購入時の状態に復元」と「パーティションサイズを変更せずに復元」は、リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することができません。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

リカバリディスクが複数枚ある場合は、ディスクを入れ替えるメッセージが表示され、ディスクトレイが少し出てきます。ディスクの番号順に入れ替え、［OK］ボタンをクリックしてください。

＊ 手順6で［ご購入時の状態に復元］を選択した場合は、最初に［ファイルをコピーしています。しばらくお待ちください］画面が表示されます。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。

9 リカバリディスクを取り出す

システムが再起動し、［Microsoft Windowsへようこそ］画面が表示されます。

10 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 3 Windowsを使えるようにする」

メモ

参照 詳細について「本章 3-①-1 アプリケーションやドライバを自動インストールする」

- Windows のセットアップ後、パソコンの診断／環境設定が自動的に行われ、続けて「dynabook ランチャー」のセットアップ、アプリケーションをインストールするための画面が表示されます。
  メッセージに従って操作してください。

参照 詳細について「3 章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

- AX/7 シリーズは、リカバリ後の状態ではウイルスチェックソフトはインストールされていません。
  ウイルスチェックソフトのインストールは、パソコンの安全上、早めにインストールすることをおすすめします。使用中に定期的に表示される［ウイルスバスター2006 を今すぐインストールしますか？］画面で［今すぐインストール］ボタンをクリックするか、「アプリケーションの再インストール」でインストールしてください。
  その他のモデルは、ウイルスチェックソフトは自動的にインストールされています。

参照 詳細について「本章 3-② アプリケーションを再インストールする」

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 周辺機器の接続『活用ガイド 3 章 周辺機器を使って機能を広げよう』

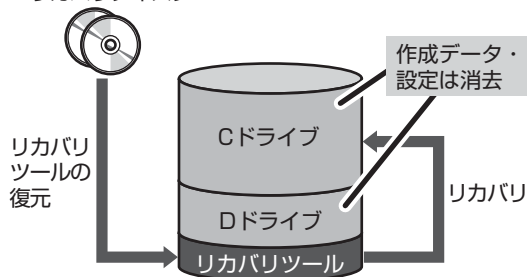
購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本章 3-④ リカバリディスクからリカバリをする」の手順 6 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元■

パソコンを購入したときの状態（パーティションが 2 個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

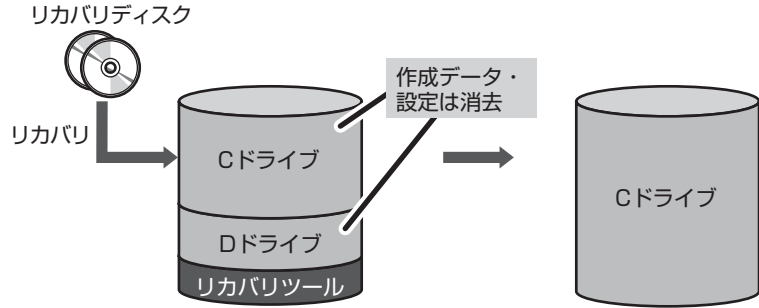
作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

■ Windows パーティションのみに復元■

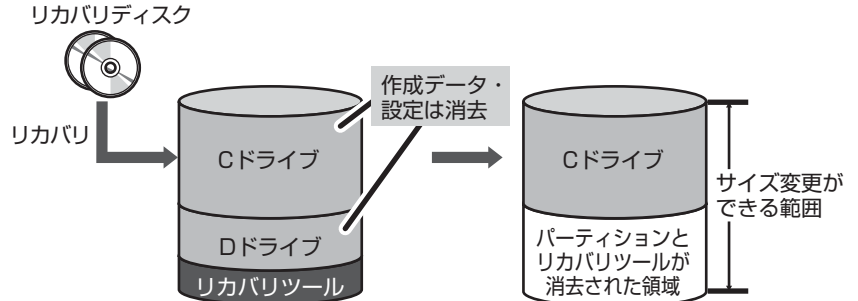
ハードディスク全体を 1 つのパーティションにします。リカバリツールの領域は消去されます。

手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

参照 ディスクの管理「本章 3-①-2 パーティションを設定する」

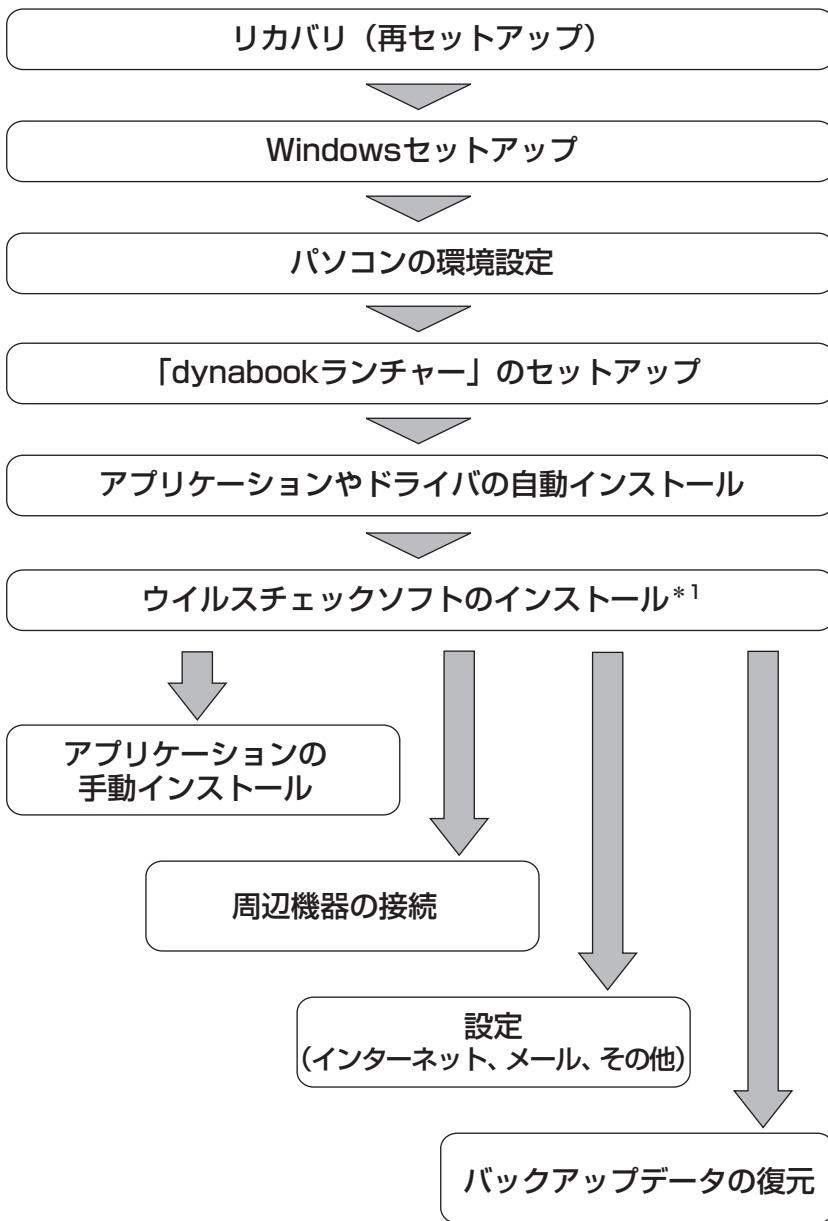
作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

■パーティションサイズを指定して復元■

ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。

C ドライブ以外の領域区分（パーティション）とリカバリツールの領域は消去され、一つの領域になります。その領域は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

① ［C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する

② ［次へ］ボタンをクリックする
手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

3 リカバリをしたあとは

リカバリ後は次の流れで設定を行います。

＊1 AX/7 シリーズの場合

ここでは次の点を説明します。

- アプリケーションやドライバの自動インストール
- パーティションの設定
- プレインストールアプリケーションの手動インストール
- Office Personal 2003、Office OneNote 2003 の再インストール＊2

＊2 Office 搭載モデルの場合

① Windows セットアップのあとは

1　アプリケーションやドライバを自動インストールする

リカバリをしたときは、Windows セットアップ後に表示される自動インストール画面の順序が、購入時とは一部異なります。

リカバリ（再セットアップ）

↓

Windowsセットアップ

↓

パソコンの環境設定

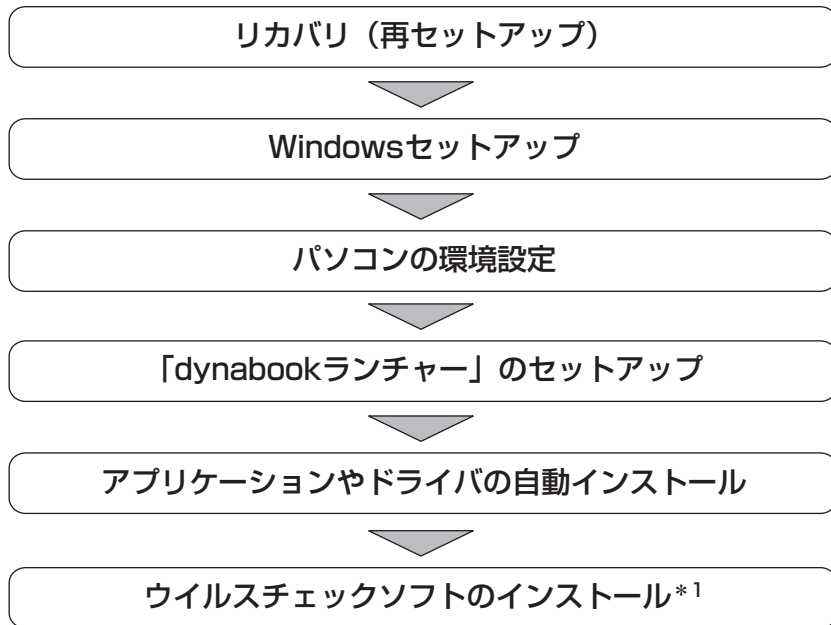
↓

「dynabookランチャー」のセットアップ

↓

アプリケーションやドライバの自動インストール

↓

ウイルスチェックソフトのインストール＊1

＊1 AX/7 シリーズの場合

ここでは、リカバリ後にのみ必要な「アプリケーションやドライバの自動インストール」について説明します。
［東芝 PC アプリケーションインストーラへようこそ］画面が表示されたら、次のように操作してください。

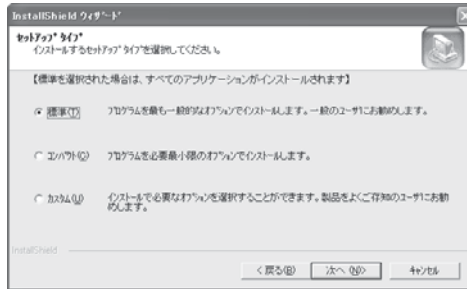
1　［次へ］ボタンをクリックする

途中でインストールを中止したり、インストールしなかったアプリケーションをあとでインストールする場合は、「本節 ② アプリケーションを再インストールする」を参照してください。

2　メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

3　「必ずお読みください」のメッセージを確認し、［はい］ボタンをクリックする

インストールを中止する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。

4 ［セットアップタイプ］を選択する

それぞれの項目の意味と動作は、次のようになります。

セットアップタイプ	説明
標準	購入時にプレインストールされていたアプリケーション＊[1]をインストールします。
コンパクト	必要最低限のアプリケーションをインストールします。
カスタム	自分でインストールするアプリケーションを選択できます。

＊１ Office 搭載モデルの Office Personal 2003、Office OneNote 2003 を除く

5 ［次へ］ボタンをクリックする

手順４で「カスタム」を選択した場合は、インストールするアプリケーションを選択する画面が表示されます。必要のないアプリケーションは、チェックをはずしてください。インストールするアプリケーションを選択後、［次へ］ボタンをクリックします。

6 メッセージを確認し、[OK]ボタンをクリックする

インストールするアプリケーションの一覧が表示されます。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

インストールを中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

インストールが開始されます。インストールが開始されると、中止できませんので、よく確認してから［次へ］ボタンをクリックしてください。

インストールが開始されます。インストールの進行状況を示すグラフ表示が 100%に達すると完了です。［東芝 PC アプリケーションインストーラの完了］画面が表示されます。

8 ［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］を選択し、［完了］ボタンをクリックする

パソコンが再起動し、アプリケーションのインストールが終了します。

メモ

参照 ウイルスチェックソフトについて「3章2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

- AX/7シリーズは、リカバリ後の状態ではウイルスチェックソフトはインストールされていません。
  ウイルスチェックソフトのインストールは、パソコンの安全上、早めにインストールすることをおすすめします。使用中に定期的に表示される［ウイルスバスター2006を今すぐインストールしますか？］画面で［今すぐインストール］ボタンをクリックするか、「アプリケーションの再インストール」でインストールしてください。
  その他のモデルは、ウイルスチェックソフトは自動的にインストールされています。
- 「東芝PCアプリケーションインストーラ」は、リカバリ（Windowsセットアップ）直後以外では使用しないでください。

参照 詳細について「本節 ③ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」

Office搭載モデルのOffice Personal 2003およびOffice OneNote 2003は、以上の手順では復元されません。同梱のCD-ROMで再インストールしてください。

ここまでで、購入時の状態の復元は完了です。パーティションの設定を変更してリカバリをした場合のみ、次項「2 パーティションを設定する」の操作を行ってください。

2 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合は、リカバリ後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

- Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

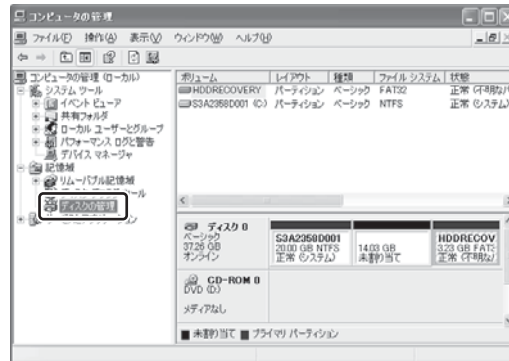
1 **コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする**

2 **［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする**

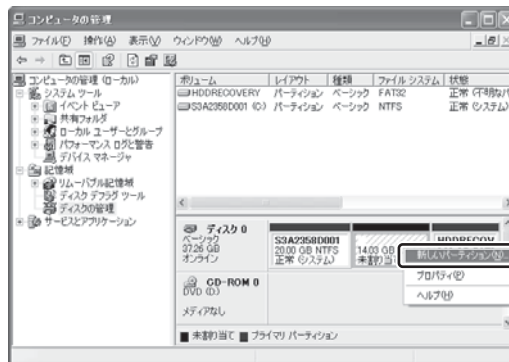
5章 買ったときの状態に戻すには ―リカバリ―

3 ［ 管理ツール］をクリックする

4 ［ コンピュータの管理］をダブルクリックする

5 左画面の［ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク 0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。
・パーティションの種類
・パーティションサイズ
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・フォーマット
・ファイルシステム

9 設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

■ヘルプの起動■

① メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

② アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。
Office搭載モデルのOffice Personal 2003およびOffice OneNote 2003は、リカバリ後に同梱のCD-ROMで再インストールする必要があります。「本節 ③ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする」を確認してください。

■必要なもの■

●『セットアップガイド』（本書）、《オンラインマニュアル》

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

アプリケーションによっては、再インストール時にID番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

「プログラムの追加と削除」について《オンラインマニュアル（検索）：アプリケーションの追加と削除》

1 操作手順

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

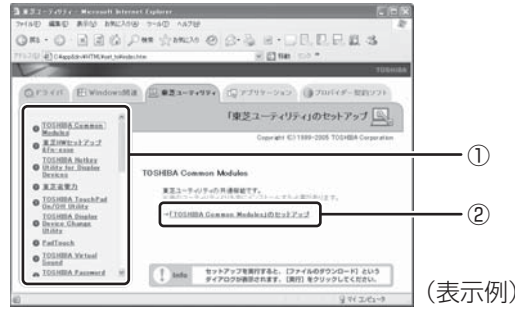
アプリケーションやドライバのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、［ドライバ］タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。
画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。
画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

3 画面左側のアプリケーション名を選択し①、画面右側の「XXX のセットアップ」をクリックする②

説明文の下の青い下線の引かれている言葉をクリックしてください。

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。

（表示例）

4 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、「実行」ボタンをクリックしてください。

③ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする

＊ Office 搭載モデルの場合

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合は Office Personal 2003 をインストールする必要があります。
ここでは、Office Personal 2003 および Office OneNote 2003 を再インストールする方法を説明します。

■必要なもの■

同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式
- Microsoft® Office OneNote® 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法

詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド』、『Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に』を確認してください。

■「読み上げ」および「声で入力」について■

「読み上げ」および「声で入力」の組み込み方法は、『LaLaVoice ヘルプ』の「マクロのインストール／アンインストール」を確認してください。

- LaLaVoice のヘルプの起動方法

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［LaLaVoice］→［LaLaVoice ヘルプ］をクリックする

アプリケーションの再インストール「本節 ② アプリケーションを再インストールする」

■Service Pack2について■

添付のCDからOffice Personal 2003、Home Style+、Office OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack2は組み込まれません。「アプリケーションの再インストール」から再インストールしてください。

■「手書き入力パッド」を使用するとき■

Office Personal 2003を再インストールした場合、Microsoft Office WordやMicrosoft Office Excelなどのアプリケーションを使用するときに、IMEツールバーの［手書き］ボタン-［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。
言語の入力システム（MS-IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

6 章

デイリーケアとアフターケア
－廃棄と譲渡－

この章では、パソコンの日ごろのお手入れや、保守や修理に関することを説明しています。
バッテリの廃棄やパソコン本体を捨てるときや人に譲るときの処置について知っておいて欲しいことを説明しています。

1 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

① 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
東芝ID（TID）は、複数のデジタル商品、および東芝オンラインショッピングサイト「Shop1048」で共通にご利用いただけるお客様専用IDです。Room1048登録対象の東芝デジタル商品をご購入されたかたが対象で、インターネット経由でご登録いただけます。

「Shop1048」でご購入の際にお手続きのなかで、TIDをご登録いただいたお客様や、別のデジタル商品でご登録になり、すでにTIDをお持ちのかたは、あらためてご登録いただく必要はありません。商品の追加登録を行ってください。また、TIDをご登録後は、商品同梱のお客様登録はがきでのご登録は不要です。

【 東芝ID（TID）でご利用いただけるサービス 】

- お客様専用個人ページ「Room1048（ルームトウシバ）」をご利用いただけます。
- PCオンラインによるメールでの技術相談をお受けいたします。
- アンケートなどでご取得いただくポイントで、プレゼントの抽選にご応募いただけます。
- 「Shop1048」でお買い物時には、便利でお得なTID会員メニューをご利用いただくことができます。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

お願い

ご登録にあたって

- TID登録には、メールアドレスが必要です（携帯電話のメールアドレスはご遠慮ください）。
- 上記のサービス項目のうち、個人ページおよびポイント制度については、個人のお客様のみ対象となります。
- ご登録住所は、日本国内のみに限らせていただきます。
- この記載内容は2005年10月現在のものです。内容については、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法 1 -［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法■

インターネットを利用して登録する方法です。登録用のホームページに簡単にアクセスできます。
「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用しますので、インターネット接続の設定やインターネットプロバイダと契約をしていないかたでも登録できます。
この操作の前に、モジュラーケーブル（市販）を用意してください。

■方法 2 - インターネットからのご登録方法■

インターネットに接続後、URL を入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
すでにインターネット接続の設定がしてあり、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

参照　インターネット接続「3 章 3 インターネット接続の設定をする」

■方法 3 - インターネットにすぐに接続されないお客様■

まだインターネット接続の予定がないかたは、『お客様登録カード』（はがき）で仮登録を行ってください。後日インターネットで正式な TID 登録を行っていただく必要があります。

商品の追加登録は「方法 1」または「方法 2」で行います。
続けてそれぞれの登録方法を紹介します。

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしていない場合に、本製品に添付のアプリケーション「いきなりインターネット」の無料体験機能を利用して、TID 登録を行う方法を説明します。接続時間に応じた電話使用料金が電話会社より請求されますので、あらかじめご了承ください。

お願い

操作にあたって

あらかじめ、次のことを行ってください。

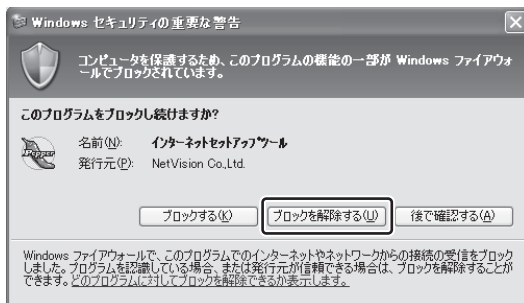
- コンピュータウイルスへの感染を防ぐために、ウイルスチェックソフトをインストールし、有効状態に設定しておいてください。

  参照「3 章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

- 電話回線のタイプ（パルス、またはトーン）を確認しておいてください。
- モジュラーケーブル（市販）を接続しておいてください。

  参照『活用ガイド 2 章 1-② ダイヤルアップで接続する』

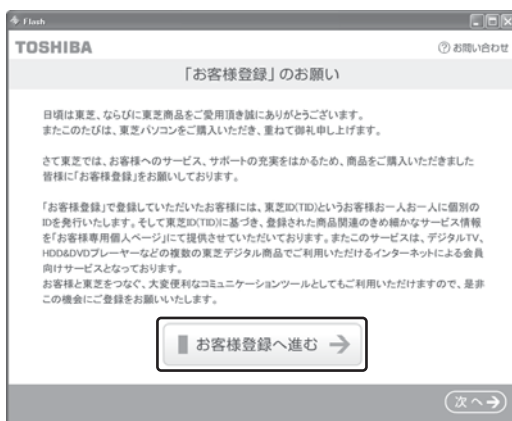
- 複数のユーザを登録している場合は、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで操作してください。「いきなりインターネット」は「制限付きアカウント」では使用できません。

- 操作の途中で、［Windows セキュリティの重要な警告］画面が表示された場合は、［ブロックを解除する］をクリックしてください。

インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面がこの他にも表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、［Yahoo! ツールバー］画面が表示されます。
「Yahoo! ツールバー」を利用する場合は、［利用規約を表示］ボタンをクリックし、利用規約を確認したあと［Yahoo! ツールバーを利用する］ボタンをクリックしてください。利用しない場合は、［利用しない］ボタンをクリックし、あとで「Yahoo! ツールバー」をアンインストールしてください。「Yahoo! ツールバー」については、≪オンラインマニュアル（検索）：Yahoo! ツールバー≫を確認してください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。

2 内容を読んで［お客様登録へ進む］ボタンをクリックする

3 内容を読んで接続する状況に合ったボタンをクリックする

■インターネット接続の設定をしていない場合■

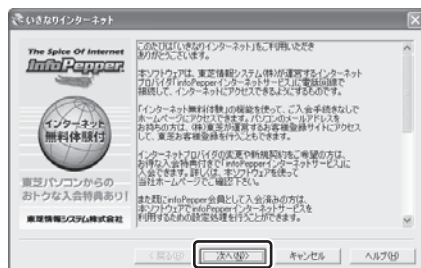
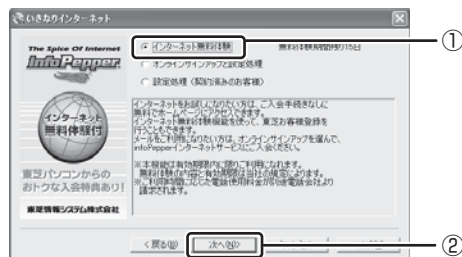
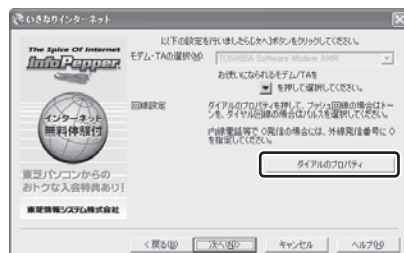
［インターネットアクセス環境をお持ちでない方はこちらをクリック］をクリックしてください。

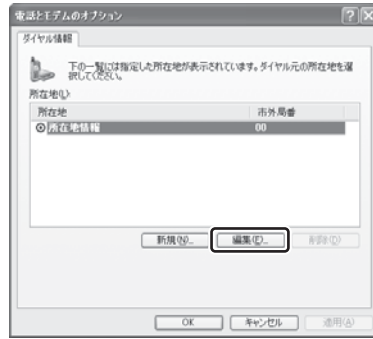
「いきなりインターネット」が起動します。手順４へ進んでください。

■すでにインターネット接続の設定がしてある場合■

「本項 2 インターネットからのご登録方法」の手順 2 をご覧のうえ、TID 登録を行ってください。

「いきなりインターネット」が起動し、infoPepper 紹介画面が表示されます。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

5 ［インターネット無料体験］を選択し①、［次へ］ボタンをクリックする②

6 ［ダイアルのプロパティ］ボタンをクリックする

［電話とモデムのオプション］画面が表示されます。

7 ［編集］ボタンをクリックする

［所在地の編集］画面が表示されます。

8 ［全般］タブで、［ダイヤル情報］と［ダイヤル方法］を設定し①、［OK］ボタンをクリックする②

タイプがわからないときは、受話器を持ち上げてダイヤルしたときに「ピポパ」という発信音の場合は［トーン］、「カチカチカチ」という発信音の場合は［パルス］を選択してください。発信音で判断しにくい場合は、ご契約の電話会社にお問い合わせください。

お使いの電話回線のタイプに合わせて［トーン］または［パルス］を選択してください。

「外線発信番号」は、外線発信するために、電話番号の前に特定の数字を入力する必要がある場合のみ設定してください。一般家庭では設定の必要はありません。

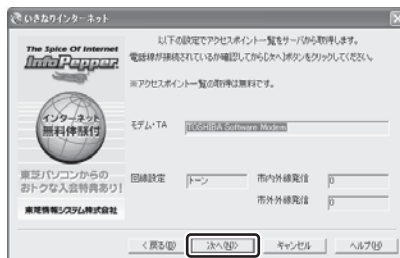
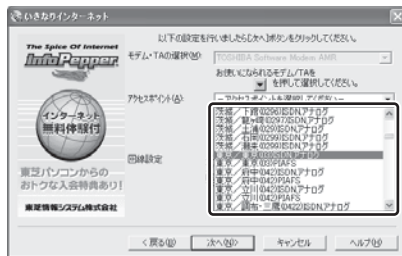
9 ［電話とモデムのオプション］画面の［OK］ボタンをクリックする

10 ［次へ］ボタンをクリックする

11 ［次へ］ボタンをクリックする

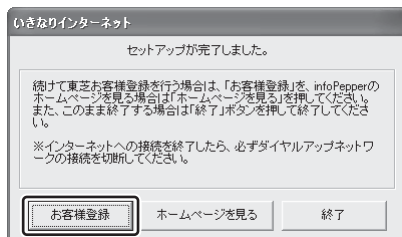
インターネットへの接続を開始します。
「infoPepper」のサーバに接続し、アクセスポイント一覧を自動的に取得します。
取得を完了すると、自動的に接続が切断されます。

12 ［アクセスポイント］の ▼ をクリックして表示された一覧から、アクセスポイントを選択する

お住まいの場所に最も近い地名／市外局番のアクセスポイントを選択してください。

画面は、［東京／東京（03）ISDN, アナログ］を選択した場合の表示例です。

13 ［次へ］ボタンをクリックする

14 ［完了］ボタンをクリックする

［セットアップが完了しました。］画面が表示されます。

15 ［お客様登録］ボタンをクリックする

インターネットへの接続を開始します。
Internet Explorer が起動し、［東芝お客様登録］画面が表示されます。

16 ［東芝 ID（TID）サービスはこちら］をクリックする

東芝 ID（TID）のホームページに自動的にアクセスします。

17 ［東芝 ID（TID）新規登録・商品追加登録］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

［セキュリティ警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

18 初めてTIDをご登録される場合は、[新規TID登録に進む]ボタンをクリックする

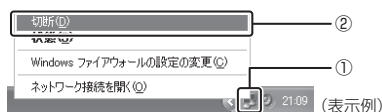
画面のご案内に従ってご登録いただきますと、TIDを発行いたします。
すでに他商品でTIDを取得されたかたは、TID、パスワードを入力し、[商品追加登録に進む]ボタンをクリックしてください。商品の追加登録を行っていただくことができます。

役立つ操作集

インターネットへの接続を終了するには

TID登録を完了したあとは、インターネットへの接続を終了してください。

① 通知領域の[接続]アイコン( )を右クリックする
② 表示されたメニューから[切断]をクリックする
接続が終了すると通知領域の[接続]アイコン( )が消えます。

(表示例)

[スタート]→[接続]→[infoPepper XX(接続先)]をクリックし、[infoPepper XX(接続先)の状態]画面で[切断]ボタンをクリックして、切断することもできます。

2 インターネットからのご登録方法

1 「http://room1048.jp/」にアクセスする

2 [東芝ID(TID)新規登録・商品追加登録]欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

画面のご案内に従ってください。

- 初めてTIDをご登録される方
  [新規TID登録に進む]ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、TIDを発行いたします。
- すでに他商品でTIDを取得された方
  TID、パスワードを入力し、[商品追加登録に進む]ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

3 インターネットにすぐに接続されないお客様

同梱の『お客様登録カード』(はがき)に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝TID事務局より、「お客様登録番号」とTID登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットからTIDをご登録ください。
TIDはインターネットからのご登録受付になります。

- 初めてTIDをご登録される方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、[「お客様番号」をお持ちのお客様]ボタンをクリックし、通知はがきに記載されている「お客様登録番号」と「仮パスワード」を入力してTID登録を行ってください。
- すでに他商品でTIDを取得された方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、「Room1048」にログインしたあと、[登録情報変更]→[ハガキを受け取られたお客様]を選択してください。

お願い

- TID 登録時点でお客様登録番号は無効となります。TID でのサービス・サポートをご利用ください。
- TID をご登録にならない場合は、お問い合わせなどの際にお客様登録番号が必要になることがありますので、はがきをお手元に保管してください。

② その他のユーザ登録

1 その他のアプリケーションのユーザ登録

パソコンに用意されている他のアプリケーションのユーザ登録については、同梱の『ユーザ登録用紙』または各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については、『活用ガイド 6 章 5 問い合わせ先』を確認してください。

2 快適に使い続けるコツ

パソコンと長くつきあうために、あらかじめ知っておいていただきたい内容を紹介します。
ここで紹介している以外にも、各マニュアル冊子をお読みになり、パソコンを正しくお使いください。

1 使える周辺機器を確認しよう

参照 周辺機器について『活用ガイド 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

パソコンには、プリンタやスキャナ、PC(ピーシー)カードなどの周辺機器を接続することができます。周辺機器を接続することによって、より便利にパソコンを活用できます。
ただし、周辺機器はインタフェース(接続方式)が違うと接続できません。
購入するときは、マニュアルで本製品のインタフェースを確認のうえ、本製品で使用できるかどうかを周辺機器の取り扱い元や販売店で確認してください。

2 ちょっとおかしな動作のとき

『安心してお使いいただくために』に、本製品を使用するときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
次のようなトラブルが生じた場合は、手順に従って修理に出してください。
故障した状態のままで使用しないでください。

- パソコンを使用中に煙が出た
- 異常な音がした
- 臭いがした
- 水がかかってしまった
- パソコンを落とした

■修理に出すまで■

参照 バッテリパックの取りはずしについて『活用ガイド 4章 バッテリ駆動で使う』

参照 修理の問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

① すぐに電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜く
② 安全を確認して、バッテリパックをパソコン本体から取りはずす
③ 修理に出す

3 パソコンと上手に付き合おう

詳細について
『安心してお使いいただくために』

パソコンを長時間使うと、目や肩、首の疲れが気になります。
次のことに注意してください。

- 目を疲れさせないために、ディスプレイ（表示装置）が目の高さより低くなるように置いてください。
- キーボード（入力装置）は肘よりも下にくるよう、椅子の高さを調節してください。
- 前にかがんだり背もたれに寄りかからないよう、姿勢に注意してください。
  特に首や肩の疲れを防ぐため、背中を楽にして入力することが大切です。
  椅子の位置などを調節しておきましょう。
- 長時間、ディスプレイ（表示装置）を見続けないようにしてください。
  15分ごとに30秒ぐらいの割合で遠くを見るようにしましょう。

3 日常の取り扱いとお手入れ

⚠注 意

- **お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと**
  電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

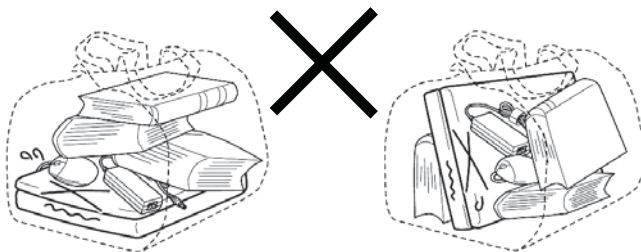
1 パソコン本体／ AC アダプタ／電源コード

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、AC アダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
  あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
  中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。＊1
  温度 5 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80％
  ＊ 1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリをふき取ってください。

ちょっと待って。持ち運びですか？

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD ／ DVD がセットされている場合は取り出してください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。

- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。
- 各スロットにメディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面が AC アダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れかたをしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

2 キーボード

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

3 タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

4 液晶ディスプレイ

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが張られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

参照 スクリーンセーバーの設定『ヘルプとサポートセンター』

- スクリーンセーバーを設定する

参照 東芝省電力《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

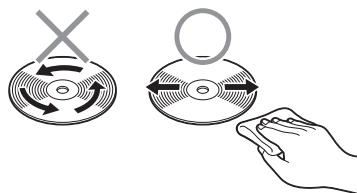
- 「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です）。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

5 CD ／ DVD

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。
  データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面／レーベル面ともにラベルを張らないでください。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。ボールペンなどの硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにしてください。乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

6 デフラグ（ディスクの最適化）について

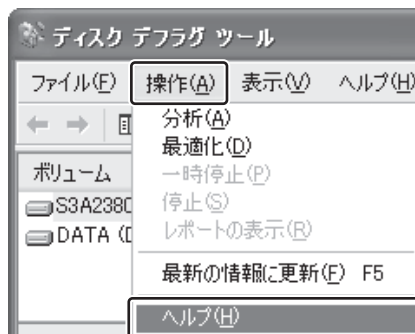
デフラグとは、ハードディスクにあるファイルを先頭から再配置して、ファイルの分割状態を解消し、連続した空き容量を増やす作業のことです。
このパソコンでは「ディスク デフラグ ツール」を使用して、ハードディスクにある断片化されたファイルやフォルダ、ハードディスクの空き容量を整理統合して、より効率的にファイルやフォルダにアクセスしたり、新しく作成するファイルやフォルダを断片化されないように保存することができます。

「ディスク デフラグ ツール」の起動方法

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システム ツール］→［ディスク デフラグ］をクリックする

「ディスク デフラグ ツール」の使いかたについては、「ディスク デフラグ ツール」のヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

［ディスク デフラグ ツール］画面で、メニューバーの［操作］をクリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

4 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- リカバリ（再セットアップ）ツール
- インターネットのお気に入り
- 自分で作成したデータ　など

操作方法については、「4 章 大切なデータを失わないために」を確認してください。

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日に約 8 時間、1ヵ月で 25 日のご使用で約 5 年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、24 時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換(有料)が必要となります。

■対象品名■

本体液晶ディスプレイ*1、ハードディスクユニット、CD/DVD ドライブ*2、フロッピーディスクドライブ*2、キーボード、タッチパッド、マウス*3、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部（ヒンジ）*4、AC アダプタ

＊1　工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。
＊2　それぞれ内蔵されているモデルが対象です。
＊3　同梱されているモデルが対象です。
＊4　液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

社団法人 電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503parts/index.html

消耗品について

■バッテリパック■

参照　バッテリパックについて『活用ガイド 4 章 1 バッテリについて』

バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックと交換してください。
別売りのバッテリパックと交換する前に、必ず指定の製品（型番）を確認してください。

付属品について

付属品（バッテリパック・ACアダプタ等）については、「東芝パソコンシステム・オンラインショップ」でご購入いただけます。

■東芝パソコンシステム・オンラインショップ■

TEL　　：043-277-5025
受付時間：10:00～12:00　13:00～17:00
　　　　　（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
URL　　：http://shop.toshiba-tops.co.jp

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヵ月です。

5 捨てるとき／人に譲るとき

① バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、
充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを
張ってください。

Li-ion

■バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先■

有限責任中間法人 JBRC
TEL：03-6403-5673
URL：http://www.jbrc.com

② パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。
（本製品は、LCD 表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。また、鉛を含む部品が使われています。）

■ PC リサイクルマークについて■

リサイクル

PC リサイクルマーク
製品本体の型番を表示しているシール（本体裏面）に印刷表示します。

1 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。
東芝は、PC リサイクルマークが表示されている東芝製パソコンは無料で回収と適切な再資源化処理を実施します。

■パソコン回収受付窓口■

東芝 dynabook リサイクルセンタ

■回収方法■

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
  URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm（24 時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合
  東芝 dynabook リサイクルセンタ
  TEL　　：043-303-0200
  受付時間：10：00 ～ 17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
  FAX　　：043-303-0202（24 時間受付）

■回収・再資源化対象機器■

ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体)、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

＊出荷時に同梱されていた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。
ただし、周辺機器（プリンタ他)、マニュアル、CD-ROM などの媒体は回収の対象外です。

2 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PC リサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

■お問い合わせ先■

東芝パソコンリサイクルセンター
TEL　　：045-510-0255
受付時間：9：00～17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX　　：045-506-7983（24 時間受付）

■東芝ホームページでご紹介■

URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆ データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆ 再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、標準添付しているハードディスクデータ削除機能や市販されている専用ソフトウェア、有償サービスの利用や、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認をする必要があります。

参照 「本項 5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。
この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

4 お客様登録の削除について

● ホームページから削除する

東芝 ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。

① インターネットで「http://room1048.jp/」へ接続する
② ページ左側の［東芝 ID（TID）］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする
お客様専用ページにログインします。
③ ページ右上の［登録情報変更］をクリックする
［登録情報変更メニュー］画面が表示されます。
④［退会］をクリックし、登録を削除する

※ 退会ではなく、商品の削除のみのお客様は「登録情報変更」メニューで、商品削除を行ってください。

※ TID を退会されますと、「Shop1048」での TID 会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

● 電話で削除する

「東芝 ID 事務局（お客様情報変更）」までご連絡ください。

● 東芝 ID 事務局（お客様情報変更）

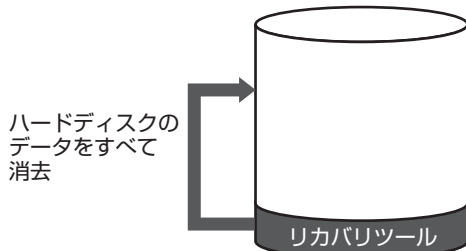
TEL　　　：0570-09-1048
受付時間 ：10：00 ～ 17：00（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

法人のお客様の場合は、ログインで表示される画面が異なります。
登録情報の変更および退会は「登録情報変更」のメニューで、ご自身で行っていただくことがありますが、商品の削除ができませんので、その場合は東芝 ID 事務局までお電話でご連絡くださいますようお願いいたします。

● 詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

5 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（ハードディスクのリカバリツールを使用する場合）

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、ハードディスクのリカバリツールまたは作成したリカバリディスクを使用します。
ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
作成したリカバリディスクを使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。
ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクから行う場合は、手順 1 の前にリカバリディスク（ディスク 1）をセットしてください。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

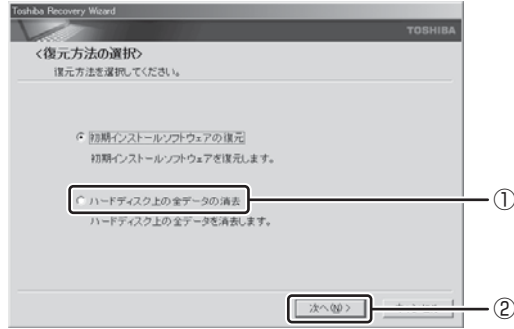
3 キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、「dynabook」画面が表示されてから手をはなす

■リカバリディスクをセットしている場合■

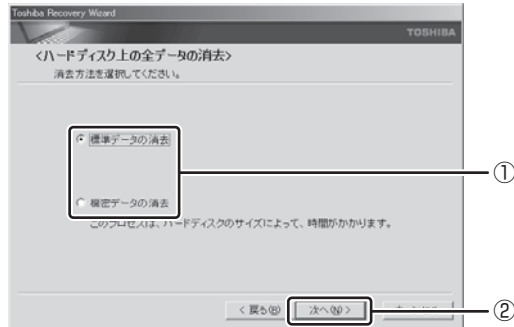
電源スイッチを押し、電源を入れた直後にキーボードのF12キーを押します。
その後、↓↑または←→キーでドライブを選択し、ENTERキーを押してください。
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。ユーザパスワードを入力して、ENTERキーを押してください。

＊AX/7 シリーズの場合
Cキーを押しながら電源スイッチを押し、「dynabook」画面が表示されたらCキーから手を離します。

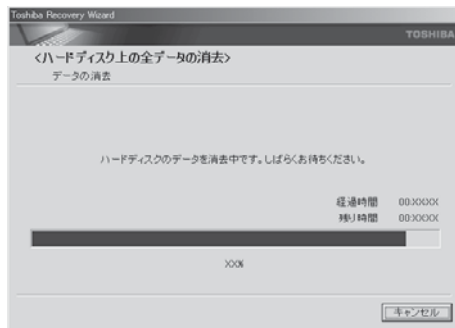
［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 ［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

消去方法を選択する画面が表示されます。

5 目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
消去が実行されます。
消去中は、次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

7 ［終了］ボタンをクリックする

リカバリディスクから行った場合は、自動的にディスクトレイが開きます。リカバリディスクを取り出してください。

付 録

用語集

本書で使われている用語について説明しています。本書を読み進めるために活用してください。

記号・アルファベット

CD（CD-R、CD-RW、CD-ROM）

コンパクトディスク（Compact Disc）の略で、動画、音声、データなどをデジタル記録できる規格です。

CD-R（Recordable）は1回のみ書き込み、CD-RW（Rewritable）は1度書き込んだものを削除して、書き換えたりできます。

CD-ROMは、パソコンのデータなどが収録されているもので、データを読み出すのみです。

DVD（DVD-R、DVD-R DL、DVD+R、DVD+R DL、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM、DVD-ROM）

デジタル多用途ディスク（Digital Versatile Disc）の略で、動画、音声、データなどをデジタル記録できる規格です。CDよりも記録できる容量が多いので、映画、音楽、ゲームなどが収録できます。

DVD-R、DVD-R DL、DVD+R、DVD+R DL（Recordable）は1回のみ書き込み、DVD-RWやDVD+RW（Rewritable）は1度書き込んだものを削除して、書き換えることができます。

DVD-ROMはパソコンのデータなどが収録されているもので、データを読み出すのみです。

DVD-RAMは、読み出し／書き込みの両方ができます。

DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）とは、DVD-RやDVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。既存の1層のDVD-RメディアやDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD-Rメディア、DVD+Rメディアの時が約2時間分ならDVD-R DL、DVD+R DLは約3.6時間分の記録が可能になります。

LANケーブル

一般的に、LAN（家庭や企業などの小規模なネットワーク）のなかで、パソコンと接続先のネットワーク機器をつなぐ接続方法をブロードバンド接続と呼びますが、その接続を行うときに使うケーブルのことです。

LANケーブルにはクロスケーブルとストレートケーブルがあり、LANの接続方法などで使用するケーブルが違ってきます。

モジュラーケーブルと形状が似ていますが、プラグが少し大きいものが付いています。

LED（Light Emitting Diode）

電源やバッテリなどに関するランプ表示のことで、色や点灯状態を見て、パソコン本体の状態を確認できます。

OS（オペレーティングシステム）

パソコンを動かしている基本ソフトのことです。パソコン用では、代表的なものにWindows、Mac OS（マッキントッシュ）、Linuxなどがあります。

Windows

マイクロソフト社製のパソコン用基本ソフト（OS）のことです。

Windows Update

インターネットに接続して、マイクロソフト社が提供する専用ホームページからWindows機能を強化するための各種プログラムをダウンロードできる機能です。定期的に更新することをおすすめします。

あ行

アイコン

ソフトやファイル、フォルダなどの作業内容を絵で表したものです。

アカウント

パソコンやネットワークなどに接続する際に必要なID（識別番号）のことで、本来は「取り引き」や「権利」という意味があり、「アカウントを持っている」というと、インターネットなどにつながるための権利があるということになります。ユーザIDまたはIDともいいます。

参照 「本節 ユーザアカウント」

アクセス
インターネットなどのネットワークに接続したり、フロッピーディスクやハードディスクのデータを読み書きしたりすることです。

アクティブ
現在使用中、使用可能、動作中などを意味します。例えば、操作の対象となっている画面のことを「アクティブウィンドウ」といったりします。

アップグレード
ソフトをより新しいバージョンへ切り替えることです。「バージョンアップ」ともいいます。

アップデート
ソフトやデータを新しいものに置き換える作業のことです。操作上の不具合を解消するための修正や、小さなプログラムのミス(バグ)の解消も含みます。

アプリケーション(アプリケーションソフト)
コンピュータを動かしたり、コンピュータで作業したりするためのプログラムのことです。ワープロや表計算などの特定の目的に使うソフトウェアの総称です。

アンインストール
パソコンに組み込んだ(インストールした)ソフトを削除することです。

参照 「本節 インストール」

インストール
フロッピーディスクやCD-ROMなどからソフトをパソコンに組み込んで設定することです。

参照 「本節 アンインストール」

インターネット
世界中のコンピュータをネットワークでつないだ世界規模のコンピュータ通信網のことです。インターネットに接続することで、ホームページを見たり、電子メールを使ったりできます。

インタフェース
コンピュータと周辺機器を接続して、データのやり取りを行うための方式(接続方式)のことをいいます。

ウィザード
画面の案内にしたがって「はい」「いいえ」など、項目を選択するだけで複雑な設定が比較的簡単にできる機能のことです。

ウイルス(コンピュータウイルス)
コンピュータに悪影響を及ぼすことを目的として作られたプログラムのことです。メールの中に潜んで送られることが多く、パソコンに侵入する(感染する)とプログラムを勝手に書き換えたり、データを破壊したりします。

ウィンドウ
フォルダやソフトウェアを起動したりすると開く枠(画面)のことです。

上書き(保存)
(うわがき)

以前作成したデータファイルに修正/追加などの編集作業をしたあと、同じファイル名で保存することです。上書きすると、編集前の内容は消え、編集後の内容に置き換えられます。

か行

カーソル
画面上で文字入力できる位置を示すマークのことです。入力したい位置にポインタを移動してクリックすると、ポインタがカーソルに変わり、入力できるようになります。

参照 P.18、「本節 ポインタ」

拡張子
(かくちょうし)

ファイル名のあとに「.」(ピリオド)で区切って付けられる英数字のことで、ファイルの種類を表します。例えば、プログラムファイルの場合は「exe」、テキストファイルの場合は「txt」になります。

参照 「本節 ファイル」

起動
(きどう)

パソコンの電源を入れて使える状態にすること、またはソフトウェアを呼び出して使える状態にすることで、「立ち上げ」「ブート」ともいいます。

参照 「本節 再起動」

クリック
画面上のポインタを目的の位置にあわせて、マウスやタッチパッドなどのボタンを1回押してすぐ離す操作のことです。

参照 P.16、「本節 ダブルクリック」

コネクタ
パソコン本体や周辺機器にあるケーブルの差し込み口のことで、「ポート」ともいいます。

付録

コンピュータウイルス

 「本節 ウイルス」

さ行

再起動（さいきどう）

すでに電源の入っているパソコンやソフトをいったん終了して、すぐに再び立ち上げる（起動する）操作のことです。新しいソフトをパソコンにインストールしたときなど、設定を変更したあとに設定を有効にするには、この操作をする場合があります。

参照 P.26、「本節 起動」

最小化（さいしょうか）

開いている画面（ウィンドウ）をタスクバーの中に収容することです。

最大化（さいだいか）

開いている画面（ウィンドウ）をディスプレイいっぱいに表示させることです。

周辺機器（しゅうへんきき）

パソコン本体以外の機器のことで、パソコンに接続して使います。プリンタ、マウス、外付けハードディスクなどがあります。

ショートカット

使用頻度の高いソフトやファイルのアイコンのコピーを作成し、すぐ使えるようにする機能です。

スクロール

長い文章や大きな表などの場合、画面に表示しきれず、隠れている部分を画面に表示する操作のことです。

スタンバイ

現在の状態を保ったままパソコンを一時休止する機能のことです。通常の「終了・再起動」よりも短時間で同じ状態を再現できます。

セキュリティ

コンピュータウイルスやインターネット上の誰かが自分のパソコンに侵入するのを防ぐことです。

セットアップ

パソコンに新しい機器やソフトを組み込んで、使用できる状態にすることです。

外付け（そとづけ）

パソコン本体の外に接続して使う機器のことで、フロッピーディスクドライブや外付けハードディスクなどがあります。

 「本節 周辺機器」

ソフトウェア（ソフト）

 「本節 アプリケーション」

た行

ダイヤルアップ接続

インターネットを利用する際、電話回線を使って、必要なときだけ接続する方法です。

ダウンロード

インターネットを使って、別のコンピュータからプログラムやファイルなどのデータを自分のパソコンに送る（転送する）操作です。

タッチパッド

パッドの上を指などでなぞってポインタを動かし、パソコンを操作するパッドのことです。

 P.16

タブ

ワープロソフトなどの文書作成ソフトであらかじめ設定しておいた位置にカーソルをワンタッチで移動する機能です。
また、設定画面など、複数の画面が重なっている画面の見出し部分のことをさします。目的のタブをクリックすると、クリックしたタブの画面が1番手前に表示されます。

ダブルクリック

画面上のポインタを目的の位置にあわせて、マウスやタッチパッドなどのボタンを2回続けて素早く押す（クリックする）操作のことです。

 P.41、「本節 クリック」

データ

文字、画像、音、映像などのパソコンで使用する情報の総称です。

デスクトップ

Windows（ウィンドウズ）を立ち上げて最初にでる基本画面のことです。

デバイス

一般的には、フロッピーディスクドライブ、プリンタなどの周辺機器のことです。パソコン内部の電子部品をさす場合もあります。

電子メール

ネットワークを利用して特定の相手と文書をやり取りする機能のことです。単に「メール」と呼ぶこともあります。電子メールにデータを添付して、画像やソフトなどを送ることもできます。

ドライバ

パソコンに接続されている周辺機器などを使うために必要なソフトのことで、「デバイスドライバ」ともいいます。プリンタを接続したときに読み込むプリンタドライバなどがあります。

ドラッグアンドドロップ

対象にポインタを合わせてタッチパッドやマウスのボタンを押し、押したままポインタを目的の場所まで移動し、ボタンを離すことです。ファイルの保存場所を移動させる場合に使うと、簡単に移動ができ便利です。

な行

内蔵

パソコン本体の内部に取り付けられていることをさします。

参照 「本節 外付け」

ネットワーク

インターネットやLANなど、複数のパソコンを繋ぐ通信網のことです。

は行

バージョン

アプリケーションを改良した回数を表します。一般的には、版の数字が大きいほど新しいものになります。

ハードウェア

ソフトウェアに対して、パソコン本体や周辺機器など、形のあるものをさします。

ハードディスク（ドライブ）

HD、HDDとも表記されます。アプリケーションや文書、画像などのファイルを保存しておく装置のことです。パソコン本体内部に取り付けられている内蔵型と、i.LINK（IEEE1394）コネクタやUSBコネクタなどに接続して使う外付け型があります。

パスワード

本人であることを確認するための暗証番号のことです。本人しか知らない文字と数字の組み合わせを使用します。

バックアップ

ファイルやフォルダを誤って削除してしまったり、トラブルで消失してしまった場合に備えて、保存している記憶装置（ハードディスクなど）とは別に、他の記憶装置または記憶メディア（フロッピーディスクやCD-RW、DVD-RAMなど。使用できるメディアはモデルにより異なります）にもあらかじめコピーしておくことです。

参照 P.88

ファイアウォール

本来は「防火壁」の意味で、パソコンをインターネットに接続する場合に、外部から不正侵入されないための防御システムのことです。

ファイル

パソコンで扱う情報を分類してまとめたものの単位のことです。文書、画像、音楽、プログラムなどは、それぞれファイルとしてパソコンに保存します。

フォーマット

フロッピーディスクやSDカードなどをパソコンで使えるように準備することです。一度使用したものを再フォーマットすると、その中に保存されていた情報はすべて消去されます。
または、表計算やワープロソフトの書式のことや、データの記録方式や保存されたファイルの形式をさします。

フォルダ

ファイルを保管しておく入れもののことです。フォルダには自分で名前を付けることができます。また、フォルダの中にフォルダを作成することもできます。

プレインストール

あらかじめソフトが組み込まれていることです。自分でインストールする必要がありません。

プログラム

パソコンを動かすための命令のことです。ソフトウェアとほぼ同じ意味で使われる場合もあります。

ブロードバンド接続

ダイヤルアップ接続よりも多くのデータを一度に送受信できる通信形式を利用した接続です。ADSL接続、FTTH接続、ケーブルテレビ接続などがあります。接続料金は定額性です。

プロバイダ

インターネット・サービス・プロバイダ（ISP）のことです。インターネットの接続の窓口となる会社のことです。

プロパティ

「性質」「特性」の意味の言葉で、指定されたものの特性をあらわす表示のことです。例えば、「ファイルのプロパティ」には、ファイルの大きさ、作られた日時、作成者などの情報が収められています。

ヘルプ（オンラインヘルプ）

パソコンの画面上で見ることができる説明書のことです。一般的に、操作方法や困ったときの解決方法などが掲載されています。

ポインタ

パソコンの画面上に表示される のことで、タッチパッドやマウスの操作に合わせて動きます。画面上の一点を指示するための目印です。

参照 P.16

ま行

マウス

パソコンを操作するために使う周辺機器のことです。形がネズミに似ているためこう呼ばれています。

右クリック

タッチパッドまたはマウスの右ボタンを押すことです。

メールアドレス（アドレス）

メールをやりとりするための「あて名」のことで、手紙の「住所・氏名」にあたるものです。

メディア

フロッピーディスクやSDカード、CD-Rなど、「データを書き込むもの」をさします。

モジュラーケーブル

ダイヤルアップ接続を行うときに使うケーブルです。

参照 「本節 ダイヤルアップ接続」

モデム

一般の電話回線（アナログ回線）でインターネットに接続するときに必要な機器で、パソコンのデータ（デジタル信号）を電話回線で送れるようにアナログ信号に変換したり、送られてきたデータをデジタル信号に戻したりします。外付け型、内蔵型、PCカード型などの種類があります。

や行

ユーザアカウント

パソコンを使用する人の名前のことです。ユーザアカウントを個別に登録することで、個人ごとの環境を設定することができ、1台のパソコンを複数の人で使い分けるときに便利です。

ら行

ライセンス

Windows（ウィンドウズ）などのシステムや、ソフトウェアを使用する権利のことです。

ログイン／ログオン

Windows（ウィンドウズ）の使用を開始することです。
または、ネットワークに接続することをさす場合もあります。

参照 「本節 ログオフ／ログアウト」

ログオフ／ログアウト

Windows（ウィンドウズ）の使用を終了することです。
または、ネットワークとの接続を終了することをさす場合もあります。

参照 「本節 ログイン／ログオン」